SH-02B

取扱説明書　’10.7

docomo STYLE series

ドコモ W-CDMA･GSM／GPRS方式

このたびは､｢docomo STYLE series SH-02B｣をお買い上げいただきまして､まことにありがとうございます｡SH-02Bをご利用の前に､本書をご覧になり､正しくお取り扱いください｡

SH-02Bの操作説明について

SH-02Bの操作は､本書のほかに､｢サポートブック｣(本FOMA端末に搭載)や｢取扱説明書(詳細版)｣(PDFファイル)で説明しています｡

■｢取扱説明書｣(本書)

画面の表示内容や基本的な機能の操作について説明

■｢サポートブック｣(本FOMA端末に搭載)

よく使われる機能の概要や操作について説明

SH-02Bから 待受 ▶[サポートブック]▶メニューや項目を選ぶ▶◎

■｢取扱説明書(詳細版)｣(PDFファイル)

すべての機能の詳しい案内や操作について説明

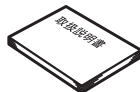
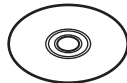
パソコンから ドコモのホームページでダウンロード

http://www.nttdocomo.co.jp/support/trouble/manual/download/index.html

※ 本書の最新情報もダウンロードできます｡なお､URLおよび掲載内容については､将来予告なしに変更することがあります｡

本体付属品について

SH-02B本体
(保証書･リアカバー SH35含む)

電池パック
SH21

取扱説明書
(本書)

SH-02B用
CD-ROM

● 本FOMA端末に対応したオプション品については☞P.83

● 本書では､主にきせかえツールの設定が本体色｢Silver｣の場合で説明しています｡
● 本書に記載している画面やイラストはイメージです｡実際の製品とは異なる場合があります｡
● この『SH-02B取扱説明書』の本文中においては､｢SH-02B｣を｢FOMA端末｣と表記させていただいております｡あらかじめご了承ください｡
● 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています｡
● 本書の内容に関して､将来予告なしに変更することがあります｡

目次

FOMA端末について

- FOMA端末は無線を使用しているため、トンネル・地下・建物の中などで電波の届かないところ、屋外でも電波の弱いところおよびFOMAサービスエリア外ではご使用になれません。また、高層ビル・マンションなどの高層階で見晴らしのよい場所であってもご使用になれない場合があります。なお、電波が強くアンテナマークが3本表示されている状態で、移動せずに使用している場合でも通話が切れる場合がありますので、ご了承ください。
- 公共の場所、人の多い場所や静かな場所などでは、まわりの方のご迷惑にならないようご使用ください。
- FOMA端末は電波を利用している関係上、第三者により通話を傍受されるケースもないとはいえません。しかし、W-CDMA・GSM／GPRS方式では秘話機能をすべての通話について自動的にサポートしますので、第三者が受信機で傍受したとしても、ただの雑音としか聞きとれません。
- FOMA端末は音声をデジタル信号に変換して無線による通信を行っていることから、電波状態の悪いところへ移動するなど送信されてきたデジタル信号を正確に復元できない場合には、実際の音声と異なって聞こえる場合があります。
- お客様ご自身でFOMA端末に登録された情報内容(電話帳、スケジュール、メモ帳、伝言メモ、音声メモなど)は、別にメモを取るなどして保管してくださるようお願いします。FOMA端末の故障や修理、機種変更やその他の取り扱いなどによって、万が一、登録された情報内容が消失してしまうことがあっても、当社としては責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 大切なデータはmicroSDカードに保存することをおすすめします。また、パソコンをお持ちの場合は、ドコモケータイdatalinkを利用して電話帳やメール、スケジュールなどの情報をパソコンに転送・保管できます。
- お客様はSSL／TLSをご自身の判断と責任においてご利用することを承諾するものとします。お客様によるSSL／TLSのご利用にあたり、ドコモおよび別掲の認証会社はお客様に対しSSL／TLSの安全性などに関し何ら保証を行うものではなく、万が一何らかの損害が発生したとしても一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 認証会社：日本ベリサイン株式会社、
サイバートラスト株式会社、
GMOグローバルサイン株式会社、
RSAセキュリティ株式会社、
セコムトラストシステムズ株式会社、
株式会社コモドジャパン、Entrust, Inc.
- このFOMA端末は、FOMAプラスエリアおよびFOMAハイスピードエリアに対応しております。
- このFOMA端末は、ドコモの提供するFOMAネットワークおよびドコモのローミングサービスエリア以外ではご使用になれません。

  The FOMA terminal can be used only via the FOMA network provided by DOCOMO and DOCOMO's roaming area.

SH-02Bでできること

サポートブック

使いたい機能の操作方法をFOMA端末で確認できる便利な機能です。手元に取扱説明書がなくても、すぐに調べられます。

待受 ▶［サポートブック］▶メニューや項目を選ぶ▶

ｉコンシェル☞P.70

待受画面上のキャラクタ（マチキャラ）が役立つ情報（インフォメーション）を教えてくれたり、サイトからスケジュール（ｉスケジュール）をダウンロードすることにより便利にご利用いただけるサービスです。

国際ローミング☞P.45

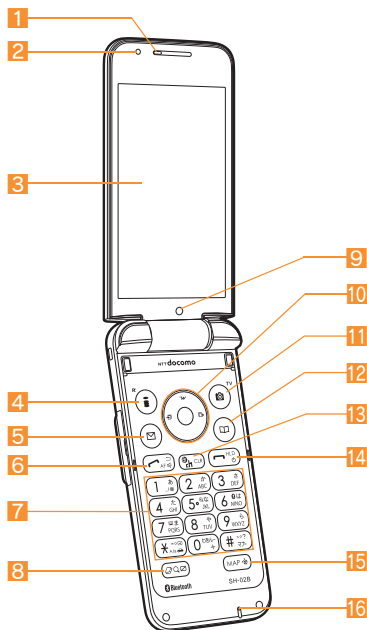
日本国内でお使いのFOMA端末・電話番号・メールアドレスが海外でもそのまま使えます（3G・GSMエリアに対応）。

イルミネーション☞P.6

着信時や通話中、GPS機能利用時などに、着信ランプと連動して12個のイルミネーションランプがさまざまなパターンで点滅します。ランプの色やパターン、点滅の有無を設定できます。また、きせかえツールを利用してランプパターンを変更できます。ランプパターンが設定できるきせかえツールを、サイトからダウンロードすることもできます。

多機能カメラ☞P.57

有効画素数約800万画素の多機能カメラを搭載しています。

各部の名称と機能

1 受話口

2 明るさセンサー
- 周りの明るさを検知します。センサー部分を手で覆ったり、シールなどを貼らないでください。

3 メインディスプレイ(☞P.23)

4 (i)(ℝ):ｉモード／操作ガイダンス用ボタン(☞P.26、P.52)

5 (✉):メール／操作ガイダンス用ボタン(☞P.26、P.47)

6 (開始):開始／ハンズフリー／Ecoボタン(☞P.34、P.40)

7 1～9、0、＊、#:ダイヤル／文字入力ボタン

8 (Q):MULTI／クイック検索／ベールビューボタン(☞P.33)

9 サブカメラ
- 自分を撮影するときに使用します。

10 ◎◉:マルチガイドボタン(☞P.26)

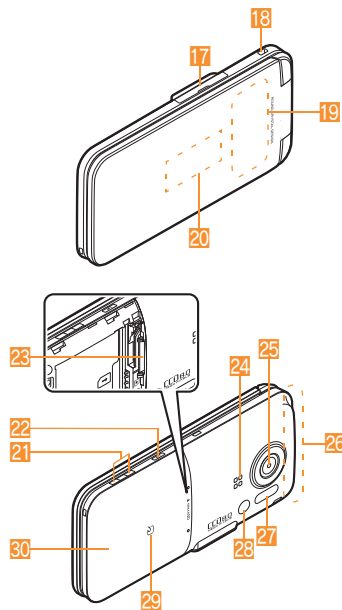
11 (📷):カメラ／TV／操作ガイダンス用ボタン(☞P.26、P.58、P.61)

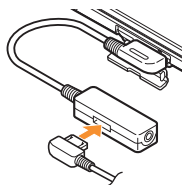
12 (📖):電話帳／操作ガイダンス用ボタン(☞P.26、P.40)

13 CLR(ch):ｉチャネル／クリアボタン(☞P.26、P.55)

14 (終了):電源／終了ボタン(☞P.22、P.26)

15 MAP:MAP／GPSボタン
- GPS対応ｉアプリを起動したり、現在地を確認できます。

16 送話口／マイク

イヤホンのご利用について

外部接続端子に非対応のイヤホンをご利用になる場合には、別売りの変換アダプタを接続してご利用ください。

17 外部接続端子
- 充電時およびイヤホン接続時などに使用する端子です。

18 ストラップ取り付け口

19 ワンセグアンテナ
- ワンセグアンテナが内蔵されています。

20 サブディスプレイ（☞P.24）

21 充電端子
- 卓上ホルダで充電するための端子です。

22 ：ライトボタン
- FOMA端末を閉じているとき、サブディスプレイを表示したり、ピクチャーライトを点灯／消灯します。

23 microSDカードスロット（☞P.74）

24 スピーカ

25 メインカメラ
- 静止画や動画を撮影するときに使用します。

26 FOMAアンテナ
- FOMAアンテナが内蔵されています。

27 赤外線ポート（☞P.76）

28 ピクチャーライト
- カメラ起動中／撮影時に点灯／点滅します。

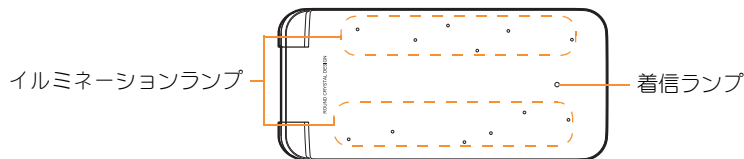
29 マーク（☞P.69、P.76）

30 リアカバー
- リアカバーの裏側には、電池パックとリアカバーの隙間を埋めるためにプレートが貼られています。また、プレートの下には無線対策のためのシールが貼られています。プレートやシールをはがさないでください。

31 イルミネーションランプ（☞P.6）

32 着信／充電ランプ
- 着信時／充電中などに点滅／点灯します。

イルミネーションについて

着信ランプと連動して、12個のイルミネーションランプがさまざまなパターンで点滅します。

- ランプの色やパターン、点滅の有無を設定できます（☞P.34）。イルミネーションランプの色は変更できません。
- きせかえツールを利用してランプパターンを変更できます。お買い上げ時に登録されている[Silver]、[Pink]、[Black]、[Red]、[Blue]、[Orange]を設定すると、ランプパターンも設定されます。

安全上のご注意（必ずお守りください）

- ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
  また、お読みになった後は、大切に保管してください。
- ここに示した注意事項は、お使いになる人や、他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐための内容を記載していますので、必ずお守りください。

次の表示の区分は、表示内容を守らず、誤った使用をした場合に生じる危害や損害の程度を説明しています。

⚠危険	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
⚠警告	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
⚠注意	この表示は、取り扱いを誤った場合、「軽傷を負う可能性が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される」内容です。

次の絵表示の区分は、お守りいただく内容を説明しています。

禁止	禁止（してはいけないこと）を示します。
分解禁止	分解してはいけないことを示す記号です。
濡れ手禁止	濡れた手で扱ってはいけないことを示す記号です。
水濡れ禁止	水がかかる場所で使用したり、水に濡らしたりしてはいけないことを示す記号です。

指示	指示に基づく行為の強制（必ず実行していただくこと）を示します。
電源プラグを抜く	電源プラグをコンセントから抜いていただくことを示す記号です。

「安全上のご注意」は、下記の6項目に分けて説明しています。

FOMA端末・電池パック・アダプタ・FOMAカードの取り扱いについて（共通）

⚠危険

禁止

火のそば、直射日光の当たる場所、炎天下の車内などの高温の場所で使用、保管、放置しないでください。

機器の変形、故障や、電池パックの漏液、発熱、破裂、発火、性能や寿命の低下の原因となります。
また、ケースの一部が熱くなり、やけどの原因となることがあります。

分解禁止

分解、改造をしないでください。また、ハンダ付けしないでください。

火災、けが、感電などの事故または故障の原因となります。
また、電池パックを漏液、発熱、破裂、発火させる原因となります。

水濡れ禁止

濡らさないでください。

水やペットの尿などの液体が入ると発熱、感電、火災、故障、けがなどの原因となります。使用場所、取り扱いにご注意ください。

指示

FOMA端末に使用する電池パックおよびアダプタは、NTTドコモが指定したものを使用してください。

指定品以外のものを使用した場合は、FOMA端末および電池パックやその他の機器を漏液、発熱、破裂、発火、故障させる原因となります。

⚠警告

禁止

電子レンジなどの加熱調理機器や高圧容器に、電池パック、FOMA端末やアダプタ、FOMAカードを入れないでください。

電池パックを漏液、発熱、破裂、発火させたり、FOMA端末、アダプタの発熱、発煙、発火や回路部品を破壊させる原因となります。

禁止

強い衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。

電池パックの漏液、発熱、破裂、発火や機器の故障、火災の原因となります。

禁止

充電端子や外部接続端子に導電性異物（金属片、鉛筆の芯など）が触れないようにしてください。また、内部に入れないようにしてください。

ショートによる火災や故障の原因となります。

指示

ガソリンスタンドなど引火性ガスが発生する場所に立ち入る場合は必ず事前に携帯電話の電源をお切りください。
また充電もしないでください。ガスに引火する恐れがあります。

ガソリンスタンド構内などでおサイフケータイをご利用になる際は必ず事前に電源を切った状態で使用してください
（ＩＣカードロックを設定されている場合にはロックを解除した上で電源をお切りください）。

指示

使用中、充電中、保管時に、異臭、発熱、変色、変形など、いままでと異なるときは、直ちに次の作業を行ってください。

1. **電源プラグをコンセントやシガーライタソケットから抜く。**
2. **FOMA端末の電源を切る。**
3. **電池パックをFOMA端末から取り外す。**

そのまま使用すると発熱、破裂、発火または電池パックの漏液の原因となります。

⚠注意

ぐらついた台の上や傾いた場所など、不安定な場所には置かないでください。

落下して、けがや故障の原因となります。

湿気やほこりの多い場所や高温になる場所には、保管しないでください。

故障の原因となります。

子供が使用する場合は、保護者が取り扱いの内容を教えてください。また、使用中においても、指示どおりに使用しているかをご注意ください。

けがなどの原因となります。

乳幼児の手の届かない場所に保管してください。

誤って飲み込んだり、けがなどの原因となったりします。

FOMA端末をアダプタに接続した状態で長時間連続使用される場合には特にご注意ください。

充電しながらｉアプリやテレビ電話、ワンセグの視聴などを長時間行うとFOMA端末や電池パック・アダプタの温度が高くなることがあります。

温度の高い部分に直接長時間触れるとお客様の体質や体調によっては肌に赤みやかゆみ、かぶれなどが生じたり、低温やけどの原因となる恐れがあります。

FOMA端末の取り扱いについて

⚠警告

赤外線ポートを目に向けて送信しないでください。

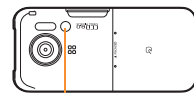
目に影響を与える可能性があります。また、他の赤外線装置に向けて送信すると誤動作するなどの影響を与える場合があります。

ピクチャーライトの発光部を人の目に近づけて点灯発光させないでください。

視力障害の原因となります。また、目がくらんだり驚いたりしてけがなどの事故の原因となります。

注意事項:

当製品に使用されているピクチャーライト光源LEDは、指定されていない調整などの操作を意図的に行った場合、眼の安全性を超える光量を放出する可能性がありますので分解しないでください。

EN60825-1:1994 A1:2002 & A2:2001

ピクチャーライト

エアバッグの近くのダッシュボードなど、エアバッグの展開による影響が予想される場所にFOMA端末を置かないでください。

エアバッグが展開した場合、FOMA端末が本人や他の人などに当たり、けがなどの事故や故障および破損の原因となります。

医用電気機器などを装着している場合は、胸ポケットや内ポケットへの装着はおやめください。

FOMA端末を医用電気機器などの近くで使用すると、医用電気機器などの故障の原因となる恐れがあります。

FOMA端末内のFOMAカードやmicroSDカード挿入口に水などの液体や金属片、燃えやすいものなどの異物を入れないでください。

火災、感電、故障の原因となります。

自動車などの運転者に向けてライトを点灯しないでください。

運転の妨げとなり、事故の原因となります。

航空機内や病院など、使用を禁止された区域では、FOMA端末の電源を切ってください。

電子機器や医用電気機器に影響を与える場合があります。また、自動的に電源が入る機能を設定している場合は、設定を解除してから電源を切ってください。
医療機関内における使用については各医療機関の指示に従ってください。
また、航空機内での使用などの禁止行為をした場合、法令により罰せられることがあります。

ハンズフリーに設定して通話する際は、必ずFOMA端末を耳から離してください。
また、イヤホンマイクをFOMA端末に装着し、ゲームや音楽再生をする場合は、適度なボリュームに調節してください。

音量が大きすぎると難聴の原因となります。
また、周囲の音が聞こえにくいと、事故の原因となります。

心臓の弱い方は、着信バイブレータ（振動）や着信音量の設定に注意してください。

心臓に影響を与える可能性があります。

屋外で使用中に、雷が鳴り出したら、すぐに電源を切って安全な場所に移動してください。

落雷、感電の原因となります。

高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは、FOMA端末の電源を切ってください。

電子機器が誤動作するなどの影響を与える場合があります。

ご注意いただきたい電子機器の例

補聴器、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器、その他の医用電気機器、火災報知器、自動ドア、その他の自動制御機器など。植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器、その他の医用電気機器をご使用される方は、当該の各医用電気機器メーカもしくは販売業者に電波による影響についてご確認ください。

万が一、ディスプレイ部やカメラのレンズを破損した際には、割れたガラスや露出したFOMA端末の内部にご注意ください。

ディスプレイ部やカメラのレンズの表面には、プラスチックパネルを使用しガラスが飛散りにくい構造となっておりますが、誤って割れた破損部や露出部に触れますと、けがの原因となります。

⚠注意

ストラップなどを持ってFOMA端末を振り回さないでください。

本人や他の人などに当たり、けがなどの事故や故障および破損の原因となります。

モーショントラッキングご利用にあたっては、必ず周囲の安全を確認し、FOMA端末をしっかりと握り、必要以上に振り回さないでください。

モーショントラッキングは、FOMA端末を傾けたり振ったりして操作をする機能です。振りすぎなどが原因で、人や物などに当たり、重大な事故や破損などにつながる可能性があります。

禁止

FOMA端末に金属製などのストラップを付けている場合は、モーショントラッキングご利用の際、ストラップが人や物などに当たらないようご注意ください。

けがなどの事故や故障および破損の原因となります。

禁止

誤ってディスプレイを破損し、内部物質が漏れた場合には、液体を口にしたり、吸い込んだり、皮膚につけたりしないでください。
内部物質が目や口に入った場合には、すぐにきれいな水で洗い流し、直ちに医師の診断を受けてください。
また、皮膚や衣類に付着した場合は、すぐにアルコールなどで拭き取り、石鹸で水洗いしてください。

失明や皮膚に傷害を起こす原因となります。

禁止

着信音が鳴っているときや、FOMA端末でメロディを再生しているときなどは、スピーカに耳を近づけないでください。

難聴になる可能性があります。

指示

自動車内で使用した場合、車種によっては、まれに車載電子機器に影響を与える場合があります。

安全走行を損なう恐れがありますので、その場合は使用しないでください。

指示

お客様の体質や体調によっては、かゆみ、かぶれ、湿疹などが生じることがあります。異状が生じた場合は、直ちに使用をやめ、医師の診療を受けてください。

下記の箇所に金属を使用しています。

<table>
<tr><th>使用箇所</th><th>素　材</th><th>表面処理</th></tr>
<tr><td>外部接続端子</td><td rowspan="3">SUS</td><td rowspan="2">ニッケルメッキ</td></tr>
<tr><td>microSDカードスロット内部</td></tr>
<tr><td>充電端子</td><td>金メッキ</td></tr>
</table>

指示

FOMA端末を開閉する際は、指やストラップなどを挟まないようご注意ください。

けがなどの事故や破損の原因となります。

指示

ワンセグを視聴するときは、十分明るい場所で、画面からある程度の距離を空けてご使用ください。

視力低下につながる可能性があります。

電池パックの取り扱いについて

電池パックのラベルに記載されている表示により、電池の種類をご確認ください。

表　示	電池の種類
Li-ion00	リチウムイオン電池

⚠危険

禁止

端子に針金などの金属類を接触させないでください。また、金属製ネックレスなどと一緒に持ち運んだり、保管したりしないでください。

電池パックを漏液、発熱、破裂、発火させる原因となります。

禁止

電池パックをFOMA端末に取り付けるときに、うまく取り付けできない場合は、無理に取り付けないでください。また、電池パックの向きを確かめてから取り付けてください。

電池パックを漏液、発熱、破裂、発火させる原因となります。

禁止

火の中に投下しないでください。

電池パックを漏液、発熱、破裂、発火させる原因となります。

釘を刺したり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたりしないでください。

電池パックを漏液、発熱、破裂、発火させる原因となります。

電池パック内部の液体が目の中に入ったときは、こすらず、すぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の診療を受けてください。

失明の原因となります。

⚠警告

落下による変形や傷など外部からの衝撃により電池パックに異常が見られた場合は、直ちに使用をやめてください。

電池パックの漏液、発熱、破裂、発火や機器の故障、火災の原因となります。

所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電をやめてください。

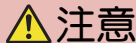
電池パックを漏液、発熱、破裂、発火させる原因となります。

電池パックが漏液したり、異臭がするときは、直ちに使用をやめて火気から遠ざけてください。

漏液した液体に引火し、発火、破裂の原因となります。

ペットが電池パックに噛みつかないようご注意ください。

電池パックの漏液、発熱、破裂、発火や機器の故障、火災の原因となります。

⚠注意

一般のゴミと一緒に捨てないでください。

発火、環境破壊の原因となります。不要となった電池パックは、端子にテープなどを貼り、絶縁してからドコモショップなど窓口にお持ちいただくか、回収を行っている市町村の指示に従ってください。

濡れた電池パックを充電しないでください。

電池パックを発熱、発火、破裂させる原因となります。

電池パック内部の液体が皮膚や衣服に付着した場合は、直ちに使用をやめてきれいな水で十分に洗い流してください。

皮膚に傷害を起こす原因となります。

アダプタの取り扱いについて

⚠警告

アダプタのコードや電源コードが傷んだら使用しないでください。

感電、発熱、火災の原因となります。

ACアダプタや卓上ホルダは、風呂場などの湿気の多い場所では使用しないでください。

感電の原因となります。

DCアダプタはマイナスアース車専用です。プラスアース車には使用しないでください。

火災の原因となります。

雷が鳴り出したら、FOMA端末、アダプタには触れないでください。

落雷、感電の原因となります。

コンセントやシガーライタソケットにつながれた状態で充電端子をショートさせないでください。また、充電端子に手や指など、身体の一部を触れさせないでください。

火災、故障、感電、傷害の原因となります。

禁止

充電中は、アダプタおよび卓上ホルダを安定した場所に置いてください。また、アダプタおよび卓上ホルダを布や布団で覆ったり、包んだりしないでください。

FOMA端末が外れたり、熱がこもり、火災、故障の原因となります。

禁止

アダプタのコードや電源コードの上に重いものをのせたりしないでください。

感電、火災の原因となります。

濡れ手禁止

濡れた手でアダプタのコード、コンセントに触れないでください。

感電の原因となります。

指示

指定の電源、電圧で使用してください。

誤った電圧で使用すると火災や故障の原因となります。
海外で使用する場合は、海外で利用可能なACアダプタを使用してください。
ACアダプタ：AC100V
DCアダプタ：DC12V・24V（マイナスアース車専用）
海外で利用可能なACアダプタ：AC100V～240V（家庭用交流コンセントのみに接続すること）

指示

DCアダプタのヒューズが万が一切れた場合は、必ず指定のヒューズを使用してください。

指定外のヒューズを使用すると、火災、故障の原因となります。指定ヒューズに関しては、個別の取扱説明書でご確認ください。

指示

電源プラグについたほこりは、拭き取ってください。

火災の原因となります。

指示

ACアダプタをコンセントに差し込むときは、金属製ストラップなどの金属類を触れさせないように注意し、確実に差し込んでください。

感電、ショート、火災の原因となります。

指示

アダプタをコンセントやシガーライタソケットから抜く場合は、アダプタのコードや電源コードを無理に引っ張らず、電源プラグを持って抜いてください。

コードを引っ張るとコードが傷つき、感電、火災の原因となります。

電源プラグを抜く

長時間使用しない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

感電、火災、故障の原因となります。

電源プラグを抜く

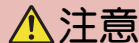
万が一、水などの液体が入った場合は、直ちにコンセントやシガーライタソケットから電源プラグを抜いてください。

感電、発煙、火災の原因となります。

電源プラグを抜く

お手入れの際は、電源プラグをコンセントやシガーライタソケットから抜いて行ってください。

感電の原因となります。

FOMAカードの取り扱いについて

⚠注意

指示

FOMAカード（ＩＣ部分）を取り外す際は切断面にご注意ください。

手や指を傷つける可能性があります。

医用電気機器近くでの取り扱いについて

本記載の内容は「医用電気機器への電波の影響を防止するための携帯電話端末等の使用に関する指針」（電波環境協議会）に準ずる。

⚠警告

医療機関の屋内では次のことを守って使用してください。

- 手術室、集中治療室（ICU）、冠状動脈疾患監視病室（CCU）にはFOMA端末を持ち込まないでください。
- 病棟内では、FOMA端末の電源を切ってください。
- ロビーなどであっても付近に医用電気機器がある場合は、FOMA端末の電源を切ってください。
- 医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従ってください。
- 自動的に電源が入る機能が設定されている場合は、設定を解除してから、電源を切ってください。

満員電車の中など混雑した場所では、付近に植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器を装着している方がいる可能性がありますので、FOMA端末の電源を切るようにしてください。

電波により植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。

植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器を装着されている場合は、装着部からFOMA端末は22cm以上離して携行および使用してください。

電波により植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。

自宅療養などにより医療機関の外で、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器以外の医用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医用電気機器メーカなどにご確認ください。

電波により医用電気機器の作動に影響を与える場合があります。

取り扱い上のご注意

共通のお願い

- **水をかけないでください。**
  FOMA端末、電池パック、アダプタ、FOMAカードは防水仕様にはなっておりません。風呂場など、湿気の多い場所でのご使用や、雨などがかかることはおやめください。また身に付けている場合、汗による湿気により内部が腐食し故障の原因となります。調査の結果、これらの水濡れによる故障と判明した場合、保証対象外となり修理できないことがありますので、あらかじめご了承願います。なお、保証対象外ですので修理を実施できる場合でも有料修理となります。
- **お手入れは乾いた柔らかい布（めがね拭きなど）で拭いてください。**
  FOMA端末のディスプレイは、カラー液晶画面を見やすくするため、特殊コーティングを施してある場合があります。お手入れの際に、乾いた布などで強く擦ると、ディスプレイに傷がつく場合があります。取り扱いには十分ご注意いただき、お手入れは乾いた柔らかい布（めがね拭きなど）で拭いてください。また、ディスプレイに水滴や汚れなどが付着したまま放置すると、シミになったり、コーティングがはがれることがあります。アルコール、シンナー、ベンジン、洗剤などで拭くと、印刷が消えたり、色があせたりすることがあります。
- **端子は時々乾いた綿棒などで清掃してください。**
  端子が汚れていると接触が悪くなり、電源が切れたり充電不十分の原因となったりしますので、端子を乾いた綿棒などで拭いてください。
  また、清掃する際には端子の破損に十分ご注意ください。
- **エアコンの吹き出し口の近くに置かないでください。**
  急激な温度の変化により結露し、内部が腐食し故障の原因となります。
- **FOMA端末や電池パックなどに無理な力がかからないように使用してください。**
  多くのものが詰まった荷物の中に入れたり、衣類のポケットに入れて座ったりするとディスプレイ、内部基板、電池パックなどの破損、故障の原因となります。また、外部接続機器を外部接続端子（イヤホンマイク端子）に差した状態の場合、コネクタ破損、故障の原因となります。
- **FOMA端末、アダプタ、卓上ホルダに添付されている個別の取扱説明書をよくお読みください。**
- **ディスプレイは金属などで擦ったり引っかいたりしないでください。**
  傷つくことがあり故障、破損の原因となります。

FOMA端末についてのお願い

- **極端な高温、低温は避けてください。**
  温度は５℃～35℃、湿度は45%～85%の範囲でご使用ください。
- **一般の電話機やテレビ・ラジオなどをお使いになっている近くで使用すると、影響を与える場合がありますので、なるべく離れた場所でご使用ください。**
- **お客様ご自身でFOMA端末に登録された情報内容は、別にメモを取るなどして保管してくださるようお願いします。**
  万が一登録された情報内容が消失してしまうことがあっても、当社としては責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- **FOMA端末を落としたり、衝撃を与えたりしないでください。**
  故障、破損の原因となります。
- **外部接続端子（イヤホンマイク端子）に外部接続機器を接続する際に斜めに差したり、差した状態で引っ張ったりしないでください。**
  故障、破損の原因となります。
- **ストラップなどを挟んだまま、FOMA端末を閉じないでください。**
  故障、破損の原因となります。

- 使用中、充電中、FOMA端末は温かくなりますが、異常ではありません。そのままご使用ください。
- カメラを直射日光の当たる場所に放置しないでください。
  素子の退色・焼付きを起こす場合があります。
- 通常は外部接続端子カバーをはめた状態でご使用ください。
  ほこり、水などが入り故障の原因となります。
- リアカバーを外したまま使用しないでください。
  電池パックが外れたり、故障、破損の原因となったりします。
- ディスプレイやキーまたはボタンのある面に、極端に厚みのあるシールなどを貼らないでください。
  故障の原因となります。
- microSDカードの使用中は、microSDカードを取り外したり、FOMA端末の電源を切ったりしないでください。
  データの消失、故障の原因となります。
- 磁気カードなどをFOMA端末に近づけたり、挟んだりしないでください。
  キャッシュカード、クレジットカード、テレホンカード、フロッピーディスクなどの磁気データが消えてしまうことがあります。
- FOMA端末に磁気を帯びたものを近づけないでください。
  強い磁気を近づけると誤作動を引き起こす可能性があります。

電池パックについてのお願い

- 電池パックは消耗品です。
  使用状態などによって異なりますが、十分に充電しても使用時間が極端に短くなったときは電池パックの交換時期です。指定の新しい電池パックをお買い求めください。
- 充電は、適正な周囲温度(5℃～35℃)の場所で行ってください。
- 初めてお使いのときや、長時間ご使用にならなかったときは、ご使用前に必ず充電してください。
- 電池パックの使用時間は、使用環境や電池パックの劣化度により異なります。
- 電池パックの使用条件により、寿命が近づくにつれて電池パックが膨れる場合がありますが問題ありません。
- 電池パックを保管される場合は、次の点にご注意ください。
  - ■ 満充電状態(充電完了後すぐの状態)での保管
  - ■ 電池残量なしの状態(本体の電源が入らない程消費している状態)での保管

  電池パックの性能や寿命を低下させる原因となります。保管に適した電池残量は、目安として電池マーク表示が2本の状態をお勧めします。

アダプタについてのお願い

- 充電は、適正な周囲温度(5℃～35℃)の場所で行ってください。
- 次のような場所では、充電しないでください。
  - ■ 湿気、ほこり、振動の多い場所
  - ■ 一般の電話機やテレビ・ラジオなどの近く
- 充電中、アダプタが温かくなることがありますが、異常ではありません。そのままご使用ください。
- DCアダプタを使用して充電する場合は、自動車のエンジンを切ったまま使用しないでください。
  自動車のバッテリーを消耗させる原因となります。
- 抜け防止機構のあるコンセントをご使用の場合、そのコンセントの取扱説明書に従ってください。
- 強い衝撃を与えないでください。また、充電端子を変形させないでください。
  故障の原因となります。

FOMAカードについてのお願い

- FOMAカードの取り付け／取り外しには、必要以上に力を入れないようにしてください。
- 使用中、FOMAカードが温かくなることがありますが、異常ではありません。そのままご使用ください。
- 他のＩＣカードリーダー／ライターなどにFOMAカードを挿入して使用した結果として故障した場合は、お客様の責任となりますので、ご注意ください。
- ＩＣ部分はいつもきれいな状態でご使用ください。
- お手入れは、乾いた柔らかい布（めがね拭きなど）で拭いてください。
- お客様ご自身で、FOMAカードに登録された情報内容は、別にメモを取るなどして保管してくださるようお願いします。
  万が一登録された情報内容が消失してしまうことがあっても、当社としては責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 環境保全のため、不要になったFOMAカードはドコモショップなど窓口にお持ちください。
- 極端な高温・低温は避けてください。
- ＩＣを傷つけたり、不用意に触れたり、ショートさせたりしないでください。
  データの消失、故障の原因となります。
- FOMAカードを落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
  故障の原因となります。
- FOMAカードを曲げたり、重いものをのせたりしないでください。
  故障の原因となります。
- FOMAカードにラベルやシールなどを貼った状態で、FOMA端末に取り付けないでください。
  故障の原因となります。

Bluetooth®機能を使用する場合のお願い

- FOMA端末は、Bluetooth機能を使用した通信時のセキュリティとして、Bluetooth標準規格に準拠したセキュリティ機能に対応しておりますが、設定内容などによってセキュリティが十分でない場合があります。Bluetooth機能を使用した通信を行う際にはご注意ください。
- Bluetooth機能を使用した通信時にデータや情報の漏洩が発生しましても、責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- FOMA端末では、ヘッドセット、ハンズフリー、オーディオ、キーボード、ダイヤルアップ通信、オブジェクトプッシュ、シリアルポートを利用できます。また、オーディオではオーディオ／ビデオリモートコントロールも利用できる場合があります（対応しているBluetooth機器のみ）。
- 周波数帯について
  FOMA端末のBluetooth機能が使用する周波数帯は次のとおりです。

この無線機器は2.4GHz帯を使用します。変調方式としてFH-SS変調方式を採用し、与干渉距離は10m以下です。全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可です。

- Bluetooth機器使用上の注意事項
  本製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの家電製品や産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局など（以下「他の無線局」と略します）が運用されています。
  1. 本製品を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
  2. 万が一、本製品と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、「電源を切る」など電波干渉を避けてください。
  3. その他、ご不明な点につきましては、取扱説明書裏面の「総合お問い合わせ先」までお問い合わせください。

FeliCaリーダー／ライターについて

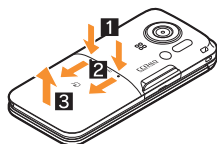
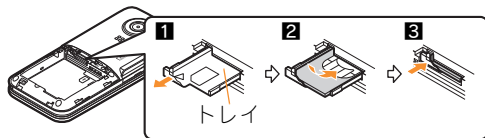
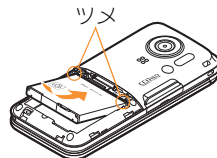
- FOMA端末のFeliCaリーダー／ライター機能は、無線局の免許を要しない微弱電波を使用しています。
- 使用周波数は13.56MHz帯です。周囲に他のリーダー／ライターをご使用の場合、十分に離してお使いください。また、他の同一周波数帯を使用の無線局が近くにないことを確認してお使いください。

注意

- 改造されたFOMA端末は絶対に使用しないでください。改造した機器を使用した場合は電波法に抵触します。
  FOMA端末は、電波法に基づく特定無線設備の技術基準適合証明等を受けており、その証として「技適マーク〔技〕」がFOMA端末の銘版シールに表示されております。
  FOMA端末のネジを外して内部の改造を行った場合、技術基準適合証明等が無効となります。技術基準適合証明等が無効となった状態で使用すると、電波法に抵触しますので、絶対に使用されないようにお願いいたします。
- 自動車などを運転中の使用にはご注意ください。
  運転中は、携帯電話を保持して使用すると罰則の対象となります。やむを得ず電話を受ける場合は、ハンズフリーで「かけ直す」ことを伝え、安全な場所に停車してから発信してください。
- Bluetooth機能は日本国内で使用してください。
  FOMA端末のBluetooth機能は日本国内での無線規格に準拠し認定を取得しています。海外でご使用になると罰せられることがあります。
- FeliCaリーダー／ライター機能は日本国内で使用してください。
  FOMA端末のFeliCaリーダー／ライター機能は日本国内での無線規格に準拠しています。海外でご使用になると罰せられることがあります。

FOMAカード・電池パックの取り付けかた

- FOMAカードは、お客様の電話番号などの情報が記憶されているＩＣカードです。
- 本FOMA端末ではFOMAカード（青色）はご使用になれません。FOMAカード（青色）をお持ちの場合には、ドコモショップ窓口にてお取替えください。

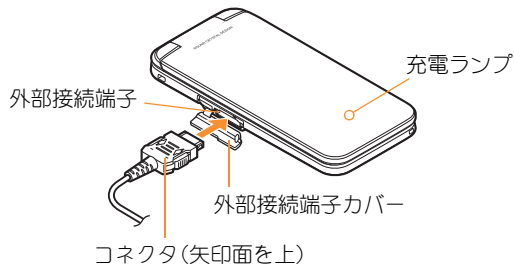
1 リアカバーを矢印の方向（❶）へ押しながら約２mmスライドさせて（❷）、リアカバーを取り外す（❸）

2 トレイをまっすぐ引き出す（❶）。FOMAカードのＩＣ面を上に向けてトレイにセットし（❷）、奥まで差し込む（❸）

3 リサイクルマークのある面を上に向けて、ツメを合わせて電池パックを取り付ける

4 リアカバーを図の位置に合わせて、押しながらスライドさせて取り付ける

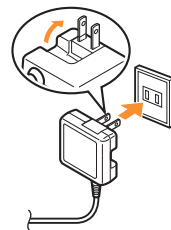
- FOMAカード／電池パックの取り付けは電源を切り、両手で持って行ってください。無理な力を加えると、FOMA端末・FOMAカード・電池パックが破損するおそれがありますので、ご注意ください。
- リアカバーはしっかりと閉めてください。不十分だとリアカバーが外れ、振動で電池パックが外に飛び出すおそれがあります。

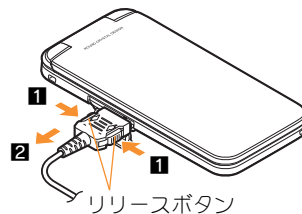
充電のしかた

ACアダプタを使って充電する

- 必ずFOMA ACアダプタ01／02(別売)の取扱説明書を参照してください。

1 外部接続端子カバーを開き、ACアダプタを外部接続端子に水平に差し込む

2 ACアダプタの電源プラグをコンセントに差し込む

- 充電開始音が鳴り、充電ランプが点灯して、充電が開始されます。

3 充電が完了したら、リリースボタンを押したまま(❶)、コネクタを水平に抜く(❷)

- 充電が完了すると、充電完了音が鳴り、充電ランプが消灯します。

- 無理な力を加えると、FOMA端末・ACアダプタが破損するおそれがありますので、ご注意ください。

基本の操作

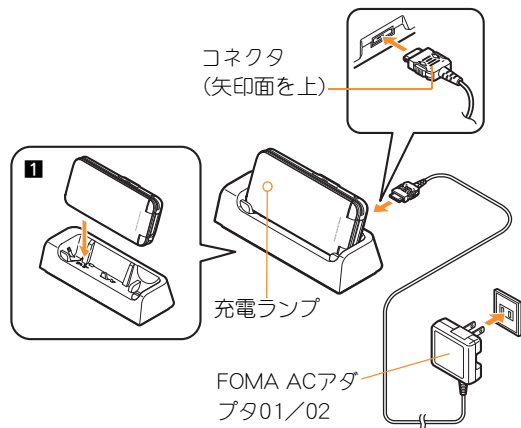
卓上ホルダを使って充電する

- 必ず卓上ホルダ SH29(別売)の取扱説明書を参照してください。
- FOMA端末を開いた状態では充電できません。

1 ACアダプタを卓上ホルダの接続端子に差し込む

2 ACアダプタの電源プラグをコンセントに差し込む

3 卓上ホルダにFOMA端末を矢印の方向に「カチッ」と音がするように置く(1)

- 充電開始音が鳴り、充電ランプが点灯して、充電が開始されます。

4 充電が完了したら、卓上ホルダを押さえながらFOMA端末を手前に倒して持ち上げる

- 充電が完了すると、充電完了音が鳴り、充電ランプが消灯します。

- 長時間使用しないときは、ACアダプタをコンセントから抜いてください。
- 充電開始音が鳴らないとき、充電ランプが点灯しないときは、FOMA端末が卓上ホルダに正しく置かれていないことがあります。正しく置きなおしてください(電源を切っているときやマナーモード中、充電開始音がサイレントの場合は除く)。
- FOMA端末を卓上ホルダに置くときは、ストラップなどを挟まないようにご注意ください。

電源を入れる

1 **(2秒以上)**

- 初期設定が完了しているときは、待受画面が表示されます。
- 電源を切るときも、を2秒以上押します。

初期設定を行う

- 初期設定が完了していないときは、電源を入れるたびに初期設定画面が表示されます。

1 **日付・時刻を設定**

2 **端末暗証番号を登録**

3 **ボタン音を設定**

4 **GPS位置提供可否を設定**

5 **文字サイズを一括設定**

カスタム [Settings] ▶ [初期設定]でも設定画面を表示できます。

自分の電話番号を確認する

1 **カスタム 0**

自分の名前や画像を登録する

1 **カスタム 0 ▶ ◉**

2 **端末暗証番号を入力 ▶ ◉ ▶ 📷 ▶ [編集]**

3 **所有者情報を登録 ▶ i**

メールアドレス変更や迷惑メール対策の設定などを行う

メールアドレスの変更や迷惑メール対策などを行うｉモードサイトに接続します。

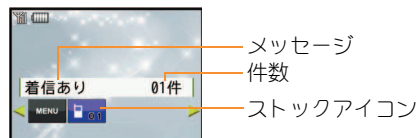
1 **待受 ✉ ▶ [メール設定] ▶ [アドレス・迷惑メール設定] ▶ [はい]**

ディスプレイ・アイコンの見かた

主なアイコン

アイコン	説明
	電波状態表示 →→→→圏外(強→弱) ● [圏外]が表示されているときは、サービスエリア外、または電波の届かない場所にいます。
	電池残量表示 →→→→→(多→少)
	iモード/フルブラウザ表示
	iアプリ表示
	GPS表示
	赤外線通信/Bluetooth通信中表示
	iモードメール/SMS/エリアメール受信表示
	microSDカード表示
	ワンセグ録画中表示
	伝言メモ表示
	サイレント表示
	バイブレータ表示
	マナーモード表示
	公共モード(ドライブモード)表示
	ICカードロック表示
	制限表示
	ハンズフリー表示
	アラーム表示
	Music&Videoチャネル番組予約表示
	FOMAカードエラー表示
	セルフモード表示
	Bluetooth表示
	ベールビュー表示
	3G/GSM表示
	トルカ表示
	インフォメーション受信表示

ストックアイコンの内容を確認する

不在着信や新着メールなどがあると、待受画面にストックアイコンが表示されます。

主なストックアイコンの種類

アイコン	内容
	着信あり　○件
	伝言メモ　○件／○件
	留守録音あり　○件
	新着メールあり　○件
	ソフトウェア更新必要あり
	ダウンロード成功(Music&Videoチャネル)
	ダウンロード失敗(Music&Videoチャネル)
MENU	カスタムメニュー／基本メニュー※

※ メニュー画面によって、表示されるメッセージが異なります。

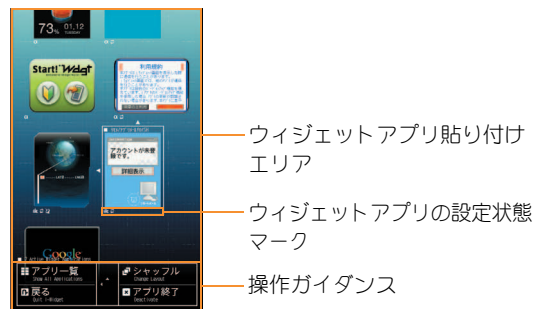
1 待受画面にストックアイコン表示 ▶ ◎

2 ストックアイコンを選ぶ ▶ ◎

- 内容を確認するとストックアイコンとメッセージは消えます。

ｉウィジェットの表示と操作

ｉウィジェット画面では、複数のウィジェットアプリを同時に起動し、一覧で表示できます。

- ｉウィジェットの操作については☞P.67

サブディスプレイの見かた

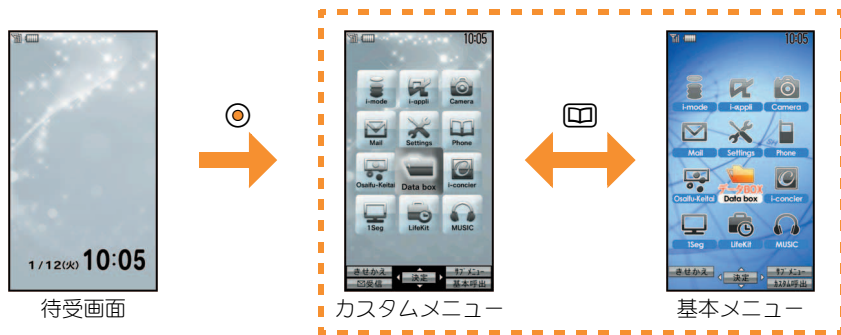
- 画面は、サブディスプレイの待受画面設定(☞P.32)で時計表示を[待受時計(小)]に、機能表示を[直近スケジュール]に設定した場合です。

- サブディスプレイの待受画面設定で、機能表示に設定した機能が表示されます。

メインメニューの見かた

メニューは機能ごとに分類されています(☞P.84)。メニューに表示されるアイコンを選んで機能を呼び出すことができます。本書では、カスタムメニューから機能を呼び出す方法を基準に説明しています。

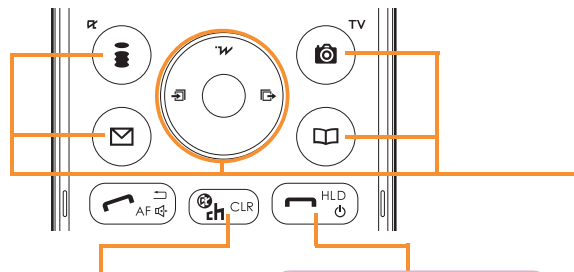
- カスタムメニューは、設定したきせかえツールによって、それぞれ異なった機能やデザインで構成されます。

待受画面　カスタムメニュー　基本メニュー

スタートメニューを設定する

待受画面表示中に◎を押したとき表示されるスタートメニューを設定します。

1 待受 ◎ ▶ [Settings] ▶ [表示・ランプ・省電力] ▶ [メニュー優先設定]

2 スタートメニューを選ぶ ▶ ◎ ▶ [はい]

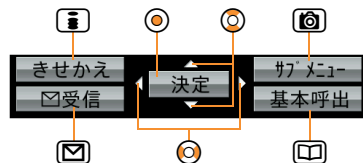
ボタン操作について

クリアボタン

1つ前の画面に戻します。

終了ボタン

起動中の機能を終了して待受画面に戻します。

マルチガイドボタン／操作ガイダンス用ボタン

操作ガイダンスに表示されているメニューの選択／実行などに使用します。

操作ガイダンスに表示される主なメニュー

決定	選択した項目を決定
サブメニュー	サブメニューを表示
確認	選択した項目を確認
戻る	1つ前の画面に戻る
全表示	フォルダ分けしたファイルなどを一覧で表示
中止	動作を中止
全選択／全解除	選択できる項目のすべてを選択／解除
閉じる	サブメニューなどを閉じる

メニュー操作について

- 選択できる機能については☞P.84
- カスタムメニューに設定したきせかえツールによっては、機能の選択方法が異なる場合があります。
- きせかえツールを利用してカスタムメニュー画面を変更したときは、操作方法が本書の説明と異なる場合があります。

例：マルチガイドボタンを使ってカメラ（静止画撮影）を呼び出す

カスタムメニュー

［Camera］を表示

カメラ（静止画撮影）起動

操作手順について

本書では、上記の操作を「カスタム ［Camera］▶［静止画撮影］」と表記しています。

- 待受画面から操作する場合は「待受」と表記しています。

サブメニューから機能を選択する

操作ガイダンスに［サブメニュー］が表示されているときに📷を押すと、その画面で使用できる機能（サブメニュー）が表示されます。◎を使って、表示されたサブメニューを選択してください。サブメニューに複数のページがある場合は、◎を使ってページを切り替えます。

文字入力

文字入力のしかた

- 本書では、かな方式で文字を入力する方法を基準に説明しています。

入力モードの種類と切り替え

かな方式では、入力する文字の種類に合わせて、入力モードを切り替えます。

1 文字入力画面で[📖]

あ	ア	ｱ
aA	aA	1
Aa	Aa	区

入力モード切替パレット

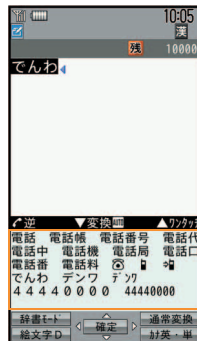
2 入力モードを選ぶ ▶ ◎

あ	漢字・ひらがな
ア	全角カタカナ
ｱ	半角カタカナ
aA	全角英数字(小文字→大文字)
aA	半角英数字(小文字→大文字)
1	半角数字
Aa	全角英数字(大文字→小文字)
Aa	半角英数字(大文字→小文字)
区	区点コード

文字を入力する

例:「電話」と入力するとき

1 文字入力画面で「でんわ」と入力

- でんわ:[4](4回) ▶ [*](1回) ▶ [0](3回) ▶ ◎ ▶ [0](1回)
- 同じボタンに割り当てられた文字を連続して入力:◎ ▶ 文字を入力

変換候補欄

2 ◎で変換候補欄にカーソルを移動

3 「電話」を選ぶ ▶ ◎

絵文字／記号を入力する

1 文字入力画面で[i]

- 絵文字とデコメ®絵文字の切替：[i]
- 全角記号と半角記号の切替：[カメラ]

2 絵文字／記号を選ぶ ▶ ◎

定型文を利用する

1 文字入力画面で[カメラ] ▶ [定型文([本]長押)]

- [本]（1秒以上）でも操作できます。

2 定型文を選ぶ ▶ ◎ ▶ 定型文を確認 ▶ ◎

顔文字を入力する

1 文字入力画面で[カメラ] ▶ [顔文字([メール]長押)]

- [メール]（1秒以上）でも操作できます。

2 顔文字を選ぶ ▶ ◎

文字をコピーする

1 文字入力画面で開始位置にカーソルを移動 ▶ [カメラ] ▶ [コピー] ▶ ◎

2 終了位置にカーソルを移動 ▶ ◎

- 反転表示されている文字列が対象になります。

文字を切り取る

1 文字入力画面で開始位置にカーソルを移動 ▶ [カメラ] ▶ [切り取り([#]長押)] ▶ ◎

- [#]（1秒以上）でも操作できます。

2 終了位置にカーソルを移動 ▶ ◎

- 反転表示されている文字列が対象になります。

文字を貼り付ける

1 文字入力画面で貼り付ける位置にカーソルを移動 ▶ [カメラ] ▶ [貼り付け([*]長押)] ▶ ◎

- [*]（1秒以上）でも操作できます。

音／画面設定

着信音を変える

1 カスタム [Settings] ▶ [音・バイブ・マナー] ▶ [音選択]

2 項目を選ぶ ▶ ◉

3 着信音を選ぶ ▶ [i]

音量を調節する

着信音など、FOMA端末から鳴る音の音量を変更できます。

1 カスタム [Settings] ▶ [音・バイブ・マナー] ▶ [音量選択]

2 項目を選ぶ ▶ ◉

3 ◎で音量を調節 ▶ ◉

ボタンを押したときの音を消す

1 カスタム [Settings] ▶ [音・バイブ・マナー] ▶ [音量選択] ▶ [ボタン音]

2 ◎で[サイレント]に設定 ▶ ◉

バイブレータを設定する

電話着信、メール受信、アラーム動作時、GPS機能利用時に振動でお知らせできます。

1 カスタム [Settings] ▶ [音・バイブ・マナー] ▶ [バイブレータ設定]

2 項目を選ぶ ▶ ◉

3 バイブレータを選ぶ ▶ ◉

◎で[パターン1]～[パターン3]を選ぶと、バイブレータの振動を確認できます。

- バイブレータを設定したとき、机の上などにFOMA端末を置いておくと、振動によって落下するおそれがありますので、ご注意ください。

マナーモードを利用する

FOMA端末から音が鳴らないようにできます。

- マナーモード設定中も、カメラのシャッター音、撮影開始音／停止音は鳴ります。

通常	音は鳴らず、着信などはバイブレータでお知らせします。
サイレント	音は鳴らず、バイブレータも動作しません。
オリジナル	各着信音やアラーム音、バイブレータなどの設定をお好みで変更できます。

1 カスタム [Settings] ▶ [音・バイブ・マナー] ▶ [マナーモード設定] ▶ [ON]

2 種類を選ぶ ▶ ◎

ワンタッチでマナーモードを設定／解除する

1 待受 # (1 秒以上)

- マナーモードの選択画面が表示されます。約２秒間何も操作しないと、選択中のマナーモードが設定されます。

着信中に#(1 秒以上)を押してもマナーモードを設定／解除することができます。

オリジナルマナーモードの設定を変える

1 カスタム [Settings] ▶ [音・バイブ・マナー] ▶ [マナーモード設定] ▶ [ON] ▶ [オリジナルマナーモード]

2 項目を選ぶ ▶ ◎

3 設定を選ぶ ▶ ◎

- 音量を調節するとき：◎で音量を調節

画面の表示を変える

メインディスプレイの表示を変える

1 カスタム [Settings] ▶ [表示・ランプ・省電力] ▶ [待受設定] ▶ [待受画面設定]

2 画像を選ぶ ▶ [i] ▶ [はい]

サブディスプレイの表示を変える

1 カスタム [Settings] ▶ [表示・ランプ・省電力] ▶ [サブディスプレイ設定] ▶ [待受画面設定]

2 [時計表示]欄を選ぶ ▶ ◎ ▶ 種類を選ぶ ▶ ◎
- [待受時計(縦・特大)]／[待受時計(横・特大)]／[カレンダー]のとき：[待受時計(縦・特大)]／[待受時計(横・特大)]／[カレンダー] ▶ 操作４へ

3 [機能表示]欄を選ぶ ▶ ◎ ▶ 機能を選ぶ ▶ ◎

4 [i]

背景画像を表示する

電話帳、メール、データBOXなど各種画面に背景画像を表示します。

1 カスタム [Settings] ▶ [表示・ランプ・省電力] ▶ [カラー・グラフィック設定] ▶ [背景設定] ▶ [画像表示] ▶ [ON]

マチキャラを設定する

待受画面にキャラクタを表示できます。

1 カスタム [Settings] ▶ [表示・ランプ・省電力] ▶ [カラー・グラフィック設定] ▶ [マチキャラ] ▶ [ON]

2 マチキャラを選ぶ ▶ [i]
- 現在設定しているマチキャラは表示されません。

メニュー項目を変える

きせかえツールによっては、カスタムメニューの項目を他の機能に変更できます。

1 カスタム 項目を選ぶ ▶ [📷] ▶ [機能割り当て変更]

2 割り当てる機能を選ぶ ▶ ◎ ▶ [はい]

文字の設定(フォント)を変える

1 カスタム [Settings] ▶ [表示・ランプ・省電力] ▶ [文字表示設定] ▶ [フォント(書体)設定]

2 フォントを選ぶ ▶ ◉

文字のサイズを変える

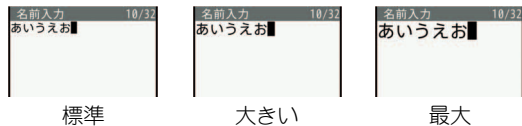
1 カスタム [Settings] ▶ [表示・ランプ・省電力] ▶ [文字表示設定] ▶ [文字サイズ設定]

2 [一括設定] ▶ 文字サイズを選ぶ ▶ ◉

- メニューの変更確認画面が表示された場合、[はい]を選択すると文字サイズとメニューが変更されます。[いいえ]を選択すると文字サイズのみ変更されます。

標準

大きい

最大

待受 5(1秒以上)でも設定できます。
文字サイズが[大きい]→[最大]→[標準]の順に切り替わります。

ベールビューを設定する

周りの人からディスプレイを見えにくくします。

1 Q(1秒以上)

◆ 解除:Q(1秒以上)

きせかえツールを変える

カスタムメニュー画面や待受画面、メニューアイコン、着信音などをまとめて変更できます。

1 カスタム [Data box] ▶ [きせかえツール]

- カスタム [Settings] ▶ [表示・ランプ・省電力] ▶ [カラー・グラフィック設定] ▶ [きせかえツール]でも操作できます。

2 きせかえツールを選ぶ ▶ i ▶ [はい]

- データの確認:きせかえツールを選ぶ ▶ ◉(きせかえツール内データ一覧画面を表示) ▶ データを選ぶ ▶ ◉
  - 音声電話着信ランプ、テレビ電話着信ランプ、メール受信ランプ、開閉連動ランプの場合は、データを選ぶとランプの色と点滅パターンを確認できます。

基本の操作

着信時のイルミネーションランプを変える

1 カスタム [Settings] ▶ [表示・ランプ・省電力] ▶ [ランプ設定] ▶ [着信ランプ]

2 項目を選ぶ ▶ ◉

3 [設定]欄を選ぶ ▶ ◉ ▶ [オリジナル]

- 着信ランプにきせかえツールが設定されているときは、[設定]欄を[オリジナル]に変更すると、ランプの色やパターンを設定できます。

4 [ランプ色]欄を選ぶ ▶ ◉ ▶ ランプ色を選ぶ ▶ ◉

5 [ランプパターン]欄を選ぶ ▶ ◉ ▶ ランプパターンを選ぶ ▶ ◉ ▶

不在着信や新着メールをランプで確認する

不在着信や新着メールがあったときにランプを約４秒間隔で点滅してお知らせします。

1 カスタム [Settings] ▶ [表示・ランプ・省電力] ▶ [ランプ設定] ▶ [お知らせランプ]

2 項目を選ぶ ▶ ◉ ▶ [ON]

電池の消費をおさえる

通常モード（明るさ自動）	通常の照明設定です。明るさは自動調整されます。
通常モード（明るさ固定）	通常の照明設定です。明るさは固定されています。
Ecoモード（省電力）	省電力モードです。
オリジナルEcoモード	ディスプレイの照明時間や明るさなどの設定をお好みで変更できます。

1 カスタム [Settings] ▶ [表示・ランプ・省電力] ▶ [照明・省電力設定]

2 種類を選ぶ ▶ ◉

待受 （１秒以上）▶ [はい]と操作すると、Ecoモード（省電力）に設定できます。

オリジナルEcoモードの設定を変える

ディスプレイとボタンの照明時間を設定する

一定時間FOMA端末を使用しなかったときに、バックライトが点灯している時間を各機能ごとに設定できます。

1. カスタム [Settings] ▶ [表示・ランプ・省電力] ▶ [照明・省電力設定] ▶ [オリジナルEcoモード] ▶ [照明時間設定]
2. 項目を選ぶ ▶ ◎
3. 設定を選ぶ ▶ ◎
   - [通常時]の設定を変更するとき:点灯時間を入力 ▶ ◎

画面の表示時間を設定する

一定時間FOMA端末を使用しなかったときに、ディスプレイの表示を消します。

1. カスタム [Settings] ▶ [表示・ランプ・省電力] ▶ [照明・省電力設定] ▶ [オリジナルEcoモード] ▶ [画面表示時間設定]
2. 時間を選ぶ ▶ ◎

ディスプレイの明るさを調整する

自動	周囲の明るさによって、自動的に明るさを調整します。
手動	16段階で明るさを調整できます。

1. カスタム [Settings] ▶ [表示・ランプ・省電力] ▶ [照明・省電力設定] ▶ [オリジナルEcoモード] ▶ [明るさ調整]
2. 調整方法を選ぶ ▶ ◎

ボタンのバックライトを設定する

ボタンのバックライトの点灯／消灯を設定します。

1. カスタム [Settings] ▶ [表示・ランプ・省電力] ▶ [照明・省電力設定] ▶ [オリジナルEcoモード] ▶ [ボタン照明設定]
2. 設定を選ぶ ▶ ◎

ロック／セキュリティ

各種暗証番号について

FOMA端末には、便利にお使いいただくための各種機能に、暗証番号の必要なものがあります。

各種暗証番号に関するご注意

- 設定する暗証番号は「生年月日」、「電話番号の一部」、「所在地番号や部屋番号」、「1111」、「1234」などの他人にわかりやすい番号はお避けください。また、設定した暗証番号はメモを取るなどしてお忘れにならないようお気をつけください。
- 暗証番号は、他人に知られないように十分ご注意ください。万が一、暗証番号が他人に知られ悪用された場合、その損害については、当社は一切の責任を負いかねます。
- 各種暗証番号を忘れてしまった場合は、契約者ご本人であることが確認できる書類（運転免許証など）やFOMA端末、FOMAカードをドコモショップ窓口までご持参いただく必要があります。
  詳しくは取扱説明書裏面の「総合お問い合わせ先」までご相談ください。
- PINロック解除コードは、ドコモショップでご契約時にお渡しする契約申込書（お客様控え）に記載されています。ドコモショップ以外でご契約されたお客様は、契約者ご本人であることが確認できる書類（運転免許証など）とFOMAカードをドコモショップ窓口までご持参いただくか、取扱説明書裏面の「総合お問い合わせ先」までご相談ください。

端末暗証番号（各種機能用の暗証番号）

お買い上げ時は［0000］に設定されていますが、お客様ご自身で番号を変更できます。

- 端末暗証番号の入力を、5 回連続して間違えると電源が切れます。

端末暗証番号を変える

1. カスタム ［Settings］▶［セキュリティ］▶［端末暗証番号変更］▶現在の端末暗証番号を入力▶◎
2. 新しい端末暗証番号を入力▶◎▶もう一度、新しい端末暗証番号を入力▶◎

ネットワーク暗証番号

ご契約時に任意の番号を設定いただきますが、お客様ご自身で番号を変更できます。

ドコモショップまたはドコモ インフォメーションセンターや「お客様サポート」でのご注文受付時に契約者ご本人を確認させていただく際や各種ネットワークサービスご利用時などに必要な数字 4 桁の番号です。

ネットワーク暗証番号を変える

1 [ｉ Menu]▶[お客様サポート]▶[各種設定(確認・変更・利用)]▶[ネットワーク暗証番号変更]

ｉモードパスワード

ご契約時は[0000]に設定されていますが、お客様ご自身で番号を変更できます。

マイメニューの登録・削除、メッセージサービス、ｉモードの有料サービスのお申し込み・解約などを行う際には４桁の「ｉモードパスワード」が必要になります(その他にも各情報サービス提供者が独自にパスワードを設定していることがあります)。

ｉモードパスワードを変える

1 [ｉ Menu]▶[お客様サポート]▶[各種設定(確認・変更・利用)]▶[ｉモードパスワード変更]

PIN1コード・PIN2コード

ご契約時は[0000]に設定されていますが、お客様ご自身で番号を変更できます。

FOMAカードには、PIN1コード、PIN2コードという２つの暗証番号を設定できます。

PIN1コードは、第三者による無断使用を防ぐため、FOMAカードをFOMA端末に差し込むたびに、またはFOMA端末の電源を入れるたびに使用者を確認するために入力する４～８桁の暗証番号(コード)です。PIN1コードを入力することにより、発着信および端末操作が可能となります。PIN2コードは、積算料金リセット、ユーザ証明書利用時や発行申請を行うときなどに使用する４～８桁の暗証番号(コード)です。

PIN1コード／PIN2コードを変える

1 カスタム [Settings]▶[セキュリティ]▶[FOMAカード(UIM)設定]▶端末暗証番号を入力▶◎

2 変更するPINコードを選ぶ▶◎

3 現在のPINコードを入力▶◎

4 新しいPINコードを入力▶◎▶もう一度、新しいPINコードを入力▶◎

PINロック解除コード

お客様ご自身では変更できません。

PINロック解除コードは、PIN1コード、PIN2コードがロックされた状態を解除するための８桁の番号です。

- PINロック解除コードの入力を、10回連続して間違えるとFOMAカードが完全にロックされます。その場合は、ドコモショップ窓口にお問い合わせください。

各種ロック機能

ロック機能	動作・制限内容	ロック機能	動作・制限内容
オールロック	電源ON／OFFと電話に応答する以外の操作ができないようにします。 ● 設定：カスタム▶[Settings]▶[セキュリティ]▶[ロック設定]▶端末暗証番号を入力▶◎▶[オールロック]▶[はい] ● 解除：待受▶端末暗証番号を入力▶◎	まとめてロック	ダイヤル発信制限・ＩＣカードロック・機能別ロックを一度に設定します。 ● 設定：待受▶◎（１秒以上）▶[まとめてロック]▶[はい] ● 解除：待受▶◎（１秒以上）▶[まとめてロック]▶端末暗証番号を入力▶◎
ダイヤル発信制限	ダイヤルボタンで発信できないようにします。 ● 設定／解除：カスタム▶[Settings]▶[セキュリティ]▶[ロック設定]▶端末暗証番号を入力▶◎▶[ダイヤル発信制限]▶設定を選ぶ▶◎	ＩＣカードロック	ＩＣカード機能を利用できないようにします。 ● 設定：待受▶◎（１秒以上）▶[ＩＣカードロック]▶[はい] ● 解除：待受▶◎（１秒以上）▶[ＩＣカードロック]▶端末暗証番号を入力▶◎
機能別ロック	機能ごとにアクセスを制限します。 ● 設定／解除：カスタム▶[Settings]▶[セキュリティ]▶[ロック設定]▶端末暗証番号を入力▶◎▶[機能別ロック]▶ロック／解除する項目を選ぶ▶◎▶📷	サイドキーロック	サイドボタンを操作できないようにします。 ● 設定／解除：待受▶◎（１秒以上）▶[サイドキーロック]
セルフモード	通信ができないように設定します。 ● 設定／解除：カスタム▶[Settings]▶[通話・通信機能設定]▶[セルフモード]▶設定を選ぶ▶◎▶[はい]	おまかせロック※	FOMA端末を紛失した際などに、ドコモにお電話でご連絡いただくだけで、個人データやＩＣカード機能にロックをかけることができます。 おまかせロックの設定／解除 0120-524-360　受付時間　24時間

※ 有料サービスです。おまかせロックの詳細については、『ご利用ガイドブック（ｉモード<FOMA>編）』をご覧ください。

電話の着信制限

発信者番号のわからない電話を受けない

発信者番号の非通知理由（非通知設定、公衆電話、通知不可能）により、電話を受けないように設定できます。

1 カスタム [Settings] ▶ [セキュリティ] ▶ [着信拒否／許可設定] ▶ 端末暗証番号を入力 ▶ ◎

2 非通知理由の種類を選ぶ ▶ ◎

3 設定を選ぶ ▶ ◎

電話帳未登録の相手からの電話を受けない

1 カスタム [Settings] ▶ [セキュリティ] ▶ [着信拒否／許可設定] ▶ 端末暗証番号を入力 ▶ ◎ ▶ [電話帳登録外]

2 設定を選ぶ ▶ ◎

お買い上げ時の状態に戻す

各種機能の設定をリセットする

- 設定リセットでお買い上げ時の状態に戻る項目については☞P.84

1 カスタム [Settings] ▶ [一般設定] ▶ [設定リセット]

2 端末暗証番号を入力 ▶ ◎

3 [はい] ▶ [確認]

登録データを一括して削除する

お客様が登録されたデータを削除し、各種機能の設定内容をお買い上げ時の状態に戻します。
保護されているデータも削除されます。

1 カスタム [Settings] ▶ [セキュリティ] ▶ [データ一括削除] ▶ [ユーザデータ削除]

2 [確認] ▶ 端末暗証番号を入力 ▶ ◎ ▶ [はい]

遠隔初期化を利用する

本機能の利用契約（ビジネスmoperaあんしんマネージャー）をすることで、管理者からのお申し出により、対象となるFOMA端末の各種データ（FOMA端末／microSDカード／FOMAカード内のメモリ）を初期化することができます。
詳細はドコモの法人向けサイトをご確認ください。
docomo Business Online
パソコン：http://www.docomo.biz/
※ システムメンテナンスなどにより、ご利用になれない場合があります。

- 遠隔初期化はご契約が必要なサービスです。

電話

電話／テレビ電話をかける

- ドコモのテレビ電話は、「国際基準の3GPPで標準化された、3G-324M」に準拠しています。異なる方式を利用しているテレビ電話とは接続できません。

1 待受 電話番号を入力
- 市外局番から入力してください。

2 (音声電話)／(テレビ電話)で発信
- ハンズフリーの設定／解除(音声電話)：(1秒以上)
- ハンズフリーの設定／解除(テレビ電話)：

3 で通話終了

自分から電話をかけたときは、通話中にを押すと音声電話⇔テレビ電話を切り替えることができます。

電話帳から電話をかける

1 待受

2 名前を選ぶ

3 (音声電話)／(テレビ電話)で発信

リダイヤル／着信履歴を利用して電話をかける

1 待受 (リダイヤル)／(着信履歴)

2 電話番号を選ぶ ▶

3 (音声電話)／(テレビ電話)で発信

相手に自分の電話番号を通知する

電話をかけるときに、相手の電話機に自分の電話番号を表示させることができます。

- 発信者番号通知をお願いする旨のガイダンスが聞こえた場合は、発信者番号を通知する設定にするか「186」を付けてからおかけ直しください。

1 カスタム [Settings] ▶ [NWサービス] ▶ [発信者番号通知] ▶ [発信者番号通知設定] ▶ [はい]

つながる

国際電話を利用する

WORLD CALLは、ドコモの携帯電話からご利用いただける国際電話サービスです。
FOMAサービスをご契約のお客様は、ご契約時にあわせて「WORLD CALL」もご契約いただいています(ただし、不要のお申し出をされた方を除きます)。

- 「WORLD CALL」の料金は毎月の携帯電話の通話料金と合わせてご請求いたします。
- 申込手数料・月額使用料は無料です。
- WORLD CALLについては、取扱説明書裏面の「総合お問い合わせ先」までお問い合わせください。
- ドコモ以外の国際電話サービス会社をご利用になるときは、各国際電話サービス会社に直接、お問い合わせください。
- 一部ご利用できない料金プランがあります。

1 待受 ▶ 0(1秒以上)▶ 国番号、地域番号(市外局番)、相手先電話番号を入力

- 地域番号(市外局番)が「0」で始まる場合は、「0」を除いて入力してください(イタリアなど一部の国・地域では、「0」が必要な場合があります)。

2 (音声電話)/(テレビ電話)▶[発信]

電話/テレビ電話を受ける

1 電話がかかってくる

- 着信音が鳴り、着信ランプが点滅します。
- 発信者番号が通知されないときは、非通知理由が表示されます。
  - [非通知設定]:発信者の意思により発信者番号を通知しないで発信したとき
  - [公衆電話]:公衆電話などから発信したとき
  - [通知不可能]:海外からの着信や一般電話から各種転送サービスを経由しての着信など、発信者番号を通知できない相手から発信したとき

2 で通話開始

3 で通話終了

相手の声の大きさを変える

1 通話中に/

2 で音量を調節

電話に出られないときは

公共モード(ドライブモード)

着信音は鳴らず、電話に出られない旨のガイダンスを相手に流します。

1 待受 ▶ ✱(1秒以上)

◆ 解除：待受 ▶ ✱(1秒以上)

公共モード(電源OFF)

電源OFFのときに、電話に出られない旨のガイダンスを相手に流します。

1 待受 ▶ ✱ 2 5 2 5 1 ▶

◆ 解除：待受 ▶ ✱ 2 5 2 5 0 ▶

すぐに電話に出られないときに保留にする

1 着信中に

- 応答保留中にを押す、または相手が電話を切ると通話が終了します(着信履歴に記憶されます)。

2 電話に出られるようになったら

伝言メモ／テレビ電話伝言メモを設定する

伝言メモを設定しておくと、電話に出られないときにFOMA端末が応答して伝言を預かることができます。

1 カスタム ▶ [Settings] ▶ [通話・通信機能設定] ▶ [伝言メモ設定] ▶ [伝言メモ設定]

2 設定を選ぶ ▶ ◎

◆ 伝言メモの再生：カスタム ▶ [LifeKit] ▶ [音声／伝言メモ] ▶ [再生] ▶ メモを選ぶ ▶ ◎

着信中に 7(1秒以上)でも録音／録画できます。

- FOMA端末の故障・修理やその他取り扱いによって録音／録画内容が消失するときがあります。当社としては、責任を負いかねますので、万が一に備え、音声電話伝言メモ、テレビ電話伝言メモの内容は、メモなどに控えをお取りくださるようお願いします。

各種ネットワークサービスを利用する

サービス名称	お申し込み	月額使用料
留守番電話サービス	要	有料
キャッチホン	要	有料
転送でんわサービス	要	無料
迷惑電話ストップサービス	不要	無料
発信者番号通知サービス	不要	無料
番号通知お願いサービス	不要	無料
2in1	要	有料
公共モード(ドライブモード)	不要	無料
公共モード(電源OFF)	不要	無料
デュアルネットワークサービス	要	有料
英語ガイダンス	不要	無料
マルチナンバー	要	有料
OFFICEED	要	有料
メロディコール	要	有料

- サービスエリア外や電波の届かない場所ではネットワークサービスはご利用できません。
- 「OFFICEED」は申し込みが必要なサービスです。ご不明な点はドコモの法人向けサイト(http://www.docomo.biz/html/service/officeed/)をご確認ください。
- 詳細は『ご利用ガイドブック(ネットワークサービス編)』をご覧ください。
- お申し込み、お問い合わせについては、取扱説明書裏面の「総合お問い合わせ先」までお問い合わせください。

留守番電話サービスを利用する

1. カスタム ▶ [Settings] ▶ [NWサービス] ▶ [留守番電話]
2. [留守番電話サービス開始] ▶ [留守番電話サービス開始] ▶ [はい]

キャッチホンを利用する

1. カスタム ▶ [Settings] ▶ [NWサービス] ▶ [キャッチホン]
2. [キャッチホンサービス開始] ▶ [はい]

転送でんわサービスを利用する

1. カスタム ▶ [Settings] ▶ [NWサービス] ▶ [転送でんわ]
2. [転送サービス開始] ▶ [転送サービス開始] ▶ [はい]

FOMA端末から利用できるサービス

- 天気予報は、知りたい地域の市外局番から入力してください。その他のサービスは、局番なしでダイヤルしてください。

利用できるサービス	番　号
番号案内サービス（有料：案内料＋通話料）※	104
電報の発信（有料：電報料）	115
時報サービス（有料）	117
天気予報（有料）	177
警察への緊急通報	110
消防・救急への緊急通報	119
海上で事件・事故が起きたときの緊急通報	118
災害用伝言ダイヤル（有料）	171
コレクトコール（有料：案内料＋通話料）	106

※ 電話番号の案内を希望されないお客様については案内しておりません。

- 一般電話の「転送電話」をご利用のお客様で転送先を携帯電話に指定した場合、一般電話／携帯電話の設定によって携帯電話が通話中、圏外、セルフモード中、電源が入っていないときなどでも発信者には呼出音が聞こえることがあります。
- 本FOMA端末は、「緊急通報位置通知」に対応しております。110番、119番、118番などの緊急通報をおかけになった場合、発信場所の情報（位置情報）が自動的に警察機関などの緊急通報受理機関に通知されます。お客様の発信場所や電波の受信状況により、緊急通報受理機関が正確な位置を確認できないことがあります。位置情報を通知した場合には、待受画面に通報した緊急通報受理機関の名称が表示されます。なお、「184」を付加してダイヤルするなど、通話ごとに非通知とした場合は、位置情報と電話番号は通知されませんが、緊急通報受理機関が人命の保護などの事由から、必要であると判断した場合は、お客様の設定によらず、機関側が位置情報と電話番号を取得することがございます。また、「緊急通報位置通知」の導入地域／導入時期については、各緊急通報受理機関の準備状況により異なります。
- FOMA端末から110番・119番・118番通報の際は、携帯電話からかけていることと、警察・消防機関側から確認などの電話をする場合があるため、電話番号を伝え、明確に現在地を伝えてください。また、通報は途中で通話が切れないように移動せず通報し、通報後はすぐに電源を切らず、10分程度は着信のできる状態にしておいてください。
- かけた地域により、管轄の消防署・警察署に接続されない場合があります。接続されない場合はお近くの公衆電話または一般電話からかけてください。

海外で利用する

国際ローミング（WORLD WING）とは、FOMAをご利用の皆様が海外の通信事業者のネットワークを利用して通話やｉモードなどをご利用いただけるサービスです。
日本国内で使用している携帯電話番号、メールアドレスのまま、海外滞在時も音声電話、テレビ電話、ｉモード、SMSを利用できます。留守番電話サービスや転送でんわサービスなどのネットワークサービスを利用することもできます。

- ご利用の際にはWORLD WINGのお申し込み状況をご確認ください。
- 3GネットワークおよびGSM／GPRSネットワークのサービスエリアでご利用いただけます。また、3G850MHzに対応した国・地域でもご利用いただけます。
- お買い上げ時は、自動的にネットワークの切り替えが行われるように設定されています。
- 国際ローミング中に電話がかかってきたときは、日本からの国際転送となります。発信者には日本までの通話料がかかり、着信側には着信料がかかります。
- 海外でFOMA端末をご利用いただく前に、以下を合わせてご覧ください。
  - 『ご利用ガイドブック（国際サービス編）』
  - 『ご利用ガイドブック（ネットワークサービス編）』
  - ドコモの「国際サービスホームページ」
  - データBOXの［マイドキュメント］にプリインストールされているPDFファイル「海外ご利用ガイド」

WORLD WINGについて

- 2005年９月１日以降にFOMAサービスをご契約いただいた方は、お申し込み不要です。ただし、FOMAサービスご契約時に不要である旨お申し出いただいた方や途中でご解約された方は、再度お申し込みが必要です。
- 2005年８月31日以前にFOMAサービスをご契約で「WORLD WING」をお申し込みいただいていない方はお申し込みが必要です。
- 海外での紛失や盗難、精算、故障に関しては、取扱説明書裏面の「海外での紛失、盗難、精算などについて」または「海外での故障に関して」をご覧ください。なお、紛失・盗難されたあとに発生した通話・通信料もお客様のご負担となりますので、ご注意ください。

海外で利用できるサービス

通信サービス	3G	GSM	GPRS
音声電話	○	○	○
テレビ電話	○	×	×
ｉモードメール	○	×	○
ｉモード※1	○	×	○
ｉチャネル※1※2	○	×	○
ｉコンシェル※3	○	×	○
ｉウィジェット※4	○	×	○
SMS	○	○	○
GPSの現在地確認※5	○	×	○
パソコンなどと接続して行うパケット通信	○	×	○

※1 ｉモード海外利用設定が必要となります。
※2 ｉチャネルの受信ごとに(ベーシックチャネル含む)パケット通信料がかかります。
※3 ｉコンシェルの海外利用設定が必要となります。インフォメーションを受信するたびにパケット通信料がかかります。
※4 ｉウィジェットローミング設定が必要となります。ｉウィジェット画面を表示すると複数のウィジェットアプリが通信する場合があり、この場合1通信ごとにパケット通信料がかかります。
※5 現在地確認した際の通信料は無料です。ただし、位置情報から地図を表示した場合などは、別途パケット通信料がかかります。

● 海外でのご利用料金(通話料、パケット通信料)は、日本国内とは異なります。

滞在国外(日本を含む)に電話をかける

滞在国から日本または他の国へ電話をかけます。

1 待受 0(1秒以上) ▶ 国番号、地域番号(市外局番)、相手先電話番号を入力

● 地域番号(市外局番)が「0」で始まる場合は、「0」を除いて入力してください(イタリアなど一部の国・地域では、「0」が必要な場合があります)。

2 (音声電話)/(テレビ電話)で発信

滞在国内に電話をかける

滞在国で国内電話をかけるときは、日本国内にいるときと同様の操作で電話をかけることができます。

1 待受 電話番号を入力

2 (音声電話)/(テレビ電話)で発信

海外にいるWORLD WING利用者に電話をかける

海外で「WORLD WING」利用中の相手に電話をかけるときは、滞在国内外にかかわらず、日本への国際電話として電話をかけます。

1 待受 0(1秒以上) ▶ 日本の国番号「81」、「0」を除いた相手先携帯電話番号を入力

2 (音声電話)/(テレビ電話)で発信

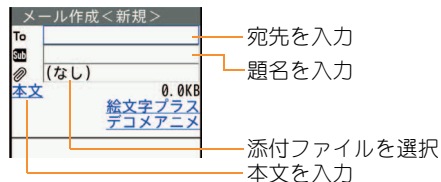
メール

ｉモードを契約するだけで、ｉモード端末間はもちろん、インターネットを経由してe-mailのやりとりができます。
テキスト本文に加えて、合計２Mバイト以内のファイル（写真や動画ファイルなど）を10個まで添付することができます。
また、デコメール®にも対応しており、メール本文の文字の色・大きさや背景色を変えられるほか、デコメ®絵文字も使えて、簡単に表現力豊かなメールを送ることができます。
さらにメッセージや画像を挿入したFlash画像のデコメアニメ®にも対応しております。

- ｉモードメールの詳細については、『ご利用ガイドブック（ｉモード<FOMA>編）』をご覧ください。

ｉモードメールを送信する

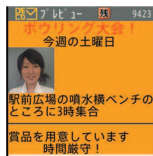
1 待受 [✉] ▶［新規メール作成］

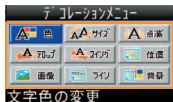
2 メールを作成する

3 [i] で送信

待受 [✉]（１秒以上）でもメール作成画面を表示できます。
また、本文入力後、［絵文字プラス］や［デコメアニメ］を選択すると、簡単に絵文字／デコメ®絵文字の入力やデコメアニメ®の作成ができます。

デコメール®／デコメアニメ®を作成して送信する

デコメール®を作成して送信する

ｉモードメール作成時、本文や背景を装飾することができます。

1 本文入力画面で[カメラ]▶［デコレーション］

2 装飾する

● パレットから装飾方法を選び、装飾内容を設定して本文を入力します。

3 ◎▶[i]で送信

デコメアニメ®を作成して送信する

テンプレートを利用し、Flash画像を使った表現力豊かなメールを作成できます。

1 待受▶[メール]▶［新規デコメアニメ作成］▶［編集］

2 テンプレートを選ぶ▶[i]

3 編集項目を選ぶ▶◎▶編集する

4 [i]▶宛先、題名を入力▶[i]で送信

つながる

受信したｉモードメールを見る

1 ｉモードメールを受信する
- 受信完了画面が表示され、ｉモードメール着信音が鳴ります。
- 約30秒間何も操作しないと、受信前の画面に戻ります。

2 [メール] ▶ メールを選ぶ ▶ ◎

- 本文の文末には[- END -]が表示されます。受信可能文字数を超えたときは、[/]または[//]が表示され、超えた部分が自動的に削除されます。

受信BOXのメールを見る

1 待受 ✉ ▶ [受信BOX]

2 メールを選ぶ ▶ ◎

ｉモードメールがあるか問い合わせる

圏外、セルフモード中、電源が入っていないときなどに送られてきたｉモードメールやメッセージR／Fはｉモードセンターに保管されています。ｉモードセンターに問い合わせて受信できます。

1 待受 ✉ ▶ [ｉモード問い合わせ]

ｉモードメールに返信する

1 受信メール詳細画面で📷 ▶ [返信／転送]

2 [返信] ▶ [ｉモードメール作成]／[デコメアニメ作成]

3 メールを作成・送信

フォルダを作成してメールを振り分ける

メールBOXにフォルダを作成して振分け条件を設定すると、条件にあったｉモードメールやSMSを自動的に振り分けることができます。
- 1つのフォルダに複数の振分け条件を設定できます。

1 待受 ✉ ▶ [受信BOX]／[送信BOX] ▶ 📷 ▶ [フォルダ管理] ▶ [フォルダ新規作成]

2 フォルダ名を入力 ▶ ◎ ▶ [はい]

3 登録する番号を選ぶ ▶ ◎

4 振分け条件を設定する ▶ 🅘

緊急速報「エリアメール」を受信する

気象庁から配信される緊急地震速報などを受信することができるサービスです。

- ｉモードを契約しなくても、エリアメールの受信ができます。

1 エリアメールを受信する

- 専用警報音（ブザー音）またはエリアメール専用着信音が鳴り、着信ランプが赤色で点滅します。
- 受信完了後に本文が自動表示されるものと、[エリアメールを受信しました]と表示されるものがあります。[エリアメールを受信しました]と表示されたときは、約30秒経過すると自動的に受信前の画面に戻ります。

エリアメールを受信するかどうか設定する

1 待受 ▶ [メール設定] ▶ [エリアメール設定] ▶ [受信設定]

2 設定を選ぶ ▶ ◉

SMSを利用する

電話番号を宛先とするSMSを利用できます。

SMSを送信する

1 待受 ▶ [新規SMS作成]

2 SMSを作成・送信

受信したSMSを見る

1 SMSを受信する

2 [メール] ▶ SMSを選ぶ ▶ ◉

SMSの基本的な操作方法はｉモードメールと同様です。

つながる

電話帳

FOMA端末電話帳とFOMAカード電話帳の両方を使用できます。
- FOMA端末電話帳は1000件まで、FOMAカード電話帳は50件まで登録できます。

電話帳に登録する

主な登録内容

アイコン	項　目	内　容
	名前	名前を入力します。
ｶﾅ	フリガナ	フリガナが自動的に入力されます。
	グループ	グループに分けて登録できます。
／※	電話番号	電話番号を登録します。
／※	メールアドレス	メールアドレスを登録します。

※ FOMAカード電話帳で表示されるアイコン
- FOMA端末電話帳にはその他にも、住所や誕生日などが登録できます。

1 待受 ▶ ▶ ▶［新規作成］▶［本体新規］／［FOMAカード（UIM）新規］

2 項目の入力／選択 ▶
- FOMA端末電話帳の場合は、メモリ番号を設定できます。メモリ番号を入力せずに◎を押すと、空いているメモリ番号に登録されます。

リダイヤル／着信履歴から登録する

1 待受 ◎（リダイヤル）／◎（着信履歴）

2 電話番号を選ぶ ▶ ▶［電話帳登録］

3 電話帳に登録

電話帳を修正する

1 待受 ▶ 名前を選ぶ ▶ ▶［データ編集］▶［修正］

2 電話帳を修正 ▶
- FOMA端末電話帳の場合は、メモリ番号を設定できます。メモリ番号を変更せずに◎を押すと、元の電話帳が上書きされます。

電話帳を削除する

1 待受 ▶ 名前を選ぶ ▶ ▶［削除］▶［1件削除］▶［はい］

ｉモード／フルブラウザ

ｉモードでは、サイト接続、インターネット接続などのオンラインサービスをご利用いただけます。
フルブラウザでは、ｉモードに対応していないサイトをパソコンと同じように表示することができます。

- ｉモードはお申し込みが必要な有料サービスです。
- ｉモードの詳細については、『ご利用ガイドブック（ｉモード<FOMA>編）』をご覧ください。
- フルブラウザ中、画像を多く含むホームページの閲覧、データのダウンロードなど、データ量の多い通信を行うと通信料金が高額になりますのでご注意ください。

ｉモードのご利用にあたって

- サイトやインターネット上のホームページの内容は、一般に著作権法で保護されています。これらからｉモード端末に取り込んだ文章や画像などのデータを、個人として楽しむ以外に、著作権者の許可なく一部あるいは全部をそのまま、または改変して販売、再配布することはできません。
- 別のFOMAカードを差し替えたり、FOMAカードを未挿入のまま電源ONにした場合、機種によってサイトから取り込んだデータなどを表示・再生できません。
- FOMAカードにより表示・再生が制限されているファイルを待受画面・指定着信音などに設定している場合、別のFOMAカードを差し替えたり、FOMAカードを未挿入のまま電源ONにすると、設定内容は初期状態にリセットされます。

ｉモードサイトへ接続する

1. 待受 ▶ [i] ▶ 項目を選ぶ ▶ ◉

パソコン向けのホームページを表示する

1. カスタム [i-mode] ▶ ［フルブラウザホーム］
   - 情報量の多いサイトは、正しく表示されない場合があります。

ブラウザを切り替える

- ｉモードとフルブラウザでは通信料金が異なりますので、切り替えるときはご注意ください。

ｉモードからフルブラウザに切り替える

1. ｉモードでサイト表示中に[カメラ] ▶ ［フルブラウザ］ ▶ ［フルブラウザ切替］

フルブラウザからｉモードに切り替える

1. フルブラウザでサイト表示中に[カメラ] ▶ ［ｉモードブラウザ］ ▶ ［ｉモード切替］

しらべる

サイトの見かたと操作

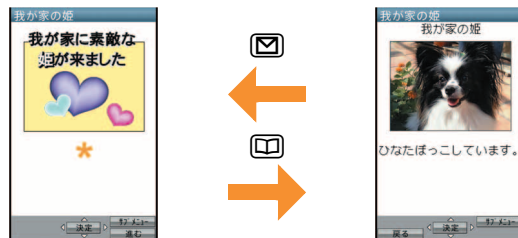
リンクを選んで画面を移動する

1 サイト表示中に◎でリンクを選ぶ▶◎

- 選択中のリンクは、反転表示されます。
- 画像にリンクが設定されていることもあります。選択すると画像が実線で囲まれます。

リンクによっては、ｉモードからフルブラウザに切り替えたり、フルブラウザからｉモードに切り替えたりします。切替確認画面で[はい]を選択してください。

前のページに戻る／次のページに進む

サイトなどを表示してきた経路を記憶しており、通信を行わずに前後のページを表示できます。これを「キャッシュ」といいます。

- キャッシュに記憶されたページを表示するときは、以前入力した文字や設定などの情報は表示されません。
- キャッシュの情報は、ｉモード／フルブラウザを終了するとリセットされます。
- ｉモードからフルブラウザに切り替えたときは、✉を押してｉモードで表示していたページに戻ることができます。同様に、フルブラウザからｉモードに切り替えたときでも、✉を押してフルブラウザで表示していたページに戻ることができます。

ブックマーク／画面メモ

よく見るサイトを登録する

よく見るサイトやインターネットホームページのURLをブックマークに登録しておくと、すぐに見たいページを表示できます。

1 サイト表示中に[カメラ]▶[Bookmark]▶[Bookmark登録]▶[OK]

2 フォルダを選ぶ▶◉

◆ ブックマークからサイトを表示：カスタム▶[i-mode]▶[Bookmark]▶ブックマークを選ぶ▶◉

- ブックマーク一覧は利用した順に表示されます。
- ｉモードのブックマークはｉモード接続し、フルブラウザのブックマークはフルブラウザ接続します。

サイトの内容を保存する

お好きなサイトなどの画面を、画面メモとしてFOMA端末やmicroSDカードに登録（保存）しておくことができます。

1 サイト表示中に[カメラ]▶[画面メモ]▶[画面メモ登録]

2 保存先を選ぶ▶◉▶[はい]

- 画面メモが登録されます。
- スクリーンキャプチャのみ登録：保存先を選ぶ▶◉▶[表示のみ保存]

◆ 画面メモを表示：カスタム▶[i-mode]▶[画面メモ]▶画面メモを選ぶ▶◉

- ページサイズが０バイトのサイトや画面メモ保存不可の指定をしているサイトなど、サイトによっては画面メモに登録できない場合があります。
- 画面メモ内のリンクを選んだ場合、ｉモードの画面メモではｉモード接続し、フルブラウザの画面メモではフルブラウザ接続します。

ｉチャネル

ニュースなどの情報が配信されるサービスです。自動的に受信した最新の情報が待受画面にテロップとして流れます。また、ｉチャネル対応ボタンを押すことで最新情報がチャネル一覧に表示されます。ｉチャネルはお申し込みが必要な有料サービスです（お申し込みにはｉモード契約が必要です）。
ｉチャネルには次の２種類があります。

■「ベーシックチャネル」：ドコモが提供するｉチャネルで、情報の自動更新時にパケット通信料はかかりません。
■「おこのみチャネル」：IP（情報サービス提供者）が提供するｉチャネルで、情報の自動更新時に別途パケット通信料がかかります。

どちらのチャネルも、詳細情報を閲覧する場合は別途パケット通信料がかかりますのでご注意ください。
国際ローミングサービスご利用の際は、自動更新・詳細情報の閲覧共にパケット通信料がかかります。
ｉチャネルの詳細については、『ご利用ガイドブック（ｉモード<FOMA>編）』をご覧ください。

ｉチャネルを表示する

1 待受 CLR（ch）
2 チャネルを選ぶ ▶ ◎

ｉチャネルをメインディスプレイに表示する

メインディスプレイにｉチャネルテロップを表示するかどうかを設定します。

1 カスタム [i-mode] ▶ [ｉチャネル] ▶ [ｉチャネルテロップ設定] ▶ [メイン画面] ▶ [ON]
   ● [OFF]に設定したときは、操作完了となります。
2 [テロップ文字サイズ設定]欄を選ぶ ▶ ◎ ▶ サイズを選ぶ ▶ ◎
3 [テロップ色設定]欄を選ぶ ▶ ◎ ▶ 色を選ぶ ▶ ◎
4 [テロップ速度設定]欄を選ぶ ▶ ◎ ▶ 速度を選ぶ ▶ ◎ ▶ [i]

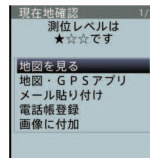
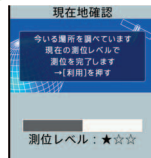
地図・GPS

- FOMA端末の故障、誤動作、不具合、あるいは停電などの外部要因（電池切れを含む）によって、測位（通信）結果の確認などの機会を逸したために生じた損害などの純粋経済損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- FOMA端末は、航空機、車両、人などの航法装置として使用できません。そのため、位置情報を利用して航法を行うことによる損害が発生しても、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 高精度の測量用GPSとしては使用できません。そのため、位置の誤差による損害が発生しても、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- GPSは米国国防総省により運営されておりますので、米国の国防上の都合により、GPSの電波の状態がコントロール（精度の劣化、電波の停止など）されることがあります。
- 位置提供や現在地通知のご利用にあたっては、情報提供者やドコモのホームページなどのお知らせをご確認ください。また、これらの機能の利用は有料となる場合があります。
- FOMA端末のGPS機能は、圏外では利用できません。

自分のいる場所を確認する

現在地を測位して、自分がいる場所を確認します。測位した位置情報を利用して地図を表示したりできます。

- 現在地確認した際の通信料は無料です。ただし、位置情報から地図を表示した場合などは、別途パケット通信料がかかります。

1 カスタム [LifeKit] ▶ [地図・GPS] ▶ [現在地確認]

2 利用方法を選ぶ

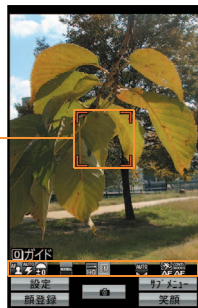
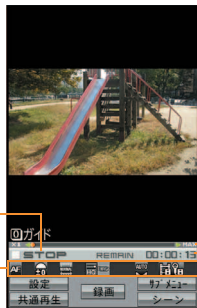
地図を見る

GPS対応ｉアプリを起動して、現在地や指定した場所の地図を見ることができます。

1 カスタム [LifeKit] ▶ [地図・GPS] ▶ [地図]

- 現在地の測位終了後、GPS対応ｉアプリが起動します。

撮影画面の見かたと操作

撮影画面の見かた

1 フォーカス枠
2 撮影状態
3 マーク表示位置
4 ズームバー
5 撮影時間

主なマークの意味

	フォーカスロック	HQ	画質
AUTO	ピクチャーライト	8M	サイズ
±0	明るさ		手ぶれ補正
10	セルフタイマー	AUTO	ホワイトバランス
NORMAL	シーン別撮影		

撮影画面の主なボタン操作

ズーム調整	
一括設定変更	i
明るさ調整	
保存先選択	✱
ピクチャーライト	#
カメラモード切替	1
AFモード	3
画質選択	6
シーン別撮影	7
ホワイトバランス	9
操作ガイド起動	0

静止画／動画を撮影する

- カメラのレンズに直射日光が長時間当たると、内部のカラーフィルターが変色して映像が変色することがあります。また、太陽を直接撮影すると、CCDの性能を損なうときがありますので、ご注意ください。
- カメラは非常に精密度の高い技術で作られていますが、常時明るく見える画素や線、暗く見える画素や線もあります。また、特に光量が少ない場所での撮影では白い線などのノイズが増えますので、ご了承ください。
- 太陽やランプなどの強い光源が含まれる撮影環境で被写体を撮影しようとすると、画像が暗くなったり画像が乱れることがありますので、ご注意ください。
- 電池残量が少ないときは、撮影した静止画や動画を保存できない場合があります。

静止画を撮影する

1. カスタム [Camera] ▶ [静止画撮影]
   - 静止画撮影を起動するとピクチャーライトが点灯します。
2. ◎で撮影
3. ◎で保存

待受 📷でも静止画撮影を起動できます。

動画を撮影する

1. カスタム [Camera] ▶ [動画撮影]
   - 動画撮影を起動するとピクチャーライトが点滅します。
2. ◎で撮影開始
3. ◎で撮影終了
4. [保存]

撮影した静止画／動画を見る

撮影した静止画を見る

1. カスタム [Data box] ▶ [マイピクチャ]
2. [カメラ]フォルダ ▶ 画像を選ぶ ▶ ◎
   - 待受画面などに設定：📷 ▶ [画面設定] ▶ 項目を選ぶ ▶ ◎

撮影した動画を見る

1. カスタム [Data box] ▶ [ｉモーション／ムービー]
2. [カメラ]フォルダ ▶ ｉモーションを選ぶ ▶ ◎
   - 待受画面などに設定：📷 ▶ [音・映像設定] ▶ 項目を選ぶ ▶ ◎

たのしむ

便利な撮影機能

機　能	内　容	設定／起動方法
スマートリサイズズーム※1	ズームの倍率に合わせて、最適な撮影サイズに自動で変更します。	静止画撮影画面で[カメラ]▶[サイズ選択]▶[8M:スマートリサイズズーム]
ベストセレクトフォト※1	シャッター操作をする直前から連続撮影します。お好みの瞬間の写真を選んで保存できます。	静止画撮影画面で[カメラ]▶[撮影メニュー]▶[連続撮影]▶[ベストセレクトフォト]
チェイスフォーカス※1	一度被写体を選択すると、被写体が動いても被写体を追いかけて撮影できます。	静止画撮影画面で[カメラ]▶[フォーカス設定]▶[チェイスフォーカス]▶[ON]
コンティニュアスAF※1	フォーカス枠内に常にピントを合わせ、動きのある被写体でも、ピントが合った写真を撮影できます。	静止画撮影画面で[カメラ]▶[フォーカス設定]▶[コンティニュアスAF]▶[ON]
長時間露光※1	シャッターを長時間開いたままにして撮影します。花火など動きのある被写体や、夜景など光の少ない場所で撮影するときに使用します。	静止画撮影画面で[カメラ]▶[撮影メニュー]▶[長時間露光]▶時間を選ぶ▶◎
高感度撮影(ISO感度)※1	光量の足りない場所でも、明るく、ぶれの少ない写真が撮影できます。	静止画撮影画面で[カメラ]▶[撮影メニュー]▶[ISO感度]▶設定を選ぶ▶◎
顔登録※1	顔の画像を撮影して顔情報として登録したり、登録した顔情報を静止画撮影画面で表示することができます。	静止画撮影画面で[カメラ]▶[カメラ設定]▶[顔登録]▶[新規登録]▶顔を登録する
プリティアレンジカメラ※2	人物の顔を撮影したあとに、顔を小さくしたり、目を大きくしたりするなどのアレンジができます。	カスタム▶[Camera]▶[プリティアレンジカメラ]

※1 静止画撮影時に設定できます。
※2 人物の顔などを編集した静止画は、人格権および肖像権を尊重し、中傷にならないようにご配慮ください。

ワンセグ

ワンセグは、テレビ放送事業者(放送局)などにより提供されるサービスです。映像、音声の受信には通信料がかかりません。なお、NHKの受信料については、NHKにお問い合わせください。

※「データ放送サイト」「ｉモードサイト」などを閲覧する場合は、パケット通信料がかかります。
サイトによっては、ご利用になるために情報料が必要なもの(ｉモード有料サイト)があります。

※「ワンセグ」サービスの詳細については、下記ホームページなどでご確認ください。
社団法人　デジタル放送推進協会
パソコン:http://www.dpa.or.jp/
ｉモード:http://www.dpa.or.jp/1seg/k/

※ 海外ではワンセグは利用できません。

電波について

ワンセグは、放送サービスの１つであり、FOMAサービスとは異なる電波(放送波)を受信しています。
次のような場所では、正しく動作しない場合があります。

■ 放送波が送信される電波塔から離れている場所
■ 山間部やビルの陰など
■ トンネル、地下、建物内の奥まった場所など

※ FOMA端末を体から離したり近づけたり、場所を移動することで受信状態が良くなることがあります。

電池残量について

電池残量が少ないときに録画を開始した場合、または録画中に電池残量が少なくなった場合は、録画ができない旨のメッセージが表示され、録画が終了します。

はじめてワンセグを利用する場合の画面表示

お買い上げ後、はじめてワンセグを利用する場合、免責事項の確認画面が表示されます。
表示される内容を確認して◉を押してください。以後、同様の確認画面は表示されません。

ご利用にあたっての留意点

- 充電しながらワンセグの視聴を長時間行うと、電池パックの寿命が短くなることがあります。
- FOMA端末の故障・修理やその他取り扱いによって、保存内容が消失・変化しても、当社としては責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
  なお、FOMA端末を機種変更や故障修理する際に、端末内に保存した情報(ワンセグから録画したビデオや静止画、テレビリンク、放送用保存領域に保存された情報など)は移し替えできません。
- 海外では、放送形式や放送の周波数が異なるため利用できません(FOMA端末でビデオ録画したワンセグの番組は視聴できます)。

チャンネルを設定する

ワンセグを利用するには、あらかじめチャンネル設定を行う必要があります。

自動チャンネル設定

ご利用になる都道府県／地区を選び、自動的に放送局を検索してチャンネルリストに登録します。

1. カスタム ▶［1Seg］▶［チャンネル設定］
2. 登録する番号を選ぶ ▶ 📷 ▶［自動チャンネル設定］▶［はい］
3. 地域を選ぶ ▶ ◉
4. 都道府県／地区を選ぶ ▶ ◉
5. ◉ ▶［はい］

プリセットチャンネル設定

ご利用になる都道府県／地区を選んでチャンネルリストに登録します。

1. カスタム ▶［1Seg］▶［チャンネル設定］
2. 登録する番号を選ぶ ▶ 📷 ▶［プリセットチャンネル設定］
3. 地域を選ぶ ▶ ◉
4. 都道府県／地区を選ぶ ▶ ◉
5. ◉ ▶［はい］

ワンセグを見る

1. カスタム ▶［1Seg］▶［ワンセグ視聴］

待受 📷（1秒以上）でもワンセグを起動できます。

ワンセグの視聴や録画を予約する

1. カスタム ▶［1Seg］▶［予約リスト］▶ 📷 ▶［新規作成］
2. ［手動入力］▶［視聴予約］／［録画予約］
3. 項目の入力／選択 ▶ ▣

ワンセグを録画したビデオを再生する

1. カスタム ▶［Data box］▶［ワンセグ］
2. ［ビデオ］フォルダ ▶ ビデオを選ぶ ▶ ◉

たのしむ

視聴画面の見かたと操作

ワンセグ視聴画面の見かた

主なマークの意味

	放送電波受信状態 →→(強→弱)
SD	録画状態マーク
TV TA	操作モード
AU TO	Dolby Mobile 設定
	Bluetooth出力
15	音量

ワンセグ視聴画面の主なボタン操作

● 映像モードのボタン操作です。

UP／DOWN選局	◎
ワンタッチ選局	1～9、*、0、#
サーチ選局	◎(1秒以上)／◎(1秒以上) ● サーチ選局の中止：
音量調節	◎
ミュート／解除	
字幕設定ON／OFF	(1秒以上)
番組表ｉアプリ起動	
ビデオ録画	(1秒以上) ● 録画停止：
静止画録画	
映像／データ放送モードの切替	
表示モード切替	(1秒以上)
縦／横表示の切替	◎
ワンセグ終了	CLR／ ▶［はい］

音楽データの取り扱いについて

- 本書ではミュージックプレーヤーで再生する着うたフル®とWMA（Windows Media® Audio）ファイルを合わせて「音楽データ」と記載しています。
  - ・「着うたフル」は株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントの登録商標です。
- FOMA端末では、著作権保護技術で保護されたWMAファイルや着うたフル®を再生できます。
- インターネット上のホームページなどから音楽データをダウンロードする際には、あらかじめ利用条件（許諾、禁止行為など）をよくご確認のうえ、ご利用ください。
- 著作権保護技術で保護されたWMAファイルは、FOMA端末固有の情報を利用して再生しています。故障や修理、機種変更などでFOMA端末固有の情報が変更された場合、変更前に保存したWMAファイルは再生できなくなることがあります。
- CCCD（コピーコントロールCD）の取り扱いや、音楽データをWMAファイルとして保存できない場合については、当社としては責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- FOMA端末やmicroSDカード内に保存した音楽データは、個人使用の範囲内でのみ使用することができます。ご利用にあたっては、著作権などの第三者の知的財産権その他の権利を侵害しないよう十分ご配慮ください。また、FOMA端末やmicroSDカード内に保存した音楽データは、パソコンなど他の媒体に複製または移動しないでください。

Music&Videoチャネルについて

Music&Videoチャネルとは、設定した音楽番組などが夜間に自動配信されるサービスです。

- Music&Videoチャネルはお申し込みが必要な有料サービスです（お申し込みにはｉモード契約およびｉモードパケット定額サービスのご契約が必要です）。
- サービス利用料のほかに、別途情報料がかかる場合があります。
- Music&Videoチャネルにご契約いただいたあと、Music&Videoチャネル非対応のFOMA端末にFOMAカードを差し替えた場合、Music&Videoチャネルはご利用いただけません。ただし、Music&Videoチャネルを解約されない限りサービス利用料がかかりますのでご注意ください。
- 国際ローミング中は番組設定や取得は行えませんが、番組設定や取得を行おうとした場合、ｉモード接続を行うためパケット通信料がかかります。海外へお出かけの際は、事前に番組の配信を停止してください。
- ｉモードまたはMusic&Videoチャネルの解約やマイメニュー登録の削除を行うと、配信番組フォルダ内の番組データが削除されることがあります。

番組を取得する／再生する

番組を取得する

1 カスタム [MUSIC] ▶ [Music&Videoチャネル] ▶ [番組設定] ▶ [はい]

2 画面の指示に従って番組を設定

- 番組配信の12時間前になると、待受画面に[ ]が表示されます。
  番組の取得は夜間に自動的に行われます。取得の成功／失敗に応じてストックアイコンが表示されます（☞P.24）。失敗した場合は、手動で取得してください。

番組を再生する

1 カスタム [MUSIC] ▶ [Music&Videoチャネル]

2 番組を選ぶ ▶ ◎

サイトから音楽データをダウンロードする

サイトから着うたフル®をダウンロードして保存できます。

- 5Mバイトまでの着うたフル®をダウンロードできます。

1 サイト表示中に着うたフル®を選ぶ▶◉

2 [保存]▶保存先を選ぶ▶◉

音楽データを再生する

1 カスタム [Data box]▶[ミュージック]

- カスタム [MUSIC]▶[ミュージックプレーヤー]でも操作できます。

2 音楽データを選ぶ▶◉

プレイリストを作成する

1 音楽データを選ぶ▶📷▶[プレイリストに登録]

2 [1件登録]

3 登録する

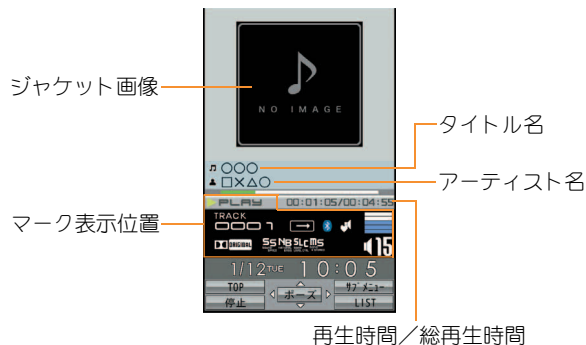
- 新規作成して登録:ⓘ▶プレイリスト名を入力▶◉
- 音楽データの追加:プレイリストを選ぶ▶◉
- 音楽データの上書き:プレイリストを選ぶ▶✉▶[はい]

プレイリストを再生する

1 カスタム [Data box]▶[ミュージック]▶[プレイリスト]

2 プレイリストを選ぶ▶✉

ミュージックプレーヤー画面の見かたと操作

ミュージックプレーヤー画面の見かた

主なマークの意味

▶PLAY	再生状態
	再生モード設定
	Bluetooth出力
ORIGINAL	Dolby Mobile 設定
15	音量

ミュージックプレーヤー画面のボタン操作

一時停止／再生	
停止	
音量調節	
ミュート／解除	
前の曲に戻す／頭出し	
早戻し	（１秒以上）
次の曲を再生	
早送り	（１秒以上）
ボタンに割り振られた再生開始位置にジャンプ	1：先頭 2～9：総再生時間の約1/9ずつ先の位置
ジャケット画像を表示	
歌詞画像を表示	
フォルダ一覧画面を表示	
再生対象の音楽データ一覧画面を表示	
ミュージックプレーヤー終了※	▶［はい］

※ 停止中は確認画面が表示されません。

たのしむ

ｉアプリ／ｉウィジェット

「ｉアプリ」とは、ｉモード対応携帯電話用のソフトです。
ｉモードサイトからさまざまなソフトをダウンロードすれば、自動的に株価や天気情報などを更新させたり、ネットワークに接続していない状態でもゲームを楽しんだり、FOMA端末をより便利にご利用いただけます。
ｉウィジェットとは、株価情報などのコンテンツ(ウィジェットアプリ)にｉウィジェットボタン(◎)1つでアクセスできる便利な機能です。IP(情報サービス提供者)などが提供するサイトからダウンロードすることにより追加できます。

- ｉアプリ、ウィジェットアプリのダウンロードおよびサイトへの接続には別途パケット通信料がかかります。
- ｉウィジェット画面を表示すると、複数のウィジェットアプリが通信することがあります。その場合、別途パケット通信料がかかります。
- 海外でご利用の場合は、国内でのパケット通信料と異なります。
- ｉアプリ／ｉウィジェットの詳細については、『ご利用ガイドブック(ｉモード<FOMA>編)』をご覧ください。
- お買い上げ時に登録されているソフトを削除後にもう一度ご利用になるときは、ｉMenu内のサイト[SH-MODE]からダウンロードできます。
  [ｉMenu]▶[メニューリスト]▶[ケータイ電話メーカー]▶[SH-MODE]
  ・ダウンロードには別途パケット通信料がかかります。

サイト接続用
QRコード

ｉアプリを起動する

1 カスタム [i-αppli]▶[ソフト一覧]

2 ソフトを選ぶ▶◎

待受 [i](1秒以上)でもｉアプリソフト一覧画面を表示できます。

ウィジェットアプリを起動する

ウィジェットアプリを起動します。作業終了後、ｉウィジェット画面に貼り付けると、次回すぐに利用できます。

1 待受 ◎

- ｉウィジェット画面が表示されます。

2 ウィジェットアプリを選ぶ▶◎

3 [✉]／[CLR]

- ｉウィジェット画面にウィジェットアプリが貼り付けられます。
- ウィジェットアプリを終了：[📖]▶[YES]

たのしむ

ｉモーション･ムービー

ｉモーションとは、映像や音声、音楽のデータです。ｉモーション対応サイトなどから取得し、再生することができます。
ｉモーション対応サイトは、ｉMenuの[メニューリスト]から探すこともできます。
また、インターネット上のポータル系サイトなどで提供されている動画(ムービー)は、インターネットムービープレーヤーで再生できます。

- インターネットムービープレーヤーはWindows Media Video、Windows Media Audioの再生に対応しています。
- ムービーを取得する際に、大容量データを受信する可能性があります。データ量の多い通信を行うと、通信料金が高額になりますので、ご注意ください。
- パソコンなどを利用してmicroSDカードのインポートフォルダに保存したムービーも再生できます。

ｉモーション･ムービーを再生する

サイトからｉモーションを取得して再生する

1 サイト表示中にｉモーションを選ぶ ▶ ◉

- ｉモーションを保存：📷 ▶ [保存] ▶ 保存先を選ぶ ▶ 📷
  - ・保存したｉモーションは、ｉモーションプレーヤーで再生できます。

サイトからムービーを取得して再生する

1 サイト表示中にムービーを選ぶ ▶ ◉ ▶ [はい] ▶ [確認]

- microSDカードのインポートフォルダのムービーを再生：カスタム [LifeKit] ▶ [microSD] ▶ [インポート] ▶ [ｉモーション／ムービー] ▶ ムービーを選ぶ ▶ ◉ ▶ [確認]

たのしむ

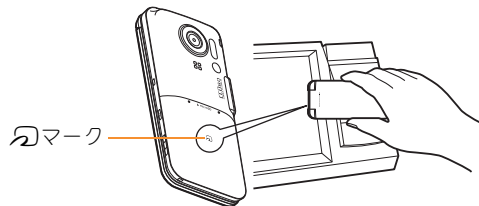
おサイフケータイ／トルカについて

おサイフケータイは、ＩＣカードが搭載されておりお店などの読み取り機にFOMA端末をかざすだけでお支払いなどができる機能です。
さらに、通信を利用して電子マネーを入金したり、残高や利用履歴を確認することができます。また、安心してご利用いただけるよう、セキュリティも充実しています。
トルカとはおサイフケータイで取得できる電子カードで、チラシやレストランカード、クーポン券などの用途で便利にご利用いただけます。

- FOMA端末の故障により、ＩＣカード内データ（電子マネー、ポイントなど含む）が消失・変化してしまう場合があります（修理時など、FOMA端末をお預かりする場合は、データが残った状態でお預かりすることができませんので、原則データをお客様自身で消去していただきます）。データの再発行や復元、一時的なお預かりや移し替えなどのサポートは、ｉＣお引っこしサービスによる移し替えを除き、おサイフケータイ対応サービス提供者にご確認ください。重要なデータについては必ずバックアップサービスのあるサービスをご利用ください。
- 故障、機種変更など、いかなる場合であっても、ＩＣカード内のデータの消失・変化、その他おサイフケータイ対応サービスに関して生じた損害について、当社としては責任を負いかねます。
- FOMA端末の盗難、紛失時は、すぐにご利用のおサイフケータイ対応サービスの提供者に対応方法をお問い合わせください。

マークを読み取り機にかざす

FOMA端末のマークを読み取り機にかざして、電子マネーや乗車券として利用したり、トルカを取得したりできます。

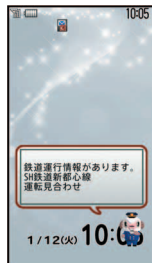
- 読み取り機にかざすときは、次のことに注意してください。
  - ■ FOMA端末を読み取り機にぶつけない
  - ■ マークと読み取り機を平行にかざす
  - ■ マークはできるだけ読み取り機の中心位置にかざす
  - ■ 読み取り機に認識されないときは、マークを前後左右にずらしてかざす
  - ■ マーク面に金属物などを付けない

ｉコンシェル

「ｉコンシェル」とは、執事やコンシェルジュのように、お客様の生活をサポートするサービスです。お客様のさまざまなデータをお預かりし、生活エリアやお客様の居場所、趣味趣向にあわせた情報を適切なタイミングでお届けします。ｉコンシェルの情報は、待受画面上でマチキャラ（待受画面上のキャラクタ）がお知らせします。

- ｉコンシェルはお申し込みが必要な有料サービスです（お申し込みにはｉモードの契約が必要です）。
- ケータイデータお預かりサービスのご契約をされていないお客様が、ｉコンシェルを新たにご契約になる場合、同時にケータイデータお預かりサービスにもご契約いただいたことになります。
- コンテンツ（インフォメーション、ｉスケジュールなど）によっては、ｉコンシェルの月額使用料のほかに、別途情報料がかかる場合があります。
- インフォメーションの受信には一部を除いて別途パケット通信料がかかります。
- 詳細情報のご利用には別途パケット通信料がかかります。
- 国際ローミングサービスご利用の際は、受信・詳細情報の閲覧共にパケット通信料がかかります。また、海外でご利用の場合は、国内でのパケット通信料と異なります。
- ｉスケジュール・トルカ・電話帳の自動更新時には別途パケット通信料がかかります。
- ｉコンシェルの詳細については、『ご利用ガイドブック（ｉモード<FOMA>編）』をご覧ください。

インフォメーションを受信したとき

1 インフォメーションを受信する

- 待受画面にポップアップメッセージが表示されます。

「ひつじのしつじくん®」
©NTT DOCOMO

2 ◎ ▶ メッセージを選ぶ ▶ ◎

3 インフォメーションを選ぶ

ｉコンシェル画面を表示する

1 カスタム [i-concier]

2 インフォメーションを選ぶ

3 詳細な情報を入手するときは◎

より便利に

便利ツール

スケジュールを利用する

1 カスタム [LifeKit] ▶ [クラシックスケジュール]

- スケジュールの確認：◎で日付を選ぶ ▶ ◎ ▶ 予定を選ぶ ▶ ◎

2 📷 ▶ [新規作成]

3 項目の入力／選択 ▶ ⓘ

アラームを利用する

1 カスタム [LifeKit] ▶ [アラーム]

2 登録する番号を選ぶ ▶ ◎

3 項目の入力／選択 ▶ ⓘ

バーコードリーダーを利用する

バーコード(JANコード、QRコード)から読み取った文字を利用して、i モード接続、フルブラウザ接続、メール作成、音声電話やテレビ電話の発信、SMS作成、i アプリの起動などを行うことができます。

1 カスタム [Camera]／[LifeKit] ▶ [バーコードリーダー]

2 ◎を押して読み取る

- バーコードとカメラを10cm以上離してください。

3 読み取り結果を利用する

主に次のコードを読み取ることができます。

JANコード

読み取り結果：
[4942857119022]

QRコード

読み取り結果：
[株式会社NTTドコモ]

より便利に

その他の便利ツール

機能名	内　容	起動方法
コラムリーダー	新聞や雑誌などの記事を読み取り、メールやテキストメモを作成できます。	カスタム [Camera] ▶ [コラムリーダー]
名刺リーダー	名刺(日本語、英語)を読み取り、電話帳に新規登録できます。	カスタム [Camera]／[LifeKit] ▶ [名刺リーダー]
情報リーダー	雑誌などから店名や電話番号などの情報を読み取り、電話帳に新規登録できます。	カスタム [Camera]／[LifeKit] ▶ [情報リーダー]
PDF対応ビューア	PDFデータを表示することができます。	カスタム [LifeKit] ▶ [PDF対応ビューア] ▶ ファイルを選ぶ ▶ ◉
ドキュメントビューア	Microsoft Wordファイル、Microsoft Excelファイルや画像ファイルなどを表示することができます。	カスタム [LifeKit] ▶ [ドキュメントビューア] ▶ ファイルを選ぶ ▶ ◉
マンガ・ブックリーダー	電子書籍／電子辞書／電子コミックを表示できます。	カスタム [LifeKit] ▶ [マンガ・ブックリーダー] ▶ データを選ぶ ▶ ◉
ハンドミラー	サブカメラを使って手鏡のように利用することができます。	カスタム [Camera] ▶ [ハンドミラー]

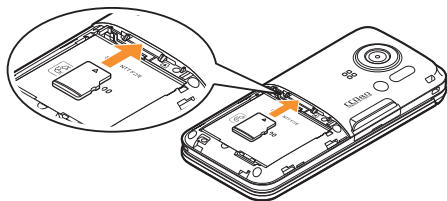
microSDカードを利用する

FOMA端末内の電話帳やメール、ブックマークなどのデータをmicroSDカードに保存したり、microSDカード内のデータをFOMA端末に取り込むことができます。
microSDカードをご利用になるには、別途microSDカードが必要となります。
microSDカードおよびmicroSDカードアダプタをお持ちでない場合は、家電量販店などでお買い求めいただけます。

- SH-02Bでは市販の２Gバイトまでのmicro SDカード、16Gバイトまでのmicro SDHCカードに対応しています（2010年７月現在）。microSDカードの動作確認情報については次のサイトをご覧ください。また、掲載されているmicroSDカード以外については、動作しない場合がありますのでご注意ください。
  ｉモードから［SH-MODE］（2010年７月現在）：［ｉ Menu］▶［メニューリスト］▶［ケータイ電話メーカー］▶［SH-MODE］
  パソコンから：http://k-tai.sharp.co.jp/support/d/sh-02b/
  なお、掲載されている情報は動作確認の結果であり、すべての動作を保証するものではありませんので、あらかじめご了承ください。
- FOMA端末の電源を入れたまま、microSDカードの取り付け／取り外しを行わないでください。データが壊れたり、正常に動作しなくなることがあります。
- FOMA端末にmicroSDカードを挿入した直後や、microSDカード内のデータ編集中に、microSDカードを取り外したり、電源を切らないでください。データが壊れたり、正常に動作しなくなることがあります。
- フォーマットされていないmicroSDカードを使うときは、FOMA端末でフォーマットする必要があります。パソコンなどでフォーマットしたmicroSDカードは、FOMA端末では正常に使用できないことがあります。
- 他のFOMA端末やパソコンなどで使用していたmicroSDカードを挿入したときは、使用できないことがあります。
- microSDカードに保存されたデータはバックアップをとるなどして別に保管してくださるようお願いします。万が一、保存されたデータが消失または変化しても、当社としては責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 著作権保護機能に対応していないmicroSDカードはFOMAサポート対象となっていないため、データの保存やコピーなどの保証はいたしかねます。

microSDカードの取り付けかた

1 金属端子面を下に向けて挿入する

- 取り外すときは、軽く押し込んでから引き抜きます。

- 取り付け／取り外しの際は「カチッ」と音がするまで押し込んでください。
- 無理な力を加えると、FOMA端末・microSDカードが破損するおそれがあります。ご注意ください。
- microSDカードスロットを顔の方に向けて、挿入したり、取り外したりしないでください。急に指を離すとmicroSDカードが飛び出し危険です。

フォーマットする

1 カスタム [LifeKit] ▶ [microSD] ▶ [フォーマット]

2 端末暗証番号を入力 ▶ ◉ ▶ [はい]

- フォーマットを行うと、microSDカードの内容がすべて消去されますのでご注意ください。

データを表示する

1 カスタム [LifeKit] ▶ [microSD] ▶ [microSDデータ参照]

2 データを選ぶ ▶ ◉

microSDカードにデータをコピーする

例：ｉモーションのとき

1 カスタム [Data box] ▶ [ｉモーション／ムービー]

2 ｉモーションを選ぶ ▶ 📷 ▶ [移動／コピー] ▶ [microSDへコピー]

3 コピー方法を選ぶ

microSDカードにデータをバックアップする

電話帳、メール、スケジュール、ブックマーク、テキストメモ、FOMA端末の設定内容・情報を一括してmicroSDカードにバックアップできます。

1 カスタム [LifeKit] ▶ [microSD] ▶ [一括バックアップ／復元] ▶ [microSDへバックアップ]

2 端末暗証番号を入力 ▶ ◉ ▶ [はい]

Bluetooth機能

FOMA端末とBluetooth機器をワイヤレスで接続できます。

- すべてのBluetooth機器とのワイヤレス通信を保証するものではありません。
- Bluetooth機器が発信する電波は、電子医療機器などの動作に影響を与える可能性があります。場合によっては事故を発生させる原因になりますので、次の場所ではFOMA端末の電源および周囲のBluetooth機器の電源を切ってください。
  - ■ 電車内　■ 航空機内　■ 病院内
  - ■ 自動ドアや火災報知機から近い場所
  - ■ ガソリンスタンドなど引火性ガスの発生する場所

Bluetooth機器を登録する

- あらかじめ相手のBluetooth機器を登録待機状態にしておいてください。

1 カスタム [LifeKit] ▶ [Bluetooth] ▶ [機器リスト・接続・切断] ▶ [はい]

2 登録するBluetooth機器を選ぶ ▶ ◉

3 Bluetoothパスキーを入力 ▶ ◉
- お好きな４～16桁の数字を決めておき、FOMA端末・相手のBluetooth機器で同じ数字を入力します。

- 相手のBluetooth機器によっては、Bluetoothパスキーの入力が不要な場合もあります。

登録したBluetooth機器と接続する

1 カスタム [LifeKit] ▶ [Bluetooth] ▶ [機器リスト・接続・切断]

2 接続するBluetooth機器を選ぶ ▶ ◉

登録待機／接続待機にする

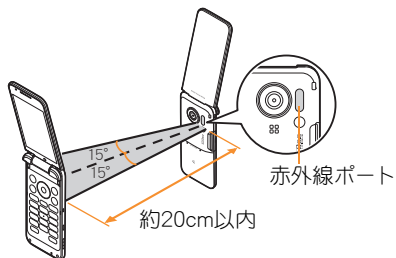
待受画面で、他のBluetooth機器からの登録要求／接続要求を受けられる状態にします。

1 カスタム [LifeKit] ▶ [Bluetooth] ▶ [接続待機]
- 接続待機にするサービスを選択：[接続待機]を選ぶ ▶ [i] ▶ サービスを選ぶ ▶ ◉ ▶ [📷]
- 待機状態を解除する場合は、Bluetooth電源をOFFにしてください。

FOMA端末のBluetooth電源をON／OFFにする

- Bluetooth電源をOFFにすると、接続中または接続待機中のすべてのサービスが停止します。Bluetooth電源をONにすると、前回接続または接続待機にしていたサービスや、登録機器のうち接続したことのあるサービスが接続待機になります。

1 カスタム [LifeKit] ▶ [Bluetooth] ▶ [Bluetooth電源オン]／[Bluetooth電源オフ] ▶ [はい]

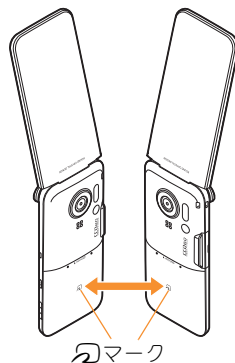
赤外線通信を使ってデータを送受信する

● 受信側と送信側のFOMA端末の赤外線ポートが約20cm以内に向き合うようにしてください。

データを送信する

1 データを選ぶ ▶ [カメラ] ▶ [データ送信] ▶ [赤外線送信] ▶ [送信] ▶ [はい]

データを受信する

1 カスタム [LifeKit] ▶ [赤外線受信] ▶ [受信] ▶ [はい] ▶ [はい]

ｉＣ通信を使ってデータを送受信する

● 受信側と送信側のFOMA端末の マークを重ね合わせてご利用ください。

データを送信する

1 データを選ぶ ▶ [カメラ] ▶ [データ送信] ▶ [ｉＣ送信] ▶ [送信] ▶ [はい] ▶ マークを重ね合わせる

データを受信する

1 待受 マークを重ね合わせる

2 [はい]

故障かな？と思ったら

- まずはじめに、ソフトウェアを更新する必要があるかをチェックして、必要な場合にはソフトウェアを更新してください（☞P.80）。
- 気になる症状のチェック項目を確認しても症状が改善されないときは、取扱説明書裏面の「故障お問い合わせ先」、またはドコモ指定の故障取扱窓口までお気軽にご相談ください。

電源

FOMA端末の電源が入らない	
● 電池パックが正しく取り付けられていますか。	P.19
● 電池切れになっていませんか。	−

充電

充電ができない（充電ランプが点灯しない、または点滅する）	
● 電池パックが正しく取り付けられていますか。	P.19
● アダプタの電源プラグがコンセントまたはシガーライタソケットに正しく差し込まれていますか。	P.20
● アダプタとFOMA端末が正しくセットされていますか。	P.20
● ACアダプタ（別売）をご使用の場合、ACアダプタのコネクタがFOMA端末または卓上ホルダ（別売）にしっかりと接続されていますか。	P.20
● 卓上ホルダを使用する場合、FOMA端末の充電端子は汚れていませんか。汚れたときは、端子部分を乾いた布、綿棒などで清掃してください。	−
● 充電しながら通話や通信、その他機能の操作を長時間行うと、FOMA端末の温度が上昇して充電ランプが点滅する場合があります。その場合は、FOMA端末の温度が下がってから再度充電を行ってください。	−

端末操作

操作中・充電中に熱くなる	
● 操作中や充電中、また、充電しながらｉアプリやテレビ電話、ワンセグ視聴などを長時間行った場合などには、FOMA端末や電池パック、アダプタの温度が高くなることがありますが、安全上問題ありませんので、そのままご使用ください。	−
電池の使用時間が短い	
● 圏外の状態で長い時間放置されるようなことはありませんか。 圏外時は通信可能な状態にできるよう電波を探すため、より多くの電力を消費しています。	−
● 電池パックの使用時間は、使用環境や劣化度により異なります。	−
● 電池パックは消耗品です。充電を繰り返すごとに、1回で使える時間が次第に短くなっていきます。 十分に充電しても購入時に比べて使用時間が極端に短くなった場合は、指定の電池パックをお買い求めください。	−
電源断・再起動が起きる	
● 電池パックの端子が汚れていると接触が悪くなり、電源が切れることがあります。汚れたときは、電池パックの端子を乾いた布、綿棒などで拭いてください。	−
● FOMAカードのＩＣ部分が汚れていませんか。	−
ボタンを押しても動作しない	
● オールロックを設定していませんか。	P.38
● サイドキーロックを設定していませんか。	P.38
● FOMA端末の電源が切れていませんか。	P.22
FOMAカードが認識しない	
● FOMAカードを正しい向きで挿入していますか。	P.19
● FOMAカード（青色）を挿入していませんか。	P.19

通話

ダイヤル発信できない	
● オールロックを設定していませんか。	P.38
● ダイヤル発信制限を設定していませんか。	P.38
● セルフモードを設定していませんか。	P.38

通話ができない（場所を移動しても[圏外]の表示が消えない、電波の状態は悪くないのに発信または着信ができない）	
● 電源を入れ直すか、電池パックまたはFOMAカードを入れ直してください。	P.19 P.22
● 電波の性質により、「圏外ではない」「電波状態は[ ]を表示している」状態でも発信や着信ができない場合があります。場所を移動してかけ直してください。	−
● 電話帳指定着信許可、電話帳指定着信拒否など着信制限を設定していませんか。	−
● 電波の混み具合により、多くの人が集まる場所では電話やメールが混み合い、つながりにくい場合があります。その場合は[しばらくお待ちください]と表示され、話中音が流れます。場所を移動するか、時間をずらしてかけ直してください。	−

おサイフケータイ

おサイフケータイが使えない	
● 電池パックを取り外したり、おまかせロックを起動したりすると、ＩＣカードロックの設定にかかわらずＩＣカード機能が利用できなくなります。	P.38
● ＩＣカードロックを設定していませんか。	P.38
● FOMA端末の マークがある位置を読み取り機にかざしていますか。	P.69

保証とアフターサービス

保証について

- FOMA端末をお買い上げいただくと、保証書が付いていますので、必ずお受け取りください。記載内容および「販売店名・お買い上げ日」などの記載事項をお確かめのうえ、大切に保管してください。必要事項が記載されていない場合は、すぐにお買い上げいただいた販売店へお申し付けください。
  無料保証期間は、お買い上げ日より１年間です。
- この製品は付属品を含め、改良のため予告なく製品の全部または一部を変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

アフターサービスについて

調子が悪い場合は

修理を依頼される前に、本書または本FOMA端末に搭載の「サポートブック」の「故障かな？と思ったら」をご覧になってお調べください。それでも調子が良くないときは、取扱説明書裏面・故障お問い合わせ先にご連絡のうえ、ご相談ください。

お問い合わせの結果、修理が必要な場合

ドコモ指定の故障取扱窓口にご持参いただきます。ただし、故障取扱窓口の営業時間内の受付となります。なお、故障の状態によっては修理に日数がかかる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

保証期間内は

- 保証書の規定に基づき無料で修理を行います。
- 故障修理を実施の際は、必ず保証書をお持ちください。保証期間内であっても保証書の提示がないもの、お客様のお取り扱い不良（ディスプレイ・コネクタなどの破損）による故障・損傷などは有料修理となります。
- ドコモの指定以外の機器および消耗品の使用に起因する故障は、保証期間内であっても有料修理となります。

以下の場合は、修理できないことがあります。

- 故障受付窓口にて水濡れと判断した場合（例：水濡れシールが反応している場合）
- お預かり検査の結果、水濡れ、結露・汗などによる腐食が発見された場合や内部の基板が破損・変形していた場合（外部接続端子（イヤホンマイク端子）・ディスプレイなどの破損や筐体亀裂の場合においても修理ができない可能性があります）

※ 修理を実施できる場合でも保証対象外になりますので有料修理となります。

保証期間が過ぎた場合は

ご要望により有料修理いたします。

部品の保有期間は

FOMA端末の補修用性能部品（機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は、製造打ち切り後6年間を基本としております。ただし、故障箇所によっては修理部品の不足などにより修理ができない場合もございますので、あらかじめご了承ください。

お願い

- FOMA端末および付属品の改造はおやめください。
  - ■ 改造の内容によっては故障修理をお断りする場合があります。以下のような場合は改造とみなされる場合があります。
    - ・ ディスプレイやボタン部にシールなどを貼る
    - ・ 接着剤などによりFOMA端末に装飾を施す
    - ・ 外装などをドコモ純正品以外のものに交換するなど
  - ■ 改造が原因による故障・損傷の場合は、保証期間内であっても有料修理となります。
- FOMA端末に貼付されている銘版シールは、はがさないでください。
  - ■ 銘版シールの内容が確認できないときは、技術基準適合の判断ができないため、故障修理をお受けできない場合がありますので、ご注意願います。

技術基準適合認証品

- 各種機能の設定や積算通話時間などの情報は、FOMA端末の故障・修理やその他お取り扱いによってクリア（リセット）される場合があります。
  - ■ お手数をおかけしますが、この場合は再度設定を行ってくださるようお願いいたします。
- FOMA端末の下記の箇所に、磁気を発生する部品を使用しています。キャッシュカードなど、磁気の影響を受けやすいものを近づけますとカードが使えなくなることがありますので、ご注意ください。
  - ■ 使用箇所：スピーカ、受話口部
- FOMA端末が濡れたり湿気を帯びてしまった場合は、すぐに電源を切って電池パックを外し、お早めに故障取扱窓口へご来店ください。ただし、FOMA端末の状態によって修理できないことがあります。

ｉモード故障診断サイト

ご利用中のFOMA端末において、メール送受信や画像・メロディのダウンロードなどが正常に動作しているかを、お客様ご自身でご確認いただけます。ご確認の結果、故障と思われる場合は、取扱説明書裏面の「故障お問い合わせ先」までお問い合わせください。

「ｉモード故障診断サイト」への接続方法

ｉモードサイト：[ｉMenu] ▶ [お知らせ] ▶ [サポート情報] ▶ [お問い合わせ] ▶ [故障・電波状況お問い合わせ先] ▶ [ｉモード故障診断]

サイト接続用QRコード

- ｉモード故障診断のパケット通信料は無料となります。
  - ・ 海外からのアクセスの場合は有料となります。

ソフトウェア更新

FOMA端末のソフトウェアを更新する必要がある場合に、パケット通信を使って更新する機能です。

※ ソフトウェア更新のパケット通信料は無料です。
更新に関する情報は、ドコモのホームページおよびｉMenuの「お客様サポート」にてご案内いたします。更新方法には、「自動更新」、「即時更新」、「予約更新」の３つの方法があります。

- ソフトウェア更新は、FOMA端末に登録された電話帳、カメラ画像、ダウンロードデータなどのデータを残したまま行うことができますが、お客様のFOMA端末の状態（故障・破損・水濡れなど）によってはデータの保護ができない場合がございますので、あらかじめご了承願います。必要なデータはバックアップを取っていただくことをおすすめします。ただし、ダウンロードデータなどバックアップが取れないデータがありますので、あらかじめご了承願います。

ご利用にあたって

- ソフトウェア更新中は電池パックを外さないでください。更新に失敗することがあります。
- ソフトウェア更新を行う際は、電池をフル充電しておいてください。
- ソフトウェア更新（ダウンロード、書換え）には時間がかかることがあります。
- ソフトウェア更新中は、電話の発信、着信、各種通信機能および、その他機能を利用できません（ダウンロード中は音声着信が可能です）。
- ソフトウェア更新は、電波が強く、アンテナマークが３本表示されている状態で、移動せずに実行することをおすすめします。ソフトウェアダウンロード中に電波状態が悪くなったり、ダウンロードが中止された場合は、再度電波状態のよい場所でソフトウェア更新を行ってください。
- ソフトウェア更新の際、お客様のFOMA端末固有の情報（機種や製造番号など）が、自動的にサーバ（当社が管理するソフトウェア更新用サーバ）に送信されます。当社は送信された情報を、ソフトウェア更新以外の目的には利用いたしません。
- ソフトウェア更新に失敗した場合、[書換え失敗しました]と表示され、一切の操作ができなくなります。その場合には、大変お手数ですがドコモ指定の故障取扱窓口までお越しいただきますようお願いいたします。
- 海外ではソフトウェア更新をご利用できません。

ストックアイコンからソフトウェアを更新する

ソフトウェアが自動でダウンロードされると、待受画面にストックアイコンが表示されます(☞P.24)。

1 待受 ◉ ▶ ストックアイコン[ ](ソフトウェア更新必要あり)を選ぶ ▶ ◉

2 [OK]

- 曜日と時刻を設定するとき:[時刻変更]
- すぐに書換えるとき:[今すぐ書換え]

メニューからソフトウェアを更新する

1 カスタム [Settings] ▶ [一般設定] ▶ [ソフトウェア更新]

2 端末暗証番号を入力 ▶ ◉ ▶ [更新実行]

3 更新方法を選ぶ ▶ ◉

有害なデータをチェックする

FOMA端末に取り込んだデータやプログラムについて、データを検知して、障害を引き起こす可能性を含むデータの削除やアプリケーションの起動を中止します。

- スキャン機能は、ホームページの閲覧やメール受信などの際にFOMA端末に何らかの障害を引き起こすデータの侵入から一定の防衛手段を提供する機能です。各障害に対応したパターンデータがFOMA端末にダウンロードされていない場合、または各障害に対応したパターンデータが存在しない場合、本機能にて障害などの発生を防ぐことができませんのであらかじめご了承ください。
- パターンデータはFOMA端末の機種ごとにデータの内容が異なります。よって当社の都合により端末発売開始後3年を経過した機種向けパターンデータの配信は、停止することがありますのであらかじめご了承ください。

パターンデータを更新する

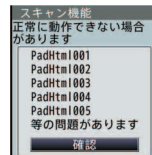
- まずはじめに、パターンデータの更新を行い、パターンデータを最新にしてください。

1 カスタム [Settings] ▶ [一般設定] ▶ [スキャン機能] ▶ [パターンデータ更新] ▶ [はい] ▶ [はい]

2 パターンデータ更新が完了したら◉

スキャン結果の表示について

スキャンされた問題要素の表示について

- 警告画面で[問題要素名一覧]を選択すると、問題要素名が表示されます。パターンデータの内容によって問題要素名がない場合、[問題要素名一覧]は表示されません。
- 問題要素名は最大5個まで表示されます。6個以上検出した場合は、5個目の問題要素名の下に[等の問題があります]と表示されます。また、同じ問題要素を複数検出した場合は、1個のみ表示されます。

スキャン結果の表示について

警告レベル0	警告レベル1	警告レベル2	警告レベル3	警告レベル4
スキャン機能 正常に動作できない場合があります 確認 問題要素名一覧	スキャン機能 正常に動作できない場合があります 動作を中止しますか？ はい いいえ 問題要素名一覧	スキャン機能 正常に動作できない場合があるため終了します 確認 問題要素名一覧	スキャン機能 正常に動作できない場合があります データを削除しますか？ はい いいえ 問題要素名一覧	スキャン機能 正常に動作できないためデータを削除します 確認 問題要素名一覧
[確認]:表示／起動／発信	[はい]:中止 [いいえ]:表示／起動／発信	[確認]:終了	[はい]:削除確認画面へ [いいえ]:データを削除しないで終了	[確認]:データ削除

オプション・関連機器のご紹介

FOMA端末にさまざまな別売りのオプション機器を組み合わせることで、パーソナルからビジネスまでさらに幅広い用途に対応できます。
なお、地域によってはお取り扱いしていない商品もあります。詳しくは、ドコモショップなど窓口へお問い合わせください。
また、オプションの詳細については、各機器の取扱説明書などをご覧ください。

- FOMA ACアダプタ01※1／02※1
- 電池パック SH21
- リアカバー SH35
- 卓上ホルダ SH29
- イヤホンターミナル P001※2
- 平型ステレオイヤホンセット P01※3
- 平型スイッチ付イヤホンマイク P01※3／P02※3
- ステレオイヤホンセット P001※2
- スイッチ付イヤホンマイク P001※2／P002※2
- イヤホンマイク 01
- ステレオイヤホンマイク 01
- イヤホンジャック変換アダプタ P001※3
- 外部接続端子用イヤホン変換アダプタ 01
- イヤホン変換アダプタ 01
- FOMA USB接続ケーブル※4
- ワイヤレスイヤホンセット 02
- FOMA海外兼用ACアダプタ 01※1
- FOMA DCアダプタ01／02
- FOMA室内用補助アンテナ※5
- 車載ハンズフリーキット 01※6
- FOMA車載ハンズフリー接続ケーブル 01
- 車内ホルダ01※7
- FOMA乾電池アダプタ 01
- キャリングケースS 01
- キャリングケース 02
- 骨伝導レシーバマイク 01※3／02
- FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02※4
- FOMA 補助充電アダプタ 01
- FOMA室内用補助アンテナ(スタンドタイプ)※5

※1 ACアダプタの充電方法については、P.20をご覧ください。
※2 外部接続端子用イヤホン変換アダプタ 01とイヤホンジャック変換アダプタを接続しないとご利用になれません。
※3 外部接続端子用イヤホン変換アダプタ 01を接続しないとご利用になれません。
※4 USB HUBを使用すると、正常に動作しない場合があります。
※5 日本国内でご利用ください。
※6 SH-02Bを充電するためには、FOMA車載ハンズフリー接続ケーブル 01が必要です。
※7 車内ホルダ01をご利用になるときは、サイドキーロックを設定してください。

メニュー一覧

- [ ] の項目は、設定リセット（☞P.39）でお買い上げ時の状態に戻る項目です。
  - ・項目の中には、お買い上げ時の状態に戻らない機能を含んでいる場合があります。

カスタムメニュー／基本メニュー一覧

- カスタムメニューに設定されているきせかえツールによっては、機能名の表記が異なる場合があります。

ｉモードメニュー

i-mode	
ｉMenu・検索	
Bookmark	
画面メモ	
ラストURL	
URL入力	URL入力
	URL入力履歴
ｉチャネル	ｉチャネル一覧起動
	ｉチャネルテロップ設定
	ｉチャネル初期化
ｉモード設定	ｉモードブラウザ設定
	フルブラウザ設定
	共通設定
	ｉモード設定確認
	ｉモード設定リセット

i-mode
RSSリーダー
フルブラウザホーム

ｉアプリメニュー

i-αppli	
ソフト一覧	
ｉアプリコール履歴	
ｉアプリ設定	ｉアプリ音量設定
	ソフト情報表示設定
	自動起動設定
	省電力設定
	ｉアプリコールDL設定
	ｉウィジェットローミング設定
	ｉウィジェット効果音
ｉアプリ使用データ	
情報表示	自動起動失敗履歴
	強制終了履歴
	セキュリティエラー履歴
	トレース表示

カメラメニュー

Camera
静止画撮影
動画撮影
プリティアレンジカメラ
コラムリーダー
バーコードリーダー

Camera
名刺リーダー
情報リーダー
モーションデコ
ショットデコ
カメラルーペ
ハンドミラー

メールメニュー

Mail	
受信BOX	
新規メール作成	
送信BOX	
未送信BOX	
新規デコメアニメ作成	
新規SMS作成	
ｉモード問い合わせ	
SMS問い合わせ	
メール選択受信	メール選択受信
	メール選択受信設定
テンプレート	デコメテンプレート
	デコメアニメテンプレート
メール設定	クイック返信メール設定
	添付ファイル受信設定
	メロディ自動再生
	文字サイズ設定
	受信・自動送信表示
	ｉモード問い合わせ設定
	詳細直接表示設定
	メッセージ自動表示設定
	メール選択受信設定

Mail	
メール設定	ブログ／SNS投稿先設定
	メールメンバー設定
	署名登録
	メールテロップ設定
	SMS設定
	エリアメール設定
	編集時自動保存設定
	プレビュー後既読設定
	メール設定確認
	メール設定リセット
	シークレットメール設定
	アドレス・迷惑メール設定

設定メニュー

Settings	
音・バイブ・マナー	音量選択
	音選択
	バイブレータ設定
	マナーモード設定
	イヤホン切替設定
	着信鳴動時間設定
	呼出動作開始時間設定
	保留・応答保留音
	音再生設定
表示・ランプ・省電力	待受設定
	サブディスプレイ設定
	文字表示設定
	カラー・グラフィック設定
	ランプ設定
	表示画質設定

Settings	
表示・ランプ・省電力	照明・省電力設定
	ベールビュー設定
	メニュー優先設定
一般設定	確認
	文字入力設定
	自動電源ON／OFF
	日時設定
	Bilingual
	USBモード設定
	スキャン機能
	ソフトウェア更新
	設定リセット
NWサービス	留守番電話
	キャッチホン
	転送でんわ
	迷惑電話ストップ
	発信者番号通知
	番号通知お願いサービス
	通話時間／料金確認
	2in1設定
	通話中着信
その他のNWサービス	遠隔操作設定
	デュアルネットワーク
	英語ガイダンス
	ドコモへのお問い合わせ
	追加サービス
	マルチナンバー
	着もじ
	ローミングガイダンス設定

Settings	
通話・通信機能設定	通話中設定
	イヤホンスイッチ発信設定
	着信時設定
	テレビ電話設定
	伝言メモ設定
	クローズ動作設定
	セルフモード
	フェムトセル設定
	その他の設定
セキュリティ	シークレットモード
	FOMAカード（UIM）設定
	着信拒否／許可設定
	発着信履歴表示
	メール履歴表示
	ロック設定
	端末暗証番号変更
	データ一括削除
ｉコンシェル設定	ｉコンシェル着信設定
	インフォメーション表示設定
電池	電池残量
	電池マーク表示設定
	電池マーク%一時表示
初期設定	

電話メニュー

Phone
電話帳
リダイヤル
着信履歴
自局番号表示

おサイフケータイメニュー

Osaifu-Keitai	
ＩＣカード一覧	
DCMX	
トルカ	
ＩＣカードロック設定	電源ON時ＩＣロック設定
	電源OFF時ＩＣロック設定
設定	ＩＣカードからトルカ取得
	ワンセグからトルカ取得
	トルカ重複チェック
	トルカ自動読取チェック
	トルカ自動表示
	トルカサウンド設定
ＩＣオーナー確認	
ＩＣオーナー変更	
ｉモードで探す	

データBOXメニュー

Data box
マイピクチャ
ミュージック
Music&Videoチャネル
ｉモーション／ムービー
ワンセグ
メロディ
マイドキュメント
きせかえツール
マチキャラ
キャラ電
データBOX検索
アルバム

ｉコンシェルメニュー

i-concier
ｉコンシェル

ワンセグメニュー

1 Seg	
ワンセグ視聴	
番組表	
予約リスト	
予約録画履歴	
テレビリンク	
チャンネル設定	
ワンセグ設定	ビデオ録画先設定
	放送用保存領域消去
	画像表示設定
	効果音鳴動設定
	ワンセグ設定確認
	確認表示設定リセット
	ワンセグ設定リセット

LifeKitメニュー

LifeKit （1/2）	
バーコードリーダー	
赤外線受信	受信
	全件受信
microSD	microSD一括振分け
	microSDデータ参照
	一括バックアップ／復元
	個別バックアップ／復元
	インポート
	管理情報の更新

LifeKit (1/2)	
microSD	フォーマット
	USBモード設定
Bluetooth	接続待機
	Bluetooth受信
	機器リスト・接続・切断
	新規機器登録
	Bluetooth電源オン／Bluetooth電源オフ
	送信予約データ削除
	Bluetooth設定
プレゼンアシスト	
テキストメモ	
スケジュール	
アラーム	
電卓	
地図・GPS	地図
	イマドコサーチ
	イマドコかんたんサーチ
	ｉエリア-周辺情報-
	地図・GPSアプリ
	現在地確認
	位置履歴
	現在地確認設定
	現在地通知／設定
	位置提供設定
	地図設定
名刺リーダー	
情報リーダー	

LifeKit (2/2)
ケータイデータお預かり
タイマー
お目覚めTV
マンガ・ブックリーダー
ドキュメントビューア
PDF対応ビューア
ボイスレコーダー
音声／伝言メモ
クラシックスケジュール
クイック検索

MUSICメニュー

MUSIC
ミュージックプレーヤー
Music&Videoチャネル

その他の機能

受話音量調節	
テレビ電話	
マナーモード	
おまかせロック	
サイドキーロック	
絵文字プラス®	
ショートカットメニュー	
文字入力	文字入力／辞書設定

主な仕様

本体

項目			仕様
品名			SH-02B
サイズ			高さ約110mm×幅約50mm×厚さ約16.9mm(最厚部:約18.1mm)(折りたたみ時)
質量			約117g(電池パック装着時)
連続通話時間※1※2	FOMA/3G		音声電話時:約210分
			テレビ電話時:約110分
	GSM		音声電話時:約200分
連続待受時間※2※3	FOMA/3G	3G/GSM切替:3G	移動時:約340時間※4
		3G/GSM切替:自動	移動時:約320時間※4
			静止時:約490時間※5
	GSM	3G/GSM切替:自動	静止時:約280時間※5
ワンセグ視聴時間			約240分
充電時間			ACアダプタ:約120分
			DCアダプタ:約120分
ディスプレイ	方式		メインディスプレイ:NEWモバイルASV液晶　16,777,216色 サブディスプレイ:有機EL　1色
	サイズ		メインディスプレイ:約3.4inch サブディスプレイ:約1.4inch
	画素数		メインディスプレイ:409,920画素(480×854ドット) サブディスプレイ:12,288画素(192×64ドット)
撮像素子	種類		メインカメラ:CCD※6 サブカメラ:CMOS※6

項目		仕様
撮像素子	サイズ	メインカメラ:1/2.8inch サブカメラ:1/8.2inch
カメラ部	有効画素数	メインカメラ:約800万画素 サブカメラ:約43万画素
	記録画素数(最大時)	メインカメラ:約800万画素 サブカメラ:約41万画素
	ズーム(デジタル)	メインカメラ:最大約20.4倍 サブカメラ:最大約5.4倍
ピクチャーライト光源LED特性		a) 連続発光 b) 波長 白:400-700nm c) 最大出力 白:0.55mW(本体内部0.62mW)
記録部	静止画記録枚数	約2000枚※7※8
		約390枚※7※9
		約1800枚(microSDカード(64Mバイト)保存時)※7
	静止画連続撮影	待受:8枚/VGA:10枚/QVGA:40枚/QCIF:40枚
	静止画ファイル形式	JPEG
	動画録画時間	1件あたり約18分※10
		1件あたり約60分(microSDカード(64Mバイト)保存時)※10
	動画ファイル形式	MP4
音楽再生	連続再生時間	iモーション:約500分※11
		着うたフル®(バックグラウンド再生対応):約1220分※11
		WMAファイル(バックグラウンド再生対応):約1110分※12

音楽再生	連続再生時間	Music&Videoチャネル(音声)(バックグラウンド再生対応):約1200分
		Music&Videoチャネル(動画):約500分
保存容量	着うた®	約140Mバイト※13
	着うたフル®	

- 「着うた」は株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントの登録商標です。

※1 連続通話時間とは、電波を正常に送受信できる状態で通話に使用できる時間の目安です。

※2 データ通信やマルチアクセス実行時およびカメラ起動時も、前述の通話時間や待受時間より短くなります。

※3 連続待受時間とは、FOMA端末を折りたたみ、電波を正常に受信できる状態で移動したときの目安です。なお、電池パックの充電状態、機能設定状況、気温などの使用環境、利用場所の電波状態(電波が届かない、または弱い)などにより、通話・待受時間は半分程度になることがあります。iモード通信を行うと通話(通信)・待受時間は短くなります。また、通話やiモード通信をしなくても、ワンセグの視聴、iモードメールの作成、Bluetooth機能、ダウンロードしたiアプリ、iアプリ待受画面を起動させると通話(通信)・待受時間は短くなります。

※4 FOMA端末を折りたたみ、電波を正常に受信できるエリア内で「静止」、「移動」と「圏外」を組み合わせた状態での平均的な利用時間です。

※5 FOMA端末を折りたたみ、電波を正常に受信できる静止状態での平均的な利用時間です。

※6 CCD(charge coupled device:電荷結合素子)およびCMOS(complementary metal-oxide semiconductor:相補型金属酸化膜半導体)とは、銀塩カメラのフィルムに当たる部分を構成する撮像素子です。

※7 画像サイズ:QCIF(176×144ドット)/画質:ノーマル/ファイルサイズ:10Kバイト

※8 お買い上げ時に登録されているデータ(削除可能なデータ)を削除した場合の撮影枚数です。

※9 お買い上げ時に登録されているデータ(削除可能なデータ)を削除していない場合の撮影枚数です。

※10 画像サイズ:sQCIF(128×96ドット)/画質:ノーマル/ファイルサイズ制限:制限なし/種別:映像+音声

※11 ファイル形式:AAC形式

※12 ファイル形式:WMA形式

※13 静止画、動画、ミュージック、メロディ、マイドキュメント、きせかえツール、マチキャラ、キャラ電、iアプリ、電子書籍/電子辞書/電子コミック、Music&Videoチャネル、ビデオ、トルカを保存している場合には、着うた®/着うたフル®の保存容量は少なくなります。

電池パック

品名	電池パック SH21
使用電池	リチウムイオン電池
公称電圧	DC 3.7 V
公称容量	770 mAh

ビデオの保存件数と録画時間の目安

	保存件数	録画時間
FOMA端末	最大99件	最長約40分※1
microSDカード(16Gバイト)※2	最大99件	最長約5120分

※1 お買い上げ時に登録されているデータ(削除可能なデータ)を削除した場合の録画時間です。

※2 1回あたりの録画サイズは2Gバイト(約640分)までです。2Gバイトを超えるmicroSDカードを使用し、空き容量があっても録画を終了します。

FOMA端末の保存・登録件数

種　別		保存・登録可能件数
電話帳		1000※1
ワンセグ	テレビリンク	100
	視聴予約／録画予約	50※2
スケジュール	スケジュール	2500
	休日	100
	祝日	20※3
テキストメモ		10
メール（SMSとｉモードメールの合計）	受信メール	2500※4※5※6
	送信メール	500※4※5
	未送信メール	500※5
デコメ®テンプレート		100※6
デコメアニメ®テンプレート		100※6
メッセージ	メッセージR	50※5
	メッセージF	50※5
ブックマーク		200
画面メモ		400※5
ダウンロード辞書		9※7
ｉアプリ		100※5※6
画像		2000※5※6※8
動画／ｉモーション		100※5※6
きせかえツール		50※5※6
マチキャラ		50※5※6
キャラ電		50※5※6
メロディ		500※5
PDFデータ		50※5※6
トルカ		200※5
電子書籍／電子辞書／電子コミック		1000※5※6

種　別	保存・登録可能件数
ワンセグのビデオ	99※5
フォント（TTF）	1

※1　50件までFOMAカードに保存できます。
※2　視聴予約と録画予約を合わせた件数です。
※3　あらかじめ登録されている国民の祝日とは別に登録できます。
※4　SMSの場合はさらに受信メールと送信メールを合わせて20件までFOMAカードに保存できます。
※5　メモリの使用状況によっては実際に保存できる件数が少なくなる場合があります。
※6　お買い上げ時に登録されている削除可能なデータも含みます。
※7　使用辞書には5件まで設定できます。
※8　ワンセグで録画した静止画も含みます。

携帯電話機の比吸収率（SAR）

この機種SH-02Bの携帯電話機は、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準に適合しています。
この技術基準は、人体頭部のそばで使用する携帯電話機などの無線機器から送出される電波が人間の健康に影響を及ぼさないよう、科学的根拠に基づいて定められたものであり、人体側頭部に吸収される電波の平均エネルギー量を表す比吸収率（SAR：Specific Absorption Rate）について、これが２W/kg※の許容値を超えないこととしています。この許容値は、使用者の年齢や身体の大きさに関係なく十分な安全率を含んでおり、世界保健機関（WHO）と協力関係にある国際非電離放射線防護委員会（ICNIRP）が示した国際的なガイドラインと同じものとなっています。
すべての機種の携帯電話機は、発売開始前に、電波法に基づき国の技術基準に適合していることの確認を受ける必要があります。この携帯電話機SH-02BのSARの値は0.861W/kgです。この値は、財団法人テレコムエンジニアリングセンターによって取得されたものであり、国が定めた方法に従い、携帯電話機の送信電力を最大にして測定された最大の値です。個々の製品によってSARに多少の差異が生じることもありますが、いずれも許容値を満足しています。また、携帯電話機は、携帯電話基地局との通信に必要な最低限の送信電力になるよう設計されているため、実際に通話している状態では、通常SARはより小さい値となります。
SARについて、さらに詳しい情報をお知りになりたい方は、下記のホームページを参照してください。

総務省のホームページ
http://www.tele.soumu.go.jp/j/sys/ele/index.htm
社団法人電波産業会のホームページ
http://www.arib-emf.org/
ドコモのホームページ
http://www.nttdocomo.co.jp/product/sar/
シャープ株式会社のホームページ
http://www.sharp.co.jp/products/menu/phone/cellular/sar/index.html

※ 技術基準については、電波法関連省令（無線設備規則第14条の２）で規定されています。

European RF Exposure Information

Your mobile device is a radio transmitter and receiver. It is designed not to exceed the limits for exposure to radio waves recommended by international guidelines. These guidelines were developed by the independent scientific organization ICNIRP and include safety margins designed to assure the protection of all persons, regardless of age and health.
The guidelines use a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR. The SAR limit for mobile devices is 2 W/kg and the highest SAR value for this device when tested at the ear was 0.768 W/kg※.
As SAR is measured utilizing the devices highest transmitting power the actual SAR of this device while operating is typically below that indicated above. This is due to automatic changes to the power level of the device to ensure it only uses the minimum level required to reach the network.

The World Health Organization has stated that present scientific information does not indicate the need for any special precautions for the use of mobile devices. They note that if you want to reduce your exposure then you can do so by limiting the length of calls or using a hands-free device to keep the mobile phone away from the head.

※ The tests are carried out in accordance with international guidelines for testing.

Declaration of Conformity

CE 0168

Hereby, Sharp Telecommunications of Europe Ltd, declares that this SH-02B is in compliance with the essential requirements and other relevant provisions of Directive 1999/5/EC.
A copy of the original declaration of conformity can be found at the following Internet address:
http://www.sharp.co.jp/k-tai/

FCC Notice

- This device complies with part 15 of the FCC Rules.
  Operation is subject to the following two conditions:
  (1) This device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.
- Changes or modifications not expressly approved by the manufacturer responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

Information to User

This equipment has been tested and found to comply with the limits of a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications.
However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation; if this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

1. Reorient/relocate the receiving antenna.
2. Increase the separation between the equipment and receiver.
3. Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
4. Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

FCC RF Exposure Information

Your handset is a radio transmitter and receiver.
It is designed and manufactured not to exceed the emission limits for exposure to radio frequency (RF) energy set by the Federal Communications Commission of the U.S. Government.
The guidelines are based on standards that were developed by independent scientific organisations through periodic and thorough evaluation of scientific studies. The standards include a substantial safety margin designed to assure the safety of all persons, regardless of age and health.
The exposure standard for wireless handsets employs a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR. The SAR limit set by the FCC is 1.6 W/kg.
The tests are performed in positions and locations (e.g., at the ear and worn on the body) as required by the FCC for each model. The highest SAR value for this model handset when tested for use at the ear is 0.706 W/kg and when worn on the body, as described in this user guide, is 0.720 W/kg.
Body-worn Operation; This device was tested for typical body-worn operations with the back of the handset kept 1.5 cm from the body. To maintain compliance with FCC RF exposure requirements, use accessories that maintain a 1.5 cm separation distance between the user's body and the back of the handset. The use of beltclips, holsters and similar accessories should not contain metallic components in its assembly.
The use of accessories that do not satisfy these requirements may not comply with FCC RF exposure requirements, and should be avoided.

The FCC has granted an Equipment Authorization for this model handset with all reported SAR levels evaluated as in compliance with the FCC RF emission guidelines. SAR information on this model handset is on file with the FCC and can be found under the Display Grant section of http://www.fcc.gov/oet/ea/fccid/ after searching on FCC ID APYHRO00110.
Additional information on Specific Absorption Rates (SAR) can be found on the Cellular Telecommunications & Internet Association (CTIA) Website at http://www.ctia.org/.

輸出管理規制

本製品及び付属品は、日本輸出管理規制(「外国為替及び外国貿易法」及びその関連法令)の適用を受ける場合があります。また米国再輸出規制(Export Administration Regulations)の適用を受けます。本製品及び付属品を輸出及び再輸出する場合は、お客様の責任及び費用負担において必要となる手続きをお取りください。詳しい手続きについては経済産業省または米国商務省へお問い合わせください。

知的財産権

著作権・肖像権について

- お客様が本製品を利用して撮影またはインターネット上のホームページからのダウンロードやテレビ、ビデオなどにより取得した文章、画像、音楽、ソフトウェアなど第三者が著作権を有するコンテンツは、私的使用目的の複製や引用など著作権法上認められた場合を除き、著作権者に無断で複製、改変、公衆送信などすることはできません。
  実演や興行、展示物などには、私的使用目的であっても撮影または録音を制限している場合がありますので、ご注意ください。
  また、お客様が本製品を利用して本人の同意なしに他人の肖像を撮影したり、撮影した他人の肖像を本人の同意なしにインターネット上のホームページに掲載するなどして不特定多数に公開することは、肖像権を侵害するおそれがありますのでお控えください。

商標について

- 「FOMA」、「おサイフケータイ」、「トルカ」、「mopera」、「キャラ電」、「デコメール®」、「デコメ®」、「デコメアニメ®」、「ｉアプリ」、「ｉモーション」、「ｉモード」、「ｉチャネル」、「DCMX」、「WORLD WING」、「公共モード」、「WORLD CALL」、「デュアルネットワーク」、「セキュリティスキャン」、「メッセージF」、「マルチナンバー」、「おまかせロック」、「ケータイデータお預かりサービス」、「着もじ」、「ｉCお引っこしサービス」、「きせかえツール」、「OFFICEED」、「ｉエリア」、「2in1」、「Music&Videoチャネル」、「メロディコール」、「エリアメール」、「イマドコサーチ」、「イマドコかんたんサーチ」、「マチキャラ」、「ｉコンシェル」、「ｉウィジェット」、「ｉアプリコール」、「ｉスケジュール」、「docomo STYLE series」、「i-mode」ロゴ、「FOMA」ロゴ、「i-αppli」ロゴはNTTドコモの商標または登録商標です。
- フリーダイヤルサービス名称とフリーダイヤルロゴマークはＮＴＴコミュニケーションズ株式会社の登録商標です。
- symbian 本機には、Symbian Software Ltd よりライセンス供与されたソフトウェアが含まれています。
  Symbian、Symbian OS、およびすべてのSymbian 関連の商標およびロゴはSymbian Software Ltd の商標または登録商標です。
  © 1998-2009 Symbian Software Ltd. All rights reserved.
- キャッチホンは日本電信電話株式会社の登録商標です。
- マルチタスク／Multitaskは、日本電気株式会社の登録商標です。
- Microsoft®、Windows®、Windows Vista®、PowerPoint®、Windows Media®は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Microsoft Excel、Microsoft Wordは、米国のMicrosoft Corporationの商品名称です。
- JavaおよびすべてのJava関連の商標およびロゴは、米国およびその他の国における米国Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。
- QuickTimeは、米国および他の国々で登録された米国Apple Inc.の登録商標です。
- QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。
- microSDHCロゴはSD-3C, LLCの商標です。

- Powered by JBlend™ Copyright 2002-2009 Aplix Corporation. All rights reserved.
  JBlendおよびJBlendに関する商標は、日本およびその他の国における株式会社アプリックスの商標または登録商標です。

- ドキュメントビューアはPicsel Technologiesにより実現しています。Picsel, Picsel Powered, Picsel Viewer, Picsel Document Viewer and the Picsel cube logo are trademarks or registered trademarks of Picsel Technologies and/or its affiliates.
- 「AXISフォント」は株式会社アクシスの登録商標です。
  また、「AXIS」フォントはタイププロジェクト株式会社が制作したフォントです。
- この製品では、シャープ株式会社が液晶画面で見やすく、読みやすくなるよう設計したLCフォントが搭載されています。LCフォント／LCFONTおよび®は、シャープ株式会社の登録商標です。
- McAfee®、マカフィー®は米国法人McAfee, Inc. またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標です。
- Gガイド、G-GUIDE、Gガイドモバイル、G-GUIDE MOBILE、およびGガイド関連ロゴは、米Gemstar-TV Guide International, Inc. およびその関係会社の日本国内における登録商標です。

- Google, モバイルGoogle マップは、Google,Inc.の登録商標です。
- IrSimple™、IrSS™またはIrSimpleShot™は、Infrared Data Association®の商標です。
- 「CROSS YOU」は、ソニー株式会社の商標です。
- はフェリカネットワークス株式会社の登録商標です。

- ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー及びダブルＤ記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
- FlashFX® Pro™は、米国Datalight, Inc.の商標または登録商標です。（U.S.Patent Office 5,860,082/6,260,156）
- PhotoSolid®、FrameSolid®、PhotoScouter®、ImageSurf®、StroboPhoto®、TrackSolid®は株式会社モルフォの登録商標です。
- 本製品には株式会社モルフォのMorpho Effect Library [PRETTY]を採用しております。
Morpho Effect Library [PRETTY]は株式会社モルフォの商標です。
- 本製品は沖電気工業株式会社の顔認識エンジンFSE（Face Sensing Engine）を使用しています。

FSEおよびFSEロゴは沖電気工業株式会社の商標です。
- 「ベールビュー」、「VeilView」、「チェイスフォーカス」、「スマートリサイズズーム」、「モーションデコ」、「ショットデコ」、「ベストセレクトフォト」、「プリティアレンジカメラ」、「お目覚めTV」、「プレゼンアシスト」はシャープ株式会社の商標または登録商標です。
- その他の社名および商品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

その他

- ＦｅｌｉＣａは、ソニー株式会社が開発した非接触ＩＣカードの技術方式です。ＦｅｌｉＣａは、ソニー株式会社の登録商標です。
- 本製品はMPEG-4 Visual Patent Portfolio Licenseに基づき、下記に該当するお客様による個人的で且つ非営利目的に基づく使用がライセンス許諾されております。これ以外の使用については、ライセンス許諾されておりません。
  - ■ MPEG-4ビデオ規格準拠のビデオ（以下「MPEG-4ビデオ」と記載します）を符号化すること。
  - ■ 個人的で且つ営利活動に従事していないお客様が符号化したMPEG-4ビデオを復号すること。
  - ■ ライセンス許諾を受けているプロバイダから取得したMPEG-4ビデオを復号すること。

  その他の用途で使用する場合など詳細については、米国法人MPEG LA, LLCにお問い合わせください。
- 本製品はMPEG-4 Systems Patent Portfolio Licenseに基づき、MPEG-4システム規格準拠の符号化についてライセンス許諾されています。ただし、下記に該当する場合は追加のライセンスの取得およびロイヤリティの支払いが必要となります。
  - ■ タイトルベースで課金する物理媒体に符号化データを記録または複製すること。
  - ■ 永久記録および／または使用のために、符号化データにタイトルベースで課金してエンドユーザに配信すること。

  追加のライセンスについては、米国法人MPEG LA, LLCより許諾を受けることができます。詳細については、米国法人MPEG LA, LLCにお問い合わせください。

- 本製品は、AVCポートフォリオライセンスに基づき、お客様が個人的に、且つ非商業的な使用のために（ｉ）AVC規格準拠のビデオ（以下「AVCビデオ」と記載します）を符号化するライセンス、および／または（ｉｉ）AVCビデオ（個人的で、且つ商業的活動に従事していないお客様により符号化されたAVCビデオ、および／またはAVCビデオを提供することについてライセンス許諾されているビデオプロバイダーから入手したAVCビデオに限ります）を復号するライセンスが許諾されております。その他の使用については、黙示的にも一切のライセンス許諾がされておりません。さらに詳しい情報については、MPEG LA,L.L.C.から入手できる可能性があります。HTTP://WWW.MPEGLA.COMをご参照ください。
- 本製品は、VC-1 Patent Portfolio Licenseに基づき、お客様が個人的に、且つ非商業的な使用のために（ｉ）VC-1規格準拠のビデオ（以下「VC-1ビデオ」と記載します）を符号化するライセンス、および／または（ｉｉ）VC-1ビデオ（個人的で、且つ商業的活動に従事していないお客様により符号化されたVC-1ビデオ、および／またはVC-1ビデオを提供することについてライセンス許諾されているビデオプロバイダーから入手したVC-1ビデオに限ります）を復号するライセンスが許諾されております。その他の使用については、黙示的にも一切のライセンス許諾がされておりません。さらに詳しい情報については、MPEG LA,L.L.C.から入手できる可能性があります。HTTP://WWW.MPEGLA.COMをご参照ください。
- 本製品はAdobe Systems IncorporatedのAdobe® Flash® Lite®および Adobe Reader® Mobile テクノロジーを搭載しています。

Powered by ADOBE® FLASH®

Adobe、Adobe Reader、Flash、およびFlash Lite はAdobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびにその他の国における登録商標または商標です。
- 本製品は、株式会社ACCESSのNetFront Browser、NetFront Sync Client、NetFront Browser DTV Profile One-seg Editionを搭載しています。
ACCESS、ACCESSロゴ、NetFrontは日本国、米国、およびその他の国における株式会社ACCESSの登録商標または商標です。

本製品の一部分にIndependent JPEG Groupが開発したモジュールが含まれています。

ACCESS™ NetFront®

- 本製品はジェスチャーテックの技術を搭載しております。

- 本製品のBluetoothソフトウェア・スタックは、株式会社東芝が開発し、著作権を有するToshiba Embedded Bluetooth Stack for Symbianを搭載しております。

- コンテンツ所有者は、WMDRM(Windows Media digital rights management)技術によって著作権を含む知的財産を保護しています。本製品は、WMDRMソフトウェアを使用してWMDRM保護コンテンツにアクセスします。WMDRMソフトウェアがコンテンツを保護できない場合、保護コンテンツを再生またはコピーするために必要なソフトウェアのWMDRM機能を無効にするよう、コンテンツ所有者はMicrosoftに要求することができます。無効にすることで保護コンテンツ以外のコンテンツが影響を受けることはありません。保護コンテンツを利用するためにライセンスをダウンロードする場合、Microsoftがライセンスに無効化リストを含める場合がありますのであらかじめご了承ください。コンテンツ所有者はコンテンツへのアクセスに際し、WMDRMのアップグレードを要求することがあります。アップグレードを拒否した場合、アップグレードを必要とするコンテンツへのアクセスはできません。
- 「CP8 PATENT」
- 本書では各OS(日本語版)を次のように略して表記しています。
  - ■ Windows Vistaは、Windows Vista®(Home Basic、Home Premium、Business、Enterprise、Ultimate)の略です。
  - ■ Windows XPは、Microsoft® Windows® XP Professional operating systemまたはMicrosoft® Windows® XP Home Edition operating systemの略です。
  - ■ Windows 2000は、Microsoft® Windows® 2000 Professional operating systemの略です。
- Bluetoothとそのロゴマークは、Bluetooth SIG, INCの登録商標で、株式会社NTTドコモはライセンスを受けて使用しています。その他の商標および名称はそれぞれの所有者に帰属します。
- 本製品内蔵のネット辞典ではBSDライセンスを使用しています。
  Copyright © 2002,2003, Stefan Haustein, Oberhausen, Rhld., Germany All rights reserved
  - Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
  - Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
  - Neither the name of the <ORGANIZATION> nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

  THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

CAUTION

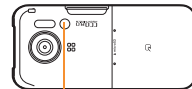
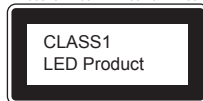
Use only the battery packs and adapters specified by NTT DOCOMO for use with the FOMA terminal.
The use of devices other than those specified may cause the FOMA terminal, battery pack or other devices to leak, overheat, explode, catch fire or malfunction.

Do not throw the battery pack into a fire.
The battery pack may leak, overheat, explode or catch fire.

Do not dispose of used battery packs in ordinary garbage.
May cause fires or damage to the environment. Place tape over the terminals to insulate unnecessary battery packs, and take them to a docomo Shop, retailer or institution that handles used batteries in your area.

Avoid using the handset in extremely high or low temperatures.
Use the FOMA terminal within the range of a temperature between 5°C and 35°C and a humidity between 45% and 85%.

Charge battery in areas where ambient temperature is between 5°C and 35°C.

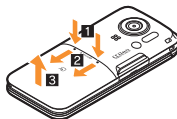
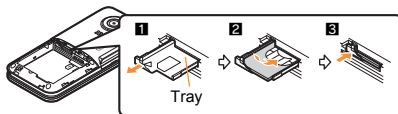
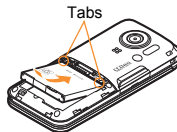
Do not point the illuminated light directly at someone's eyes.
Do not use Picture Light near people's faces. Eyesight may be temporarily affected leading to accidents.

CAUTION:
Use of controls, adjustments or performance of procedure other than those specified herein may result in hazardous radiation exposure. As the emission level from Picture Light LED used in this product is harmful to the eyes, do not attempt to disassemble the cabinet. Servicing is limited to qualified servicing station only.

Picture light source LED characteristics

a) Continuous illumination
b) Wavelength
   White: 400-700 nm
c) Maximum output
   White: 0.55 mW (inside FOMA terminal 0.62 mW)

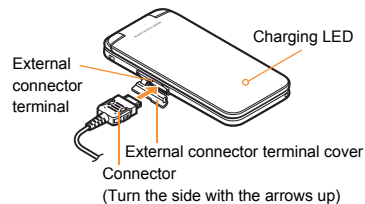
Before Use

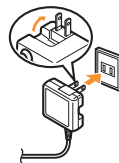
Inserting FOMA card and battery pack

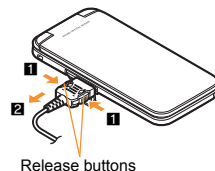
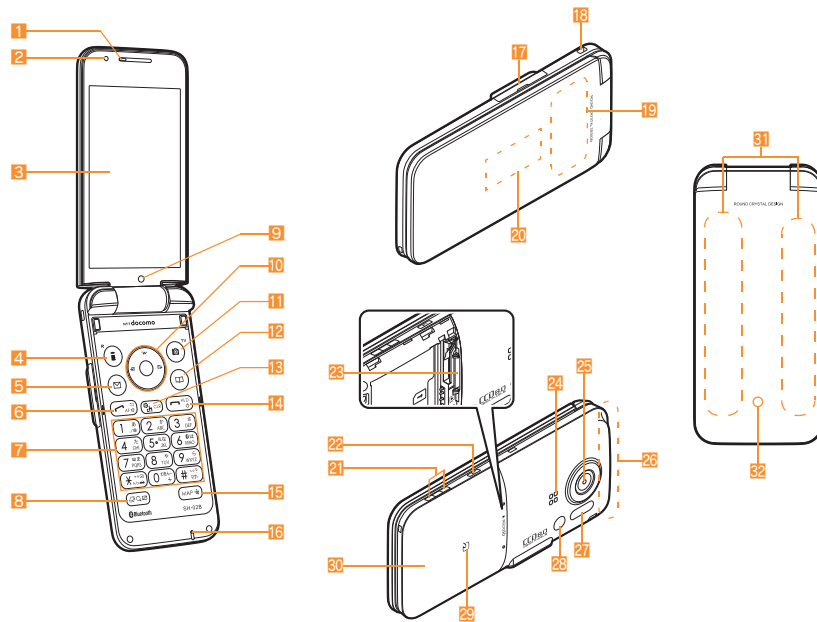
1 **Push the back cover in the direction of the arrow (1), slide approximately 2 mm (2) and remove the back cover (3)**

2 **Pull out the tray straight (1). Set the FOMA card on the tray with the IC side turned up (2) and push the tray all the way in (3)**

3 **Turn a recycle mark side up, match tabs and attach the battery pack**

4 **Place the back cover as shown in the illustration, push and slide it to insert**

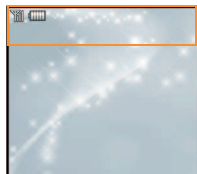
- Turn off the power and insert the FOMA card/battery pack while holding the FOMA terminal with your both hands. Note that excessive force may damage the FOMA terminal, FOMA card and battery pack.

Charging

1 **Open the external connector terminal cover and insert the AC adapter connector horizontally into the external connector terminal**

2 **Insert the AC adapter power plug into an outlet**

- Charge start sound is heard, charging LED illuminates, and charging starts.

3 **Hold the release buttons (1) and horizontally remove the connector (2) when charging is complete**

- Charge end sound is heard and charging LED turns off when charging is complete.

- Note that excessive force may damage the FOMA terminal and AC adapter.

1 Earpiece
2 Brightness sensor
3 Main display
4 [i] (iα): i-mode/Operation guidance key
5 [✉]: Mail/Operation guidance key
6 [✆]: Start/Hands-free/Eco key
7 [1] to [9], [0], [*] and [#]: Dial/Character entry keys
8 [Q]: Multi/Quick search/VeilView key
9 Sub camera
10 ◎◎: Multi-guide key
11 [📷]: Camera/TV/Operation guidance key
12 [📖]: Phonebook/Operation guidance key
13 [CLR] (ch): i-Channel/Clear key
14 [⏻]: Power/End key
15 [MAP]: MAP/GPS key
16 Mouthpiece/Microphone
17 External connector terminal
18 Strap hole
19 1Seg antenna
20 Sub display
21 Charger terminal
22 [💡]: Light key
23 microSD Card slot
24 Speaker
25 Main camera
26 FOMA antenna
27 Infrared port
28 Picture Light
29 [FeliCa] mark
30 Back cover
31 Illumination LED
32 Called/Charging LED

● Key illustrations are examples and may look different from actual keys.

Icon display area

Main icons

	Signal status →→→→ (Strong → Weak) ● When [ ] appears, the handset is outside the service area or in a place with no signal.
	Battery level →→→→→ (High → Low)
	i-mode/Full Browser
	i-αppli
	GPS
	Ir communication/Bluetooth communication
	i-mode mail/SMS/Area Mail received
	microSD Card
	1Seg being recorded
	Record message
	Silent
	Vibrator

	Manner mode
	Public mode (Drive mode)
	IC card lock
	Restriction
	Hands-free
	Alarm
	Music&Video Channel program reservation
	FOMA card error
	Self mode
	Bluetooth
	VeilView
	3G/GSM
	ToruCa
	Information received

Basic Operations

Turning power on/off

■ Turning power on

1 (for 2+ seconds)

■ Turning power off

1 (for 2+ seconds)

Changing screen display to English

1 Custom [Settings] ▶ [一般設定] ▶ [Bilingual] ▶ [English]

Making initial setting

The initial setting screen automatically appears when the power is turned on for the first time. Make the initial setting according to instructions on the screen.

※ Terminal security code (four to eight digits) is set to [0000] by default but can be changed by user.

Checking your own phone number

1 Custom 0

Character entry

※ Operate in the character entry screen.

■ Switching entry modes

1 ▶ select the entry mode with ▶

■ Switching upper/lower case

1 Enter a character ▶

■ Deleting characters

1 Move the cursor to the character and CLR

- To delete all characters: At the end of the message, CLR (for 1+ seconds)

■ Using phrases

1 (for 1+ seconds) ▶ select a phrase ▶ ▶ confirm the phrase ▶

■ Entering pictograms/symbols

1

- To switch between pictogram and Deco-mail pictogram:
- To switch between single- and double-byte symbols:

2 Select a pictogram/symbol ▶

■ Entering emoticons

1 (for 1+ seconds) ▶ select an emoticon ▶

■ Character entry example

Ex.) When entering "電話"

1 ▶ [あ] with

2 4 (four times) ▶ (once) ▶ 0 (three times) ▶ ▶ 0 (once)

3 to move the cursor to the conversion candidates field

4 Select "電話" ▶

Changing ring tone

1 Custom [Settings] ▶ [Snd/Vibrator/Manner] ▶ [Select sound]

2 Select an item ▶

3 Select a ring tone ▶

Lock/Security

Changing terminal security code

1 Custom [Settings] ▶ [Security] ▶ [Change security code] ▶ enter the current terminal security code ▶

2 Enter the new terminal security code ▶ ▶ enter the new terminal security code again ▶

Changing network security code

1 [iMenu] ▶ [お客様サポート] ▶ [各種設定 (確認･変更･利用)] ▶ [ネットワーク暗証番号変更]

Changing i-mode password

1 [iMenu] ▶ [English] ▶ [Options] ▶ [Change i-mode Password]

Changing PIN1/PIN2 code

1 Custom [Settings] ▶ [Security] ▶ [UIM Settings] ▶ enter the terminal security code ▶

2 Select the PIN1 or PIN2 code ▶

3 Enter the current PIN code ▶

4 Enter the new PIN code ▶ ▶ enter the new PIN code again ▶

Various lock functions

All lock

1 Custom [Settings] ▶ [Security] ▶ [Lock settings] ▶ enter the terminal security code ▶ ◎ ▶ [All lock] ▶ [Yes]

Keypad dial lock

1 Custom [Settings] ▶ [Security] ▶ [Lock settings] ▶ enter the terminal security code ▶ ◎ ▶ [Keypad dial lock] ▶ select the setting ▶ ◎

Function lock

1 Custom [Settings] ▶ [Security] ▶ [Lock settings] ▶ enter the terminal security code ▶ ◎ ▶ [Function lock] ▶ select an item to lock ▶ ◎ ▶ 📷

Self mode

1 Custom [Settings] ▶ [Phone settings] ▶ [Self mode] ▶ select the setting ▶ ◎ ▶ [Yes]

Multi lock

1 Stand-by ◎ (for 1+ seconds) ▶ [Multi lock] ▶ [Yes]

IC card lock

1 Stand-by ◎ (for 1+ seconds) ▶ [IC card lock] ▶ [Yes]

Side key lock

1 Stand-by ◎ (for 1+ seconds) ▶ [Side key lock]

Omakase Lock

Omakase Lock is a service to lock the personal data and IC card functions in case of loss, etc. by only your request to DOCOMO via phone.

- This is a paid service. Refer to “Mobile Phone User’s Guide [i-mode] FOMA version” for details on Omakase Lock.

Enable/Disable Omakase Lock

0120-524-360 Office hours: 24 hours

Incoming call restriction

Rejecting a call with no caller ID

1 Custom [Settings] ▶ [Security] ▶ [Accept/Reject calls] ▶ enter the terminal security code ▶ ◎

2 Select the reason ▶ ◎

3 Select the setting ▶ ◎

Rejecting a call from a caller unset in phonebook

1 Custom [Settings] ▶ [Security] ▶ [Accept/Reject calls] ▶ enter the terminal security code ▶ ◎ ▶ [Reject unknown]

2 Select the setting ▶ ◎

Voice/Videophone Calls

Making a voice/videophone call

1 Stand-by enter a phone number

2 (Phone)/ (V.phone)

3 to end the call

Receiving a voice/videophone call

1 When a call is received, the ring tone sounds and the called LED flashes

2

3 to end the call

Making a call with redials/received calls

1 Stand-by ◎ () (Redial)/◎ () (Received calls)

2 Select a phone number and dial

- Voice call:
- Videophone: ◎ ▶

Overseas use

Making a call outside your country of stay (including Japan)

1 Stand-by 0 (for 1+ seconds) ▶ enter the country code, area code (city code) and other party’s phone number ▶ (Phone)/ (V.phone)

- When the area code (city code) begins with “0”, omit the “0” when dialing (Include “0” when making a call to some countries or regions such as Italy).

Making a call in your country of stay

1 Stand-by enter a phone number

2 (Phone)/ (V.phone)

Making a call to a WORLD WING subscriber overseas

Even when making a call to the phone in your country of stay, make an international call to Japan if the call recipient is a “WORLD WING” subscriber overseas.

1 Stand-by 0 (for 1+ seconds) ▶ 8 1 ▶ enter the other party’s mobile phone number excluding the first “0” ▶ (Phone)/ (V.phone)

その他

Mail

Composing and sending i-mode mail

1 Stand-by ▶ [Mail] ▶ [Compose message] ▶ select the [To] field ▶ ◉ ▶ [Direct input]*1 ▶ enter an address ▶ ◉
2 Select the [Sub] field ▶ ◉ ▶ enter a subject ▶ ◉ ▶ [Msg] ▶ enter messages ▶ ◉ ▶ [i]*2

*1 To select a recipient from a phonebook, select [Search phonebook].
*2 To attach a file, select the attachment field (No attachment) ▶ ◉ ▶ select the file to attach.

Checking new i-mode mail

1 Stand-by ▶ [Mail] ▶ [Check new messages]

Replying to i-mode mail

1 In the received mail details screen, [Camera] ▶ [Reply/Forward]
2 Select the reply method ▶ ◉
3 Compose and send a mail

Forwarding i-mode mail

1 In the received mail details screen, [Camera] ▶ [Reply/Forward] ▶ [Forward]
2 Enter an address and send a mail

Displaying a mail in Inbox/Outbox/Unsent messages

1 Stand-by ▶ [Mail]
2 Select the mailbox ▶ ◉
3 Select a mail ▶ ◉

※ [Mail] appears in the stand-by display when a mail is received.

Phonebook

Adding entries to phonebook

1 Stand-by ▶ [Phonebook] ▶ [Camera] ▶ [New] ▶ [Phone]
2 Enter a name ▶ ◉ ▶ [Phone] ▶ enter a phone number ▶ ◉ ▶ select a phone type icon ▶ ◉ ▶ [Mail] ▶ enter a mail address ▶ ◉ ▶ select a mail address type icon ▶ ◉ ▶ [i] ▶ ◉

※ Other items can be saved as well.

Camera

Shooting still pictures

1 Custom ▶ [Camera] ▶ [Shoot still pic] ▶ ◉ ▶ ◉

Shooting moving pictures

1 Custom ▶ [Camera] ▶ [Shoot movie] ▶ ◉ ▶ ◉ ▶ [Save]

Displaying still pictures

1 Custom ▶ [Data box] ▶ [My picture] ▶ select a still picture ▶ ◉

Playing moving pictures

1 Custom ▶ [Data box] ▶ [i-motion/Movie] ▶ select a moving picture ▶ ◉

Watching 1Seg

Performing automatic channel setting

1 Custom ▶ [1Seg] ▶ [Channel setting]
2 Select the number to save ▶ [Camera] ▶ [Auto channel set] ▶ [Yes]
3 Select an area ▶ ◉ ▶ select a prefecture/district ▶ ◉ ▶ ◉ ▶ [Yes]

Selecting a channel list

1 Custom ▶ [1Seg] ▶ [Channel setting] ▶ select a channel list ▶ ◉

Watching 1Seg

1 Custom ▶ [1Seg] ▶ [Activate 1Seg]

- To record a video of 1Seg programs: While watching 1Seg, [i] (for 1+ seconds) ▶ (record) ▶ [i]
- To record 1Seg programs as a still picture: While watching 1Seg, [i]

Watching Videos

1 Custom ▶ [Data box] ▶ [1Seg]
2 [Video] folder ▶ select a video ▶ ◉

Music Playback

Using Music&Video Channel

1 Custom [MUSIC] ▶ [Music&Video ch] ▶ select a program ▶ ◉

Using MUSIC Player

1 Custom [Data box] ▶ [MUSIC] ▶ select music data ▶ ◉

Network Services

Using Voice Mail Service

Voice Mail Service is a paid option (monthly fees apply) that requires subscription.

1 Custom [Settings] ▶ [NW Services] ▶ [Voice Mail]

2 [Activate VoiceMail] ▶ [Activate VoiceMail] ▶ [Yes]

Using Call Waiting

Call Waiting is a paid option (monthly fees apply) that requires subscription.

1 Custom [Settings] ▶ [NW Services] ▶ [Call waiting]

2 [Activate] ▶ [Yes]

Using Call Forwarding Service

Call Forwarding Service is a free option (no monthly fees) that requires subscription.

1 Custom [Settings] ▶ [NW Services] ▶ [Call Forwarding]

2 [Activate] ▶ [Activate] ▶ [Yes]

Osaifu-Keitai

Hold the mark of the FOMA terminal over the scanning device to use as electronic money or railway tickets, or retrieve ToruCa.

- When the FOMA terminal is stolen or lost, immediately contact your provider of Osaifu-Keitai compatible service for handling methods.

Bluetooth function

- The Bluetooth word mark and logos are owned by Bluetooth SIG, Inc. and any use of such marks by NTT DOCOMO, INC. is under license. Other trademarks and trade names are those of their respective owners.

Registering Bluetooth device

- Set the other party's Bluetooth device to the registration stand-by status.

1 Custom [LifeKit] ▶ [Bluetooth] ▶ [List/cnnct/discnnct] ▶ [Yes]

2 Select a Bluetooth device to register ▶ ◉

3 Enter the Bluetooth passkey ▶ ◉

Connecting to registered Bluetooth devices

1 Custom [LifeKit] ▶ [Bluetooth] ▶ [List/cnnct/discnnct]

2 Select a Bluetooth device to connect to ▶ ◉

General Notes

Introduction of options and related devices

- Battery Pack SH21
- FOMA AC Adapter 01/02
- FOMA AC Adapter 01 for Global use
- Desktop Holder SH29

Main specifications

Size			110 (H) × 50 (W) × 16.9 (D) mm (18.1 at thickest point) (when folded)*
Weight			117 g (with battery pack attached)*
Continuous talk time	FOMA/3G		Voice call: 210 min*
			Videophone: 110 min*
	GSM		Voice call: 200 min*
Continuous stand-by time	FOMA/3G	3G/GSM setting: 3G	When mobile: 340 hr*
		3G/GSM setting: AUTO	When mobile: 320 hr*
			At rest: 490 hr*
	GSM	3G/GSM setting: AUTO	At rest: 280 hr*
Estimated charge time	FOMA AC Adapter 01/02		120 min*
	FOMA DC Adapter 01/02		120 min*

* Approximate value

その他

Specific Absorption Rate (SAR) of mobile phone

This model phone SH-02B meets the MIC's[*] technical regulation for exposure to radio waves.

The technical regulation established permitted levels of radio frequency energy, based on standards that were developed by independent scientific organizations through periodic and thorough evaluation of scientific studies.

The regulation employs a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR. The SAR limit is 2 watts/kilogram (W/kg)[**] averaged over ten grams of tissue. The limit includes a substantial safety margin designed to assure the safety of all persons, regardless of age and health. The value of the limit is equal to the international guidelines recommended by ICNIRP[***].

All phone models should be confirmed to comply with the regulation, before they are available for sale to the public. The highest SAR value for this model phone is 0.861 W/kg. It was taken by the Telecom Engineering Center (TELEC), a Registered Certification Agency on the Radio Law. The test for SAR was conducted in accordance with the MIC testing procedure using standard operating positions with the phone transmitting at its highest permitted power level in all tested frequency bands. While there may be differences between the SAR levels of various phones and at various positions, they all meet the MIC's technical regulation. Although the SAR is determined at the highest certified power level, the actual SAR of the phone during operation can be well below the maximum value.

For further information about SAR, please see the following websites:

World Health Organization (WHO)
http://www.who.int/peh-emf/en/
ICNIRP
http://www.icnirp.de/
MIC
http://www.tele.soumu.go.jp/e/sys/ele/index.htm
TELEC
http://www.telec.or.jp/ENG/Index_e.htm
NTT DOCOMO
http://www.nttdocomo.co.jp/english/product/sar/
SHARP Corporation
http://www.sharp.co.jp/products/menu/phone/cellular/sar/index.html

* Ministry of Internal Affairs and Communications
** The technical regulation is provided in Article 14-2 of the Ministry Ordinance Regulating Radio Equipment.
*** International Commission on Non-Ionizing Radiation Protection

European RF Exposure Information

Your mobile device is a radio transmitter and receiver. It is designed not to exceed the limits for exposure to radio waves recommended by international guidelines. These guidelines were developed by the independent scientific organization ICNIRP and include safety margins designed to assure the protection of all persons, regardless of age and health.

The guidelines use a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR. The SAR limit for mobile devices is 2 W/kg and the highest SAR value for this device when tested at the ear was 0.768 W/kg[*].

As SAR is measured utilizing the devices highest transmitting power the actual SAR of this device while operating is typically below that indicated above. This is due to automatic changes to the power level of the device to ensure it only uses the minimum level required to reach the network.

The World Health Organization has stated that present scientific information does not indicate the need for any special precautions for the use of mobile devices. They note that if you want to reduce your exposure then you can do so by limiting the length of calls or using a hands-free device to keep the mobile phone away from the head.

* The tests are carried out in accordance with international guidelines for testing.

Declaration of Conformity

CE0168

Hereby, Sharp Telecommunications of Europe Ltd, declares that this SH-02B is in compliance with the essential requirements and other relevant provisions of Directive 1999/5/EC.
A copy of the original declaration of conformity can be found at the following Internet address:
http://www.sharp.co.jp/k-tai/

FCC Notice

- This device complies with part 15 of the FCC Rules.
  Operation is subject to the following two conditions:
  (1) This device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.
- Changes or modifications not expressly approved by the manufacturer responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

Information to User

This equipment has been tested and found to comply with the limits of a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications.
However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation; if this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

1. Reorient/relocate the receiving antenna.
2. Increase the separation between the equipment and receiver.
3. Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
4. Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

FCC RF Exposure Information

Your handset is a radio transmitter and receiver.
It is designed and manufactured not to exceed the emission limits for exposure to radio frequency (RF) energy set by the Federal Communications Commission of the U.S. Government.
The guidelines are based on standards that were developed by independent scientific organisations through periodic and thorough evaluation of scientific studies. The standards include a substantial safety margin designed to assure the safety of all persons, regardless of age and health.
The exposure standard for wireless handsets employs a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR. The SAR limit set by the FCC is 1.6 W/kg.
The tests are performed in positions and locations (e.g., at the ear and worn on the body) as required by the FCC for each model. The highest SAR value for this model handset when tested for use at the ear is 0.706 W/kg and when worn on the body, as described in this user guide, is 0.720 W/kg.
Body-worn Operation; This device was tested for typical body-worn operations with the back of the handset kept 1.5 cm from the body. To maintain compliance with FCC RF exposure requirements, use accessories that maintain a 1.5 cm separation distance between the user's body and the back of the handset. The use of beltclips, holsters and similar accessories should not contain metallic components in its assembly.
The use of accessories that do not satisfy these requirements may not comply with FCC RF exposure requirements, and should be avoided.
The FCC has granted an Equipment Authorization for this model handset with all reported SAR levels evaluated as in compliance with the FCC RF emission guidelines. SAR information on this model handset is on file with the FCC and can be found under the Display Grant section of http://www.fcc.gov/oet/ea/fccid/ after searching on FCC ID APYHRO00110.
Additional information on Specific Absorption Rates (SAR) can be found on the Cellular Telecommunications & Internet Association (CTIA) Website at http://www.ctia.org/.

Inquiries

General inquiries <docomo Information Center>

(Business hours: 9:00 a.m. to 8:00 p.m.)
0120-005-250 (toll free)
※ Service available in: English, Portuguese, Chinese, Spanish, Korean.
※ Unavailable from part of IP phones.
(Business hours: 9:00 a.m. to 8:00 p.m. (open all year round))
From DOCOMO mobile phones
(In Japanese only)
(No prefix) 151 (toll free)
※ Unavailable from land-line phones, etc.
From land-line phones
(In Japanese only)
0120-800-000 (toll free)
※ Unavailable from part of IP phones.

- Please confirm the phone number before you dial.

Repairs

(Business hours: 24 hours (open all year round))

From DOCOMO mobile phones

(In Japanese only)

(No prefix) 113 (toll free)

※ Unavailable from land-line phones, etc.

From land-line phones

(In Japanese only)

0120-800-000 (toll free)

※ Unavailable from part of IP phones.

- Please confirm the phone number before you dial.
- For Applications or Repairs and After-Sales Service, please contact the above-mentioned information center or the docomo Shop etc. near you on the NTT DOCOMO website or the i-mode site.
  NTT DOCOMO website: http://www.nttdocomo.co.jp/english/
  i-mode site: iMenu ▶ お客様サポート (user support) ▶ ドコモショップ (docomo Shop) (In Japanese only)

Loss or theft of FOMA terminal or payment of cumulative cost overseas <docomo Information Center>

(available 24 hours a day)

From DOCOMO mobile phones

International call access code for the country you stay -81-3-6832-6600* (toll free)

* You are charged a call fee to Japan when calling from a land-line phone, etc.

※ If you use SH-02B, you should dial the number +81-3-6832-6600 (to enter "+", press the "0" key for at least 1 second).

From land-line phones

<Universal number>

Universal number international prefix -8000120-0151*

* You might be charged a domestic call fee according to the call rate for the country you stay.

※ For international call access codes for major countries and universal number international prefix, refer to DOCOMO International Services website.

Failures encountered overseas <Network Support and Operation Center>

(available 24 hours a day)

From DOCOMO mobile phones

International call access code for the country you stay -81-3-6718-1414* (toll free)

* You are charged a call fee to Japan when calling from a land-line phone, etc.

※ If you use SH-02B, you should dial the number +81-3-6718-1414 (to enter "+", press the "0" key for at least 1 second).

From land-line phones

<Universal number>

Universal number international prefix -8005931-8600*

* You might be charged a domestic call fee according to the call rate for the country you stay.

※ For international call access codes for major countries and universal number international prefix, refer to DOCOMO International Services website.

- If you lose your FOMA terminal or have it stolen, immediately take the steps necessary for suspending the use of the FOMA terminal.
- If the FOMA terminal you purchased is damaged, bring your FOMA terminal to a repair counter specified by DOCOMO after returning to Japan.

索引

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

わ

英数字

ご契約内容の確認・変更、各種サービスのお申し込み、各種資料請求をオンライン上で承っております。

ｉモードから　ｉMenu ▶ お客様サポート ▶ お申込・お手続き ▶ 各種お申込・お手続き［パケット通信料無料］

パソコンから　My docomo（http://www.mydocomo.com/）▶ 各種お申込・お手続き

※ ｉモードからご利用になる場合、「ネットワーク暗証番号」が必要となります。
※ ｉモードからご利用いただく場合のパケット通信料は無料です。海外からのアクセスの場合は有料となります。
※ パソコンからご利用になる場合、「docomo ID／パスワード」が必要となります。
※ 「ネットワーク暗証番号」および「docomo ID／パスワード」をお持ちでない方・お忘れの方は取扱説明書裏面の「総合お問い合わせ先」にご相談ください。
※ ご契約内容によってはご利用いただけない場合があります。
※ システムメンテナンスなどにより、ご利用になれない場合があります。

マナーも一緒に携帯しましょう

公共の場所で携帯電話をご利用の際は周囲の心くばりを忘れずに。

こんな場合は必ず電源を切りましょう

■ **使用禁止の場所にいる場合**
航空機内、病院内や電車などの優先席付近では、必ず携帯電話の電源を切ってください。

こんな場合は公共モードに設定しましょう

■ **運転中の場合**
運転中の携帯電話を手で保持しての使用は罰則の対象となります。

■ **劇場・映画館・美術館など、公共の場所にいる場合**

プライバシーに配慮しましょう

カメラ付き携帯電話を利用して、撮影や画像送信を行う際はプライバシーなどにご配慮ください。

ドコモの環境への取り組み

取扱説明書の薄型化

本書では、基本的な機能の操作について説明することにより、取扱説明書の薄型化を図り、紙の使用量を削減いたしました。よく使われる機能や詳しい説明については、サポートブック（本FOMA端末に搭載）やドコモのホームページでご確認いただけます。

携帯電話の回収・リサイクル

携帯電話・PHS事業者は、環境を保護し貴重な資源を再利用するためにお客様が不要となってお持ちになる電話機・電池・充電器をブランド・メーカー問わず左記マークのあるお店で回収し、リサイクルを行っております。
お近くのドコモショップへお持ちください。

● この印刷物はリサイクルに配慮して製本されています。不要となった際は、回収、リサイクルに出しましょう。

総合お問い合わせ先<ドコモ インフォメーションセンター>

■ドコモの携帯電話からの場合

（局番なしの）151（無料）

※ 一般電話などからはご利用いただけません。

■一般電話などからの場合

0120-800-000

※ 一部のIP電話からは接続できない場合があります。

受付時間　午前9:00～午後8:00　（年中無休）

故障お問い合わせ先

■ドコモの携帯電話からの場合

（局番なしの）113（無料）

※ 一般電話などからはご利用いただけません。

■一般電話などからの場合

0120-800-000

※ 一部のIP電話からは接続できない場合があります。

受付時間　24時間　（年中無休）

●番号をよくご確認の上、お間違いのないようにおかけください。
●各種手続き、故障・アフターサービスについては、上記お問い合わせ先にご連絡いただくか、ドコモホームページ、ｉモードサイトにてお近くのドコモショップなどにお問い合わせください。
ドコモホームページ　http://www.nttdocomo.co.jp/
ｉモードサイト　ｉMenu ▶お客様サポート ▶ドコモショップ

海外での紛失、盗難、精算などについて <ドコモ インフォメーションセンター>（24時間受付）

ドコモの携帯電話からの場合

滞在国の国際電話アクセス番号 -81-3-6832-6600＊（無料）

＊一般電話などでかけた場合には、日本向け通話料がかかります。
※SH-02Bから、ご利用の場合は＋81-3-6832-6600でつながります。
（「＋」は「０」ボタンを１秒以上押します。）

一般電話などからの場合

<ユニバーサルナンバー>

ユニバーサルナンバー用国際識別番号 -8000120-0151＊

＊滞在国内通話料などがかかる場合があります。
※主要国の国際電話アクセス番号／ユニバーサルナンバー用国際識別番号については、ドコモの「国際サービスホームページ」をご覧ください。

海外での故障について <ネットワークオペレーションセンター>（24時間受付）

ドコモの携帯電話からの場合

滞在国の国際電話アクセス番号 -81-3-6718-1414＊（無料）

＊一般電話などでかけた場合には、日本向け通話料がかかります。
※SH-02Bから、ご利用の場合は＋81-3-6718-1414でつながります。
（「＋」は「０」ボタンを１秒以上押します。）

一般電話などからの場合

<ユニバーサルナンバー>

ユニバーサルナンバー用国際識別番号 -8005931-8600＊

＊滞在国内通話料などがかかる場合があります。
※主要国の国際電話アクセス番号／ユニバーサルナンバー用国際識別番号については、ドコモの「国際サービスホームページ」をご覧ください。

●紛失・盗難などにあわれたら、速やかに利用中断手続きをお取りください。
●お客様が購入されたFOMA端末に故障が発生した場合は、ご帰国後にドコモ指定の故障取扱窓口へご持参ください。

マナーもいっしょに携帯しましょう。
◎公共の場所で携帯電話をご利用の際は、周囲の方への心くばりを忘れずに。

販売元　株式会社NTTドコモ
製造元　シャープ株式会社

Li-ion00
環境保全のため、不要になった電池はNTTドコモまたは代理店、リサイクル協力店などにお持ちください。

大豆油インキを使用しています。

再生紙を使用しています

'10.7（4版）
TINSJA630AFZC
10G 19.3 YM TU116④

SH-02B
パソコン接続マニュアル

パソコン接続マニュアルについて

本マニュアルでは、SH-02Bでデータ通信をする際に必要な事項についての説明をはじめ、CD-ROM内の「FOMA通信設定ファイル」「ドコモ コネクションマネージャ」のインストール方法などを説明しています。
お使いの環境によっては操作手順や画面が一部異なる場合があります。

'09.11(1版)

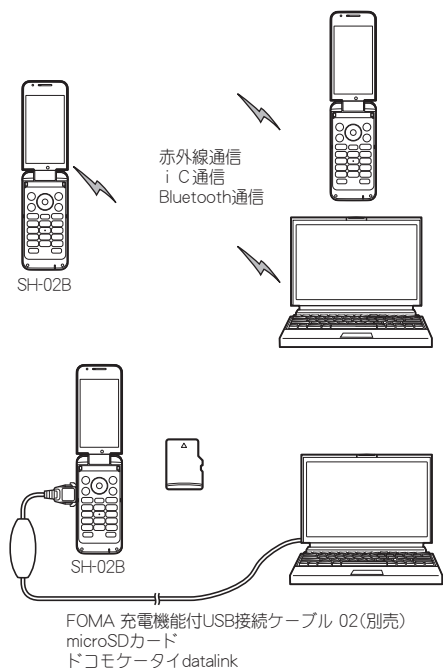
データ通信

FOMA端末から利用できるデータ通信

FOMA端末の通信形態は、パケット通信、64Kデータ通信、データ転送の３つに分類されます。

- FOMA端末はFAX通信をサポートしていません。
- FOMA端末をsigmarionⅢと接続してデータ通信を行うことができます。ハイスピードエリア対応の高速通信には対応しておりません。
- FOMA端末は、Remote Wakeupには対応していません。
- 海外では、パソコンなどと接続しての64Kデータ通信は利用できません。
- 海外でパケット通信を行う場合は、IP接続で通信を行ってください（PPP接続ではパケット通信できません）。

■ データ転送（OBEX™通信）

画像や音楽、電話帳、メールなどのデータを、FOMA端末と他のFOMA端末やパソコンなどの間で送受信します。

■ パケット通信

送受信したデータ量に応じて課金されます。ネットワークに接続中でもデータの送受信を行っていないときは通信料がかからないので、ネットワークに接続したまま必要なときにデータの送受信を行うという使いかたができます。
ドコモのインターネット接続サービス「mopera U」など、FOMAのパケット通信に対応したアクセスポイントを利用して、受信最大7.2Mbps、送信最大384kbpsの高速通信を行うことができます（通信環境や、電波などが混み合った状態の影響により通信速度が変化するベストエフォート方式による提供です）。

- 最大7.2Mbps、最大384kbpsとは、技術規格上の最大値であり、実際の通信速度を示すものではありません。実際の通信速度は、ネットワークの混み具合や通信環境により異なります。
- FOMAハイスピードエリア外やHIGH-SPEEDに対応していないアクセスポイントに接続した場合は、通信速度が遅くなることがあります。

パケット通信はFOMA端末とパソコンなどをFOMA充電機能付USB接続ケーブル 02（別売）やBluetooth機能で接続して、各種設定を行うと利用できます。
メールの文字データの送受信など、比較的少ないデータ量を高速でやりとりする場合に適しています。
データ量の大きいファイルの送受信を行った場合、通信料金が高額になりますので、ご注意ください。
FOMA端末では、パソコンなどによるパケット通信と音声電話を同時に利用できます。

■ 64Kデータ通信

接続している時間に応じて課金されます。ドコモのインターネット接続サービス「mopera U」など、FOMA 64Kデータ通信に対応したアクセスポイント、またはISDNの同期64Kアクセスポイントを利用します。
64Kデータ通信はFOMA端末とパソコンなどをFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02やBluetooth機能で接続して、各種設定を行うと利用できます。
データBOXコンテンツのダウンロードなど、比較的データ量の多い送受信を行う場合に適しています。
長時間通信を行うと、通信料金が高額になりますのでご注意ください。

ご利用にあたっての留意点

■ インターネットサービスプロバイダの利用料について

インターネットをご利用の場合は、ご利用になるインターネットサービスプロバイダに対する利用料が必要になります。この利用料は、FOMAサービスの利用料とは別に、インターネットサービスプロバイダにお支払いいただきます。利用料の詳しい内容については、ご利用のインターネットサービスプロバイダにお問い合わせください。

ドコモのインターネット接続サービス「mopera U」をご利用いただけます。「mopera U」をご利用いただく場合は、お申し込みが必要(有料)となります。

■ 接続先(インターネットサービスプロバイダなど)の設定について

パケット通信と64Kデータ通信では接続先が異なります。パケット通信を行うときは、FOMAパケット通信対応の接続先、64Kデータ通信を行うときはFOMA 64Kデータ通信、またはISDN同期64K対応の接続先をご利用ください。

- DoPaのアクセスポイントには接続できません。
- moperaのサービス内容および接続設定方法についてはmoperaのホームページをご確認ください。
  http://www.mopera.net/mopera/index.html

■ パケット通信および64Kデータ通信の条件

日本国内でデータ通信(パケット通信/64Kデータ通信)を行うには、次の条件が必要になります。

- FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02を利用できるパソコンであること
- Bluetooth機能を利用する場合は、パソコンがBluetooth標準規格Ver.1.1、Ver.1.2またはVer.2.0+EDR(ダイヤルアップネットワーキングプロファイル)に対応していること
- FOMAサービスエリア内であること
- パケット通信の場合、アクセスポイントがFOMAのパケット通信に対応していること
- 64Kデータ通信の場合、接続先がFOMA 64Kデータ通信、またはISDN同期64Kに対応していること

ただし、前述の条件が整っていても、基地局が混雑していたり、電波状況などにより通信ができないことがあります。

- パケット接続を行う場合は、FOMA端末と接続する機器がJATE(財団法人電気通信端末機器審査協会)の認定品である必要があります。

■ ブラウザ利用時のアクセス認証について

パソコンのブラウザでFirstPass対応サイトを利用するときのアクセス認証ではFirstPass(ユーザ証明書)が必要です。詳しくはドコモのホームページをご覧ください。

ご使用になる前に

動作環境

データ通信を利用するためのパソコンの動作環境は次のとおりです。

項　目	必要環境
パソコン本体	PC/AT互換機 FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02(別売)を使用する場合:USBポート(Universal Serial Bus Specification Rev1.1/2.0準拠) Bluetooth機能を利用する場合:Bluetooth標準規格Ver.1.1、Ver.1.2またはVer.2.0+EDR準拠(ダイヤルアップネットワーキングプロファイル) ディスプレイ解像度800×600ドット、High Color16ビット以上を推奨
OS	Windows 2000、Windows XP、Windows Vista(各日本語版)
必要メモリ	Windows 2000:64MB以上 Windows XP:128MB以上 Windows Vista:512MB以上
ハードディスク容量	5MB以上の空き容量 ● ドコモ コネクションマネージャは15MB以上の空き容量

- 動作環境の最新情報については、ドコモのホームページをご確認ください。
- 必要メモリ・ハードディスク容量は、パソコンのシステム構成によって異なる場合があります。
- メニューが動作する推奨環境はMicrosoft Internet Explorer 7.0以上です。
  Windows XPの場合、推奨環境はMicrosoft Internet Explorer 6.0以上です。
- CD-ROMをセットしてもメニューが表示されない場合は、次の手順で操作してください。

  Windows Vistaの場合

  Windowsの[スタート]メニューで[検索の開始]欄に[<CD-ROMドライブ名>:index.html]と指定し、検索結果欄に表示された[index.html]をクリックします。

  Windows XP、Windows 2000の場合

  Windowsの[スタート]メニューで[ファイル名を指定して実行]をクリックし、[<CD-ROMドライブ名>:index.html]と指定して[OK]をクリックします。
- OSアップグレードからの動作は保証いたしかねます。
- 動作環境によってはご使用になれない場合があります。また、上記の動作環境以外でのご使用による問い合わせおよび動作保証は、当社では責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- CD-ROMをパソコンにセットすると、警告画面が表示される場合があります。この警告は、Internet Explorerのセキュリティの設定によって表示されますが、使用には問題ありません。
  [はい]をクリックしてください。

必要な機器

FOMA端末とパソコン以外に次のハードウェア、ソフトウェアを使います。

- FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02(別売)※、またはFOMA USB接続ケーブル(別売)※
- CD-ROM「SH-02B用CD-ROM」(付属)

※ USB接続の場合

- USBケーブルは専用の「FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02」、または「FOMA USB接続ケーブル」をご利用ください。パソコン用のUSBケーブルはコネクタ部の形状が異なるため使用できません。
- USB HUBを使用すると、正常に動作しない場合があります。

データ転送(OBEX™通信)の準備の流れ

FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02(別売)をご利用になる場合は、FOMA通信設定ファイルをインストールしてください。

FOMA通信設定ファイルをダウンロード、インストールする

- 付属のCD-ROMからインストール(☞P.4)
- ドコモのホームページからダウンロードして、インストール

↓

データ転送

データ通信の準備の流れ

パソコンとFOMA端末を接続して、パケット通信および64Kデータ通信を利用する場合の準備について説明します。次のような流れになります。

※ ドコモ コネクションマネージャの設定については、「ドコモ コネクションマネージャ操作マニュアル.pdf」をご覧ください。

- FOMAでインターネットをするには、ブロードバンド接続などに対応した「mopera U」(お申し込み必要)が便利です。使用した月だけ月額使用料がかかるプランもございます。

FOMA通信設定ファイルについて

FOMA端末とパソコンをFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02で接続してデータ通信を行うには、付属のCD-ROMからFOMA通信設定ファイルをインストールする必要があります(☞P.4～P.8)。

- インストールに失敗してP.7「インストールしたFOMA通信設定ファイル(ドライバ)を確認する」の操作３の各画面で[FOMA SH02B]のデバイス名が表示されていない場合は、FOMA通信設定ファイルをアンインストールし(☞P.8)、もう一度インストールしてください。
- 何らかの原因により、パソコンがFOMA端末を認識できなくなった場合は、FOMA通信設定ファイルをアンインストールし(☞P.8)、もう一度インストールしてください。

Bluetooth接続を準備する

Bluetooth対応パソコンとFOMA端末をワイヤレス接続してデータ通信を行います。

- Bluetooth接続の詳細については☞P.9

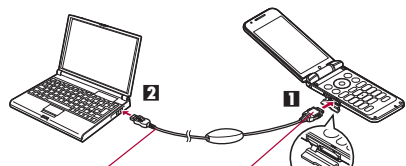
ドコモ コネクションマネージャについて

付属のCD-ROMからドコモ コネクションマネージャをパソコンにインストールして使うと、FOMA端末とパソコンを接続して行うパケット通信や、64Kデータ通信に必要なさまざまな設定を、簡単に行うことができます(☞P.10)。

パソコンとFOMA端末を接続する

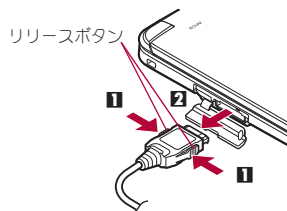
パソコンとFOMA端末は、電源が入っている状態で接続してください。FOMA通信設定ファイルがインストールされている場合には、FOMA端末の画面に[ ]が表示されます。FOMA通信設定ファイルがインストールされていない場合、使用するパソコンにFOMA端末を接続する前に、FOMA通信設定ファイルをインストールしておきます(☞P.4)。

- Bluetooth機能を利用してワイヤレス接続する場合は、P.9を参照してください。

FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02で接続する

1 FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02(別売)のFOMA端末側コネクタをFOMA端末の外部接続端子に差し込む(1)。

2 FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02のパソコン側コネクタをパソコンのUSBコネクタに差し込む(2)。

取り外しかた

1 FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02のFOMA端末側のリリースボタンを押した状態(1)で、FOMA端末からコネクタを水平に引き抜く(2)。無理に引っ張ると故障の原因となります。

2 パソコンからFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02のコネクタを抜く。

- FOMA端末(本体)のUSBモード設定を[通信モード]にして接続してください。
- FOMA端末を卓上ホルダで充電しながら接続することもできます。
- データ通信中にFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02を外さないでください。データの送受信ができないだけでなく、データが失われることがあります。

FOMA通信設定ファイルをインストールする

FOMA端末をFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02(別売)でパソコンに接続してデータ通信を行うには、FOMA通信設定ファイルが必要です。

- FOMA通信設定ファイル(ドライバ)をインストールする前に、パソコンに常駐しているソフトはすべて終了してください。
- Bluetooth接続の場合はFOMA通信設定ファイルをインストールする必要はありません。

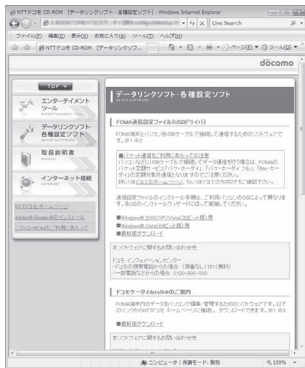
FOMA通信設定ファイル(ドライバ)を自動でインストールする

- パソコンの管理者権限を持ったユーザーでインストールしてください。
- FOMA端末は操作１～４を行ったあとにパソコンに接続してください。

次ページへ続く ▶▶

1 付属のCD-ROMをパソコンにセットする。

- TOP画面が表示されます。

2 [データリンクソフト･各種設定ソフト]→[FOMA通信設定ファイル（USBドライバ）]欄の[Windows® 2000/XP/Vista（32ビット版）用]をクリックする。

Windows Vista（64ビット版）の場合

- [Windows® Vista（64ビット版）用]をクリックします。

3 [SH02Bs.exe]をダブルクリックする。

4 [インストール開始]をクリックする。

5 [FOMA SH02BとPCをFOMA USB接続ケーブルにて接続してください。]が表示されたら、FOMA端末をFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02でパソコンに接続する。

- インストール中の画面が表示され、インストールが自動的に開始します。
- FOMA端末は電源が入った状態で接続してください。

6 [FOMA SH02Bドライバのインストールが完了しました。]が表示されたら[OK]をクリックする。

- FOMA通信設定ファイルのインストールが終了します。

- インストールには数分かかる場合があります。
- パソコンを再起動する旨の画面が表示された場合は、画面の指示に従って再起動してください。
- [他のデバイスドライバのインストールが終了後に再度インストーラを実行してください。]と表示された場合は、自動的にインストールされた別のドライバをアンインストールしてから、インストールしてください。アンインストールの操作については「FOMA通信設定ファイル（ドライバ）をアンインストールする」を参照してください。

FOMA通信設定ファイル(ドライバ)を手動でインストールする

- パソコンの管理者権限を持ったユーザーでインストールしてください。

<例> Windows Vistaにインストールするとき

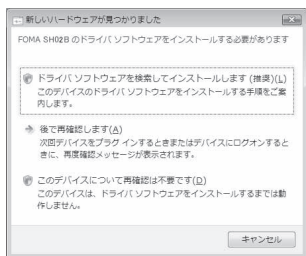
- Windows XP、Windows 2000をご使用のときは、画面の表示が異なります。

1 **付属のCD-ROMをパソコンにセットする。**

- TOP画面が表示された場合は、画面を終了してください。

2 **FOMA端末をFOMA充電機能付USBケーブル02でパソコンに接続する。**

- FOMA端末は電源が入った状態で接続してください。

3 **[ドライバソフトウェアを検索してインストールします(推奨)]をクリックする。**

Windows XPの場合

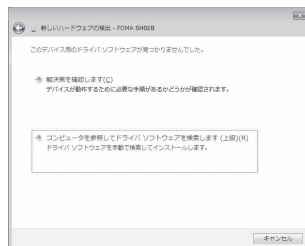
- [いいえ、今回は接続しません]を選んで[次へ]をクリックし、操作5へ進みます。

Windows 2000の場合

1 [次へ]をクリックする。

2 [デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)]を選んで[次へ]をクリックし、操作5へ進みます。

4 **[ディスクはありません。他の方法を試します]をクリックする。**

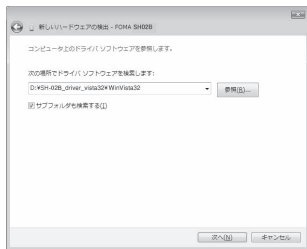
5 **[コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します(上級)]をクリックする。**

Windows XPの場合

- [一覧または特定の場所からインストールする(詳細)]を選んで[次へ]をクリックする。

Windows 2000の場合

- [場所を指定]を選んで[次へ]をクリックする。

次ページへ続く

6 検索するフォルダを指定する。

1 [参照]をクリックする。
2 次のディレクトリを指定します。
<CD-ROMドライブ名>:
¥SH-02B_driver_vista32¥WinVista32
3 [次へ]をクリックする。
- インストールが開始されます。

Windows Vista(64ビット版)の場合
1 [参照]をクリックする。
2 次のディレクトリを指定します。
<CD-ROMドライブ名>:
¥SH-02B_driver_vista64¥WinVista64
3 [次へ]をクリックする。
- インストールが開始されます。

Windows XPの場合
1 [次の場所で最適のドライバを検索する]を選ぶ。
2 [次の場所を含める]を選んで[参照]をクリックする。
- [リムーバブルメディア(フロッピー、CD-ROMなど)を検索]が☑の場合は☐にしてから操作してください。

3 次のディレクトリを指定します。
<CD-ROMドライブ名>:
¥SH-02B_driver_vista32¥Win2k_XP
4 [次へ]をクリックする。

Windows 2000の場合
1 次のディレクトリを指定します。
<CD-ROMドライブ名>:
¥SH-02B_driver_vista32¥Win2k_XP
- [参照]をクリックして検索フォルダを指定した場合は、上記ディレクトリからいずれかのファイルを選んで[開く]をクリックする。

2 [OK]をクリックする。
3 [ドライバファイルの検索　ハードウェアデバイスのドライバファイル検索が終了しました。]が表示されたら、[次へ]をクリックする。

7 [このデバイス用のソフトウェアは正常にインストールされました。]が表示されたら、[閉じる]をクリックする。

- インストールが終了し、次のドライバの検索画面が表示されます。
- 最初にUSBドライバがインストールされます。

Windows XP、Windows 2000の場合
- [新しいハードウェアの検索ウィザードの完了]が表示されたら、[完了]をクリックする。

8 引き続き他のドライバをインストールする。

- 以降、操作4～7を3回行い、以下のドライバをインストールします(お使いのパソコンによって回数が異なる場合があります)。
  - ■ OBEXポートドライバ　■ モデムドライバ
  - ■ コマンドポートドライバ
- すべてのドライバのインストールが完了すると、タスクバーのインジケータから、正しくインストールされた旨のポップアップメッセージが数秒間表示されます(Windows 2000のときは表示されません)。

Windows XP、Windows 2000の場合
- 操作3～7を3回行う(お使いのパソコンによって回数が異なる場合があります)。

- インストールには数分かかる場合があります。
- パソコンを再起動する旨の画面が表示された場合は、画面の指示に従って再起動してください。

インストールしたFOMA通信設定ファイル(ドライバ)を確認する

FOMA端末がパソコンに正しく認識されていない場合、設定および通信はできません。
<例>　Windows Vistaで確認するとき
- Windows XP、Windows 2000をご使用のときは、画面の表示が異なります。

1 [スタート]メニュー→[コントロールパネル]をクリックし、[システムとメンテナンス]→[システム]アイコンを順にクリックする。

- システムのプロパティ画面が表示されます。

Windows XPの場合
- [スタート]メニュー→[コントロールパネル]をクリックし、[パフォーマンスとメンテナンス]アイコン→[システム]アイコンを順にクリックします。

Windows 2000の場合
- [スタート]メニュー→[設定]→[コントロールパネル]の順に選んで[システム]アイコンをダブルクリックします。

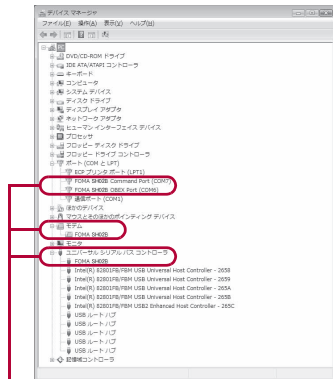
2 [タスク]の[デバイスマネージャ]をクリックする。

- デバイスマネージャ画面が表示されます。

Windows XP、Windows 2000の場合
- [ハードウェア]タブをクリックし、[デバイスマネージャ]をクリックします。

次ページへ続く ▶▶

3 各デバイスをクリックしてインストールされたデバイス名を確認する。

[ユニバーサル シリアル バス コントローラ]、[ポート(COMとLPT)]、[モデム]の箇所に、インストールしたデバイス名がすべて表示されていることを確認します。

認識されるとこのように表示されます。

- FOMA通信設定ファイルをインストールすると、次のドライバがインストールされます。

デバイスの種類	デバイス名
ユニバーサル シリアル バス コントローラ Windows XP、Windows 2000の場合 USB(Universal Serial Bus)コントローラ	● FOMA SH02B
ポート(COMとLPT)	● FOMA SH02B Command Port(COMx)※ ● FOMA SH02B OBEX Port(COMx)※
モデム	● FOMA SH02B

※「COMx」の「x」は数値です。お使いのパソコンによって異なります。

- インストールに失敗したとき、または操作3の画面に[FOMA SH02B]が表示されていないときは、アンインストールしてから再度インストールしてください。アンインストールの操作については「FOMA通信設定ファイル(ドライバ)をアンインストールする」を参照してください。

FOMA通信設定ファイル(ドライバ)をアンインストールする

FOMA通信設定ファイルのアンインストール手順を説明します。

- FOMA通信設定ファイルのアンインストールを行う場合は、必ずパソコンの管理者権限を持ったユーザーで行ってください。それ以外のユーザーが行うとエラーになります。
  パソコンの管理者権限の設定操作については、各パソコンメーカ、マイクロソフト社にお問い合わせください。

■ コントロールパネルからアンインストールする

<例> Windows Vistaでアンインストールするとき

- Windows XP、Windows 2000をご使用のときは、画面の表示が異なります。

1 [スタート]メニュー→[コントロールパネル]の順にクリックし、[プログラム]→[プログラムと機能]アイコンを順にクリックする。

- [プログラムのアンインストールまたは変更]画面が表示されます。

Windows XPの場合

- [スタート]メニュー→[コントロールパネル]をクリックし、[プログラムの追加と削除]アイコンをクリックします。
  [プログラムの追加と削除]画面が表示されます。

Windows 2000の場合

- [スタート]メニュー→[設定]→[コントロールパネル]の順に選んで、[アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。
  [アプリケーションの追加と削除]画面が表示されます。

2 [FOMA SH02B USB]をダブルクリックする。

Windows XP、Windows 2000の場合

- [FOMA SH02B USB]を選んで、[変更と削除]をクリックします。

3 [FOMA SH02B ドライバーのアンインストールを行います。]が表示されたら、[はい]をクリックする。

- FOMA通信設定ファイルのアンインストールが開始されます。

4 [アンインストールは完了しました。PCを再起動してください。]が表示されたら、[OK]をクリックし、パソコンを再起動する。

- FOMA通信設定ファイルのアンインストールが終了します。

次ページへ続く ▶▶

- [プログラムのアンインストールまたは変更]画面に「FOMA SH02B USB」が表示されていない場合は、付属のCD-ROM内の¥SH-02B_driver_vista32¥WinVista32フォルダ内(Windows Vista(64ビット版)の場合は¥SH-02B_driver_vista64¥WinVista64フォルダ内、Windows XP／Windows 2000の場合は¥SH-02B_driver_vista32¥Win2k_XPフォルダ内)の「SH02Bc.exe」をダブルクリックしてアンインストールを行ってください。

Bluetooth接続の準備をする

Bluetooth対応パソコンとFOMA端末をワイヤレス接続してデータ通信を行います。

- Bluetooth機能を利用してデータ通信を行う場合は、FOMA端末の通信速度はハイスピード用の通信速度になりますが、Bluetooth機能の通信速度に限界があるため、最大速度では通信できない場合があります。
- 通信の際はBluetoothリンク経由標準モデムまたはBluetooth機器メーカが提供しているBluetoothモデムをご使用ください。ご使用になる場合のインストール方法や設定方法については、ご使用のパソコンメーカまたはBluetooth機器メーカにご確認ください。
- パソコンの操作方法については、ご使用のパソコンの取扱説明書を参照してください(取扱説明書によっては、「検索」の代わりに「探索」/「サーチ」、「機器登録」の代わりに「ペアリング」と表記されています)。

パソコンとFOMA端末をBluetooth機能を利用してワイヤレス接続する

はじめてFOMA端末に接続するパソコンの場合、パソコンをFOMA端末に登録します。

- パソコンとFOMA端末を操作します。

■ パソコンをFOMA端末に登録する

1 FOMA端末のカスタムメニューで[LifeKit]→[Bluetooth]→[接続待機]を順に選ぶ。

- FOMA端末の画面に[Ⓑ]が約1秒間隔で点滅します。

2 パソコンからBluetoothデバイスの検索と機器登録をする。

- FOMA端末は待受画面を表示させておいてください。

3 FOMA端末の画面に機器登録する旨のメッセージが表示されたら[はい]を選び、FOMA端末でBluetoothパスキーを入力して◉を押す。

- Bluetoothパスキーは4～16桁まで入力できます。
- FOMA端末とパソコンには同一のBluetoothパスキーを入力してください。
- パソコンが機器登録されます。
- 続けてパソコンとFOMA端末をワイヤレス接続する場合は「登録済みのパソコンとFOMA端末を接続する」の操作2に進みます。

- FOMA端末を接続待機にして約5分間経過すると、[Ⓑ]が点灯に変わります。[Ⓑ]が約1秒間隔で点滅している間に機器登録してください。

■ 登録済みのパソコンとFOMA端末を接続する

1 FOMA端末のカスタムメニューで[LifeKit]→[Bluetooth]を順に選ぶ。

2 [接続待機]を選んで[i]を押し、[ダイヤルアップ(DUN)]を☑にして[📷]を押す。

- FOMA端末の画面に[Ⓑ]が約1秒間隔で点滅します。

3 パソコンから接続操作を行う。

- 自動的に接続し、[Ⓑ]が約0.5秒間隔の点滅に変わります。

モデムを確認する

通信の設定を行う前に、使用するモデムのモデム名やダイヤルアップ接続用に設定されたCOMポート番号を確認します。

- パソコンを操作します。

1 [スタート]メニュー→[コントロールパネル]をクリックし、[システムとメンテナンス]→[システム]アイコンを順にクリックする。

- システムのプロパティ画面が表示されます。

Windows XPの場合

- [スタート]メニュー→[コントロールパネル]をクリックし、[パフォーマンスとメンテナンス]アイコン→[システム]アイコンを順にクリックします。

Windows 2000の場合

- [スタート]メニュー→[設定]→[コントロールパネル]の順に選んで[システム]アイコンをダブルクリックします。

2 [タスク]の[デバイスマネージャ]をクリックする。

- デバイスマネージャ画面が表示されます。

Windows XP、Windows 2000の場合

- [ハードウェア]タブをクリックし、[デバイスマネージャ]をクリックします。

3 各デバイスをクリックしてモデム名またはCOMポート番号を確認する。

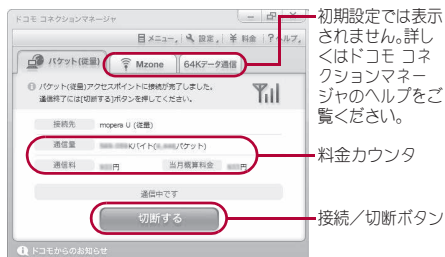
ダイヤルアップ通信サービスを停止する

- FOMA端末を操作します。

1 **カスタムメニューで[LifeKit]→[Bluetooth]→[機器リスト・接続・切断]を順に選ぶ。**

2 **接続中のBluetooth機器を選んで◉を押し、[はい]を選ぶ。**

ドコモ コネクションマネージャ

「ドコモ コネクションマネージャ」は、定額データ通信および従量データ通信を行うのに便利なソフトウェアです。mopera Uのお申し込みや、お客様のご契約状況に応じたパソコンの設定を簡単に行うことができます。
また、料金カウンタ機能でデータ通信量や利用金額の目安を確認することもできます。

- 本書では、ドコモ コネクションマネージャのインストール方法までをご案内いたします。
- 端末を使ってインターネットに接続するためには、サービスおよびデータ通信に対応したインターネットサービスプロバイダ（mopera Uなど）のご契約が必要です。
- 詳しくは、ドコモのホームページをご覧ください。

従量制データ通信（ｉモードパケット定額サービスなど含む）のご利用について

- パケット通信を利用して、画像を含むホームページの閲覧、データのダウンロード（例：アプリケーションや音楽・動画データ、OS・ウイルス対策ソフトのアップデート）などのデータ量の多い通信を行うと、通信料が高額となる場合がありますのでご注意ください。
  なお、本FOMA端末をパソコンなどにUSBケーブルで接続してデータ通信を行う場合は、FOMAのパケット定額サービス「パケ・ホーダイ」、「パケ・ホーダイフル」、「Biz・ホーダイ」の定額対象外通信となりますのでご注意ください。

定額データプランのご利用について

- 定額データプランを利用するには、定額データ通信に対応した料金プラン・インターネットサービスプロバイダにご契約いただく必要があります。詳しくはドコモのホームページをご確認ください。

moperaのご利用について

- 接続設定方法についてはmoperaのホームページをご確認ください。
  http://www.mopera.net/mopera/support/index.html

ドコモ コネクションマネージャをインストールする前に

■インストールの流れ

STEP 1　設定前の準備
FOMA端末とFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02（別売）またはFOMA USB接続ケーブル（別売）を用意する。

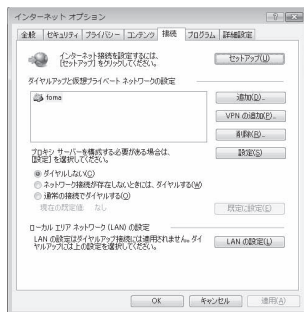
STEP 2　契約内容の確認
サービスおよびインターネットサービスプロバイダの契約内容を確認する。

STEP 3　設定の変更
ドコモ コネクションマネージャ以外の接続ソフトがインストールされている場合は、必要に応じて自動的に起動しないように設定を変更する。
詳しくは、P.11「ドコモ コネクションマネージャ以外の接続ソフトのご利用について」を参照してください。

Internet Explorerの設定について

本ソフトをインストールする前に、Internet Explorerのインターネットオプションで、接続の設定を[ダイヤルしない]に設定してください。

1 Internet Explorerを起動し、[ツール]→[インターネットオプション]を順にクリックする。

2 [接続]タブをクリックし、[ダイヤルしない]を選ぶ。

3 [OK]をクリックする。

1 ドコモ コネクションマネージャを使用するユーザーでログオンする。

Windows Vistaの場合

- 管理者アカウントが必要です。管理者アカウント以外でログオンしている場合は、インストールの途中で、ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示されます。

Windows XP、Windows 2000の場合

- Administratorsグループに所属しているユーザーや「コンピュータの管理者」のユーザーでログオンします。

2 起動しているアプリケーションをすべて終了する。

- ウイルスチェックソフトを含む、Windows上に常駐しているプログラムも終了します。

<例> タスクバーに表示されているアイコンを右クリックし、[閉じる]または[終了]を選択します。

ドコモ コネクションマネージャ以外の接続ソフトのご利用について

- 本ソフトには、次のソフトと同等の機能が搭載されているため、次のソフトを同時にご利用いただく必要はありません。
  ※ 必要に応じて、起動しない設定への変更やアンインストールを実施してください。
  - ■ mopera Uかんたんスタート
  - ■ U かんたん接続設定ソフト
  - ■ FOMA PC設定ソフト
  - ■ FOMAバイトカウンタ

  また、本ソフトでMzone（公衆無線LAN接続）を利用する場合は、次の公衆無線LAN接続ソフトはアンインストールを行ってください。
  ※ 次のソフトを同時にインストールした場合、本ソフトでのMzone接続はご利用いただけません。
  - ■ U公衆無線LANユーティリティソフト
  - ■ ドコモ公衆無線LANユーティリティソフト
  - ■ ドコモ公衆無線LANユーティリティプログラム

ドコモ コネクションマネージャをインストールする

1 付属のCD-ROMをパソコンにセットする。

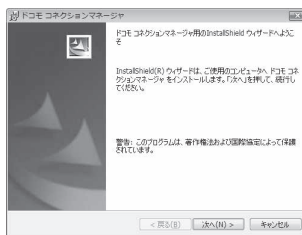
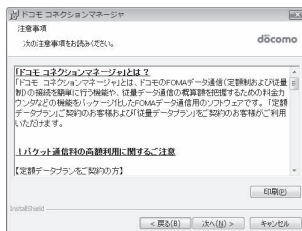
2 [インターネット接続]→[本CD-ROMからのFOMAデータ通信の設定方法]欄の[インストール]を順にクリックする。

- [インストール]をクリックすると、次のような警告画面が表示される場合があります。この警告はInternet Explorerのセキュリティの設定によって表示されますが、使用には問題ありません。

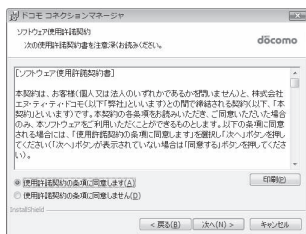
■「ファイルのダウンロード - セキュリティの警告」画面が表示された場合
[実行]をクリックしてください。

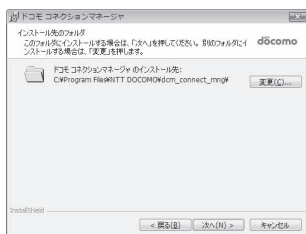
3 [続行]をクリックする。

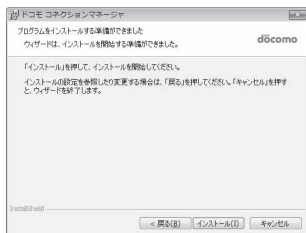
- Windows XP、Windows 2000の場合、ユーザーアカウント制御画面は表示されません。すぐにセットアッププログラムが起動します。

4 [次へ]をクリックする。

5 内容を確認のうえ、[次へ]をクリックする。

- 注意事項が表示されます。必ず内容をご確認ください。[キャンセル]をクリックすると、インストールは中止されます。

次ページへ続く ▶▶

6 内容を確認のうえ、契約内容に同意する場合は[使用許諾契約の条項に同意します]を選んで[次へ]をクリックする。

- ドコモ コネクションマネージャの使用許諾契約書です。[キャンセル]をクリックすると、インストールは中止されます。

7 インストール先を確認し、[次へ]をクリックする。

- 変更する場合は[変更]をクリックし、任意のインストール先を指定して[次へ]をクリックしてください。

8 [インストール]をクリックする。

- インストールが開始されます。

9 [完了]をクリックする。

- インストールが完了します。

● Windows XPで、MSXML6・Wireless LAN APIが環境にない場合は、ドコモ コネクションマネージャをインストールする前に、それらをインストールする必要があります。確認の画面が表示されたときは[Install]をクリックして、MSXML6・Wireless LAN APIをインストールします。MSXML6・Wireless LAN APIのインストール完了後、Windowsを再起動すると、自動的にドコモ コネクションマネージャのインストールが始まります。

ドコモ コネクションマネージャを起動する

1 [スタート]メニュー→[NTT DOCOMO]→[ドコモ コネクションマネージャ]→[ドコモ コネクションマネージャ]の順に選ぶ。

- 初回起動時には、自動的に設定ウィザードが表示されます。以降はソフトの案内に従って操作・設定することで、インターネットに接続する準備が整います。詳細については、「ドコモ コネクションマネージャ操作マニュアル.pdf」をご覧ください。

- インターネットブラウザやメールソフトを終了しただけでは、通信は切断されません。
  通信をご利用にならない場合は、必ずドコモ コネクションマネージャの[切断する]ボタンで通信を切断してください。
  OSアップデートなどにおいて自動更新を設定していると自動的にソフトウェアが更新され、パケット通信料が高額となる場合がございますのでご注意ください。

- パケット通信／64Kデータ通信の設定をする前にFOMA通信設定ファイルをインストールしてください（☞P.4）。
- ATコマンドとは、モデム制御用のコマンドです。
  FOMA端末はATコマンドに準拠し、さらに拡張コマンドの一部や独自のATコマンドをサポートしています。
- ドコモのインターネット接続サービスmopera Uまたはmoperaをご利用になる場合、お買い上げ時に設定されているため、接続先（APN）の設定は不要です。
- 発信者番号通知の設定は必要に応じて設定してください（mopera Uまたはmoperaをご利用の場合、[通知]に設定する必要があります）。お買い上げ時は、[設定なし]に設定されています。
- その他の設定は必要に応じて設定してください。お買い上げ時のままでも利用できます。

ドコモ コネクションマネージャを使わない通信の設定

パケット通信と64Kデータ通信の設定手順

ドコモ コネクションマネージャを使わずに、パケット通信／64Kデータ通信を設定する方法について説明します。
設定を行うためには、ATコマンドを入力するための通信ソフトが必要です。ここではWindows標準添付の「ハイパーターミナル」を使って説明します。

- ATコマンドで設定する操作は、次のような流れになります。
- 64Kデータ通信の場合、接続先（APN）の設定はありません。
- Windows Vistaは「ハイパーターミナル」に対応していません。Windows Vistaの場合は、Windows Vista対応のソフトを使って設定してください（ご使用になるソフトの使用方法に従ってください）。

ATコマンドをサポートする通信ソフトを起動する（操作２～５）

↓

接続先（APN）の設定をする（☞P.14の操作６～７）	発信者番号通知／非通知を設定する（☞P.15）	ダイヤルアップネットワークを設定する（☞P.15）

↓

通信ソフトを終了する（☞P.14の操作７）

接続先（APN）の設定

パケット通信を行う場合の接続先（APN）を設定します。最大10件まで登録できます。接続先は1～10のcid（☞P.14）という番号で管理されます。お買い上げ時、cidの１番にはmoperaに接続するためのAPN「mopera.ne.jp」、cidの３番にはmopera Uに接続するためのAPN「mopera.net」が設定されていますので、cid2、4～10に接続先（APN）を登録してください。

- 登録したcidはダイヤルアップ接続設定での接続番号となります。
- USB接続とBluetooth接続は、それぞれ個別に接続先（APN）を設定する必要があります。
- パケット通信時にUSB接続とBluetooth接続を切り替える場合は、再度接続先（APN）を設定する必要があります。
- mopera Uまたはmopera以外の接続先（APN）については、インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者にお問い合わせください。

<例>　Windows XPでFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02（別売）を利用する場合

- Windows 2000をご使用のときは、画面の表示が異なります。

1　FOMA端末をFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02でパソコンに接続する。

2　[スタート]メニュー→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[通信]→[ハイパーターミナル]の順に選ぶ。

- ハイパーターミナルが起動します。

Windows 2000の場合

- [スタート]メニュー→[プログラム]→[アクセサリ]→[通信]→[ハイパーターミナル]の順に選びます。

次ページへ続く

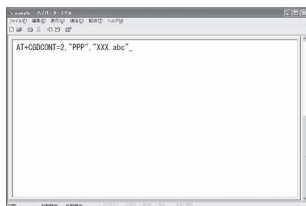
3 ［名前］に接続先名など任意の名前を入力して［OK］をクリックする。

- 電話番号の詳細設定画面が表示されます。

4 ［接続方法］から［FOMA SH02B］を選んで［電話番号］に実在しない電話番号（［0］など）を仮入力して、［OK］をクリックする。

- 市外局番には、Windowsに設定されている値［03］などが表示されますが、接続先（APN）の設定とは関係ありませんので、任意の値を設定してください。

5 接続画面が表示されたら、［キャンセル］をクリックする。

6 接続先（APN）を入力して⏎を押す。

- 「AT+CGDCONT=<cid>,"<PDP_type>","APN"」の形式で入力します（☞P.28）。
  <cid>　　　　：2、4～10までのうち任意の番号を入力します。
  "<PDP_type>"："PPP"または"IP"と入力します。
  "APN"　　　　：接続先（APN）の名称を" "で囲んで入力します。
- ［OK］と表示されると、APNの設定は完了です。
- 現在の接続先（APN）設定を確認したい場合は「AT+CGDCONT?⏎」と入力すると、接続先（APN）設定が一覧画面で表示されます。

ATコマンドを入力しても画面に何も表示されない場合

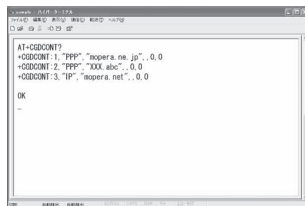
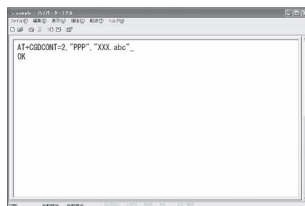
- ATE1⏎
  詳しくは、P.31を参照してください。

ATコマンドで接続先（APN）設定をリセットする場合

- AT+CGDCONT=⏎：　すべてのcidをリセットします
- AT+CGDCONT=<cid>⏎：特定のcidのみリセットします

リセットした場合、<cid>=1は「mopera.ne.jp」（初期値）、<cid>=3は「mopera.net」（初期値）に戻り、<cid>=2、4～10の設定は未登録になります。

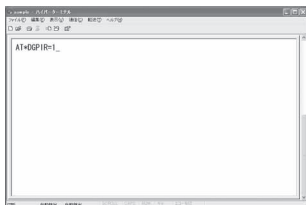
ATコマンドで接続先（APN）設定を確認する場合

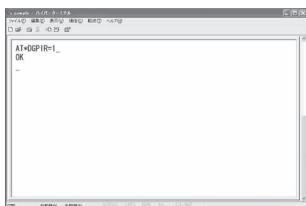
- AT+CGDCONT?⏎
  詳しくは、P.28を参照してください。

7 ［OK］が表示されていることを確認し、［ファイル］メニューから［ハイパーターミナルの終了］を選ぶ。

- ハイパーターミナルが終了します。
- ［セッション×××を保存しますか？］と表示されますが、保存する必要はありません。

発信者番号の通知／非通知を設定する

発信者番号はお客様の大切な情報です。通知する際には十分にご注意ください。

1 **P.13「接続先（APN）の設定」の操作 1～5を行う。**

2 **パケット通信時の発信者番号の通知（186）／非通知（184）を設定する。**

- 「AT*DGPIR=<n>」の形式で入力します（☞P.27）。
  AT*DGPIR=1⏎：
  パケット通信確立時、接続先（APN）に「184」を付けて接続します。
  AT*DGPIR=2⏎：
  パケット通信確立時、接続先（APN）に「186」を付けて接続します。

3 **[OK]が表示されたことを確認する。**

■ ダイヤルアップネットワークでの通知／非通知設定について

ダイヤルアップネットワークの設定でも、接続先の番号に「186」（通知）／「184」（非通知）を付けることができます。

*DGPIRコマンド、ダイヤルアップネットワークの設定の両方で「186」（通知）／「184」（非通知）の設定を行った場合は、次のようになります。

ダイヤルアップネットワークの設定（<cid>=1の場合）	*DGPIRコマンドによる通知／非通知設定	発信者番号の通知／非通知
*99***1#	設定なし（初期値）	通知
	非通知	非通知
	通知	通知
184*99***1#	設定なし（初期値）	非通知（ダイヤルアップネットワークの「184」が優先される）
	非通知	
	通知	
186*99***1#	設定なし（初期値）	通知（ダイヤルアップネットワークの「186」が優先される）
	非通知	
	通知	

- 「186」（通知）／「184」（非通知）を［設定なし］（初期値）に戻すには、「AT*DGPIR=0」と入力してください。
- ドコモのインターネット接続サービスmopera Uまたはmoperaをご利用になる場合は、発信者番号を［通知］に設定する必要があります。

ダイヤルアップネットワークを設定する

接続先およびTCP/IPプロトコルを設定します。設定内容の詳細については、インターネットサービスプロバイダやネットワーク管理者にお問い合わせください。

■ 接続先について

パケット通信では、あらかじめ接続先（APN）設定をしておきます。接続先（APN）設定で1～10の管理番号（cid）に接続先（APN）を登録しておけば、その管理番号を指定してパケット通信ができます。接続先（APN）設定とはパソコンでパケット通信用の電話帳を登録するようなもので、通常の電話帳と比較すると次のようになります。

電話帳の登録	パケット通信の設定
登録番号（メモリ番号）	1～10の管理番号（cid）
相手の名前	接続先の名前（接続先（APN））
相手の電話番号	*99***<cid>#

たとえば、moperaの接続先（APN）、「mopera.ne.jp」をcid1に登録している場合、「*99***1#」という接続先番号を指定すると、moperaに接続できます。他のcidに登録した場合も同様です。

*99***1#：　cid1に登録した接続先（APN）に接続します。*99#でも接続できます。
*99***2#：　cid2に登録した接続先（APN）に接続します。
～
*99***10#：　cid10に登録した接続先（APN）に接続します。

次ページへ続く ▶▶

お買い上げ時、cid1にはmoperaに接続するためのAPN「mopera.ne.jp」が、cid3にはmopera Uに接続するためのAPN「mopera.net」が登録されています。moperaまたはmopera Uの接続先（APN）以外のインターネットサービスプロバイダや企業LANに接続する場合は、cid2、4～10に接続先（APN）を登録してください（☞P.14）。
64Kデータ通信では、接続先にはインターネットサービスプロバイダやネットワーク管理者から指定されたアクセスポイントの電話番号を入力します。

- 設定内容の詳細については、インターネットサービスプロバイダやネットワーク管理者にお問い合わせください。
- 64Kデータ通信をご利用の場合のアクセスポイントの電話番号は、mopera Uをご利用の場合「*8701」、moperaをご利用の場合「*9601」です。
- パケット通信をご利用の場合の接続先番号は、mopera Uをご利用の場合「*99***3#」、moperaをご利用の場合「*99***1#」です（お買い上げ時）。

■ Windows Vistaでダイヤルアップネットワークの設定をする

Windows Vistaでは「ネットワークの接続ウィザード」を使用して、接続先（APN）を設定します。
＜例＞ <cid>=3を使いドコモのインターネット接続サービスmopera Uへ接続する場合

- mopera Uをご利用いただく場合は、お申し込みが必要（有料）となります。

1 ［スタート］メニュー→［接続先］をクリックする。

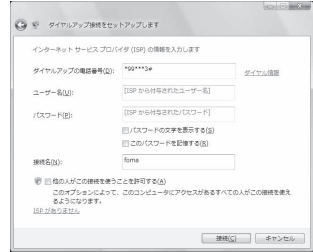
- ネットワークに接続画面が表示されます。

2 ［接続またはネットワークをセットアップします］をクリックする。

- ネットワークに接続画面が表示されます。

3 ［ダイヤルアップ接続をセットアップします］→［次へ］をクリックします。

- Bluetooth接続の場合は、［（ご使用のBluetoothリンク経由標準モデム）］または［（Bluetooth機器メーカが提供しているBluetoothモデム）］を選んでください。
- パソコンに2台以上のモデムが接続されている場合は、［どのモデムを使いますか？］という画面が表示されますので、［FOMA SH02B］を選んでください。
- ダイヤルアップ接続をセットアップします画面が表示されます。

4 ［ダイヤルアップの電話番号］に接続先の番号、［接続名］に任意の接続名を入力して［接続］をクリックする。

- ［ダイヤルアップの電話番号］は、ここでは<cid>=3（mopera U）への接続のため、「*99***3#」を入力します。
- mopera Uまたはmoperaをご利用の場合は、［ユーザー名］と［パスワード］については空欄でも接続できます。
- mopera Uまたはmopera以外のプロバイダに接続する場合の［ユーザー名］と［パスワード］は、プロバイダご使用のユーザー名とパスワードを入力してください。

5 ［（接続名）に接続中］と表示されたら、［スキップ］をクリックする。

- ここではすぐに接続せずに、設定の確認のみを行います。
- ［スキップ］をクリックしなかった場合、インターネットに接続されます。

6 ［接続をセットアップします］をクリックし、［閉じる］をクリックする。

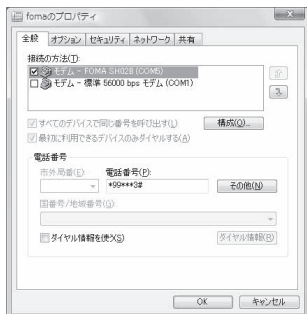
7 ［スタート］メニュー→［ネットワーク］をクリックし、［ネットワークと共有センター］→［ネットワーク接続の管理］を順にクリックする。

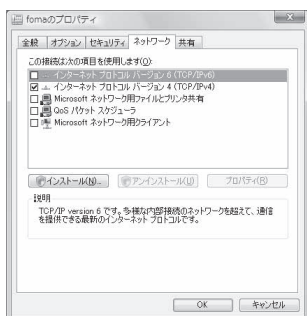
- ネットワーク接続画面が表示されます。

8 作成した接続先アイコンを選んで、右クリックで［プロパティ］を選ぶ。

- プロパティ画面が表示されます。

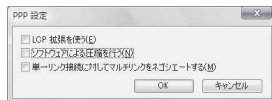
次ページへ続く ▶▶

9 [全般]タブの各項目の設定を確認する。

- パソコンに2台以上のモデムが接続されているとき
  - ■ FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02の場合：[接続の方法]の[FOMA SH02B]が☑になっているか確認します。□の場合は、☑にします。また、[FOMA SH02B]以外のモデムの☑を□にします。
  - ■ Bluetooth接続の場合：[接続の方法]の[(ご使用のBluetoothリンク経由標準モデム)]または[(Bluetooth機器メーカが提供しているBluetoothモデム)]が☑になっているか確認します。□の場合は、☑にします。また、[(ご使用のBluetoothリンク経由標準モデム)]または[(Bluetooth機器メーカが提供しているBluetoothモデム)]以外のモデムの☑を□にします。
- [ダイヤル情報を使う]が□になっていることを確認します。☑の場合は、□にします。

10 [ネットワーク]タブをクリックし、各項目の設定を確認する。

- [この接続は次の項目を使用します]の欄は、[インターネットプロトコルバージョン4（TCP/IPv4)]のみを☑にします。[QoSパケットスケジューラ]は、ご使用のプロバイダの指示に従って設定してください。

11 [オプション]タブをクリックし、[PPP設定]をクリックする。

- PPPの設定画面が表示されます。

12 すべての項目を□にし、[OK]をクリックする。

- オプション設定画面に戻ります。

13 [OK]をクリックする。

- 接続先とTCP/IPプロトコルが設定されます。
- ダイヤルアップ接続するにはP.22を参照してください。

■ Windows XPでダイヤルアップネットワークの設定をする

Windows XPでは「ネットワークの接続ウィザード」を使用して、接続先（APN）とTCP/IPプロトコルの両方を設定します。

＜例＞ <cid>=3を使いドコモのインターネット接続サービスmopera Uへ接続する場合

- mopera Uをご利用いただく場合は、お申し込みが必要（有料）となります。

1 [スタート]メニュー→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[通信]→[ネットワーク接続]をクリックする。

- ネットワーク接続画面が表示されます。

2 [ネットワークタスク]の[新しい接続を作成する]をクリックする。

- 新しい接続ウィザード画面が表示されます。

3 [次へ]をクリックする。

- ネットワーク接続の種類を選ぶ画面が表示されます。

4 [インターネットに接続する]を選んで[次へ]をクリックする。

- 準備画面が表示されます。

5 [接続を手動でセットアップする]を選んで[次へ]をクリックする。

- インターネット接続画面が表示されます。

6 [ダイヤルアップモデムを使用して接続する]を選んで[次へ]をクリックする。

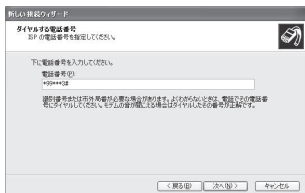
- デバイスの選択画面が表示されます。

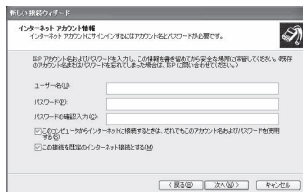
7 [モデム－FOMA SH02B(COMx)]を選んで[次へ]をクリックする。

- 「x」には数字が入ります。
- 接続名画面が表示されます。
- Bluetooth接続の場合は、[(ご使用のBluetoothリンク経由標準モデム)]または[(Bluetooth機器メーカが提供しているBluetoothモデム)]を選んでください。
- 複数のモデムがインストールされている場合のみ、この画面が表示されます。

8 [ISP名]に任意の接続名を入力して[次へ]をクリックする。

- ダイヤルする電話番号画面が表示されます。
- [ISP名]とは、インターネットサービスプロバイダの名称です。

9 [電話番号]に接続先の番号を入力して[次へ]をクリックする。

- インターネットアカウント情報画面が表示されます。
- ここでは<cid>=3(mopera U)への接続のため、「*99***3#」を入力します。

10 各項目を画面例のように設定し、[次へ]をクリックする。

- 新しい接続ウィザードの完了画面が表示されます。
- mopera Uまたはmoperaをご利用の場合は、[ユーザー名]と[パスワード]については空欄でも接続できます。
- mopera Uまたはmopera以外のプロバイダに接続する場合の[ユーザー名]と[パスワード]は、プロバイダご使用のユーザー名とパスワードを入力してください。

11 [新しい接続ウィザードの完了]が表示されたら、[完了]をクリックする。

- 新しく作成した接続ウィザードが表示されます。

12 設定内容を確認し、[キャンセル]をクリックする。

- ここではすぐに接続せずに、設定の確認のみを行います。

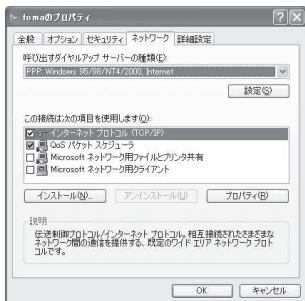
13 作成した接続先アイコンを選んで[ファイル]メニューの[プロパティ]を選ぶ。

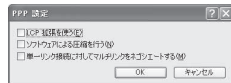
- 接続先のプロパティ画面が表示されます。

次ページへ続く

14 [全般]タブの各項目の設定を確認する。

- パソコンに２台以上のモデムが接続されているとき
  - ■ FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02の場合：[接続の方法]の[FOMA SH02B]が☑になっているか確認します。□の場合は、☑にします。また、[FOMA SH02B]以外のモデムの☑を□にします。
  - ■ Bluetooth接続の場合：[接続の方法]の[(ご使用のBluetoothリンク経由標準モデム)]または[(Bluetooth機器メーカが提供しているBluetoothモデム)]が☑になっているか確認します。□の場合は、☑にします。また、[(ご使用のBluetoothリンク経由標準モデム)]または[(Bluetooth機器メーカが提供しているBluetoothモデム)]以外のモデムの☑を□にします。
- [ダイヤル情報を使う]が□になっていることを確認します。☑の場合は、□にします。

15 [ネットワーク]タブをクリックし、各項目の設定を確認し、[設定]をクリックする。

- [呼び出すダイヤルアップサーバーの種類]は[PPP:Windows95/98/NT4/2000, Internet]に設定します。
- [この接続は次の項目を使用します]の欄は、[インターネットプロトコル(TCP/IP)]のみを☑にします。[QoSパケットスケジューラ]は設定変更できませんので、そのままにしておいてください。
- PPP設定画面が表示されます。
- ISPなどに接続する場合のTCP/IP設定は、ISPまたはネットワーク管理者に確認してください。

16 すべての項目を□にし、[OK]をクリックする。

- 接続先のプロパティ画面に戻ります。

17 [プロパティ]の画面で[OK]をクリックする。

- 接続先とTCP/IPプロトコルが設定されます。
- ダイヤルアップ接続するにはP.22を参照してください。

■ Windows 2000でダイヤルアップネットワークの設定をする

Windows 2000では「ネットワークの接続ウィザード」を使用して、接続先とTCP/IPプロトコルの両方を設定します。

<例> <cid>=3を使いドコモのインターネット接続サービスmopera Uへ接続する場合

- mopera Uをご利用いただく場合は、お申し込みが必要(有料)となります。

1 [スタート]メニュー→[プログラム]→[アクセサリ]→[通信]→[ネットワークとダイヤルアップ接続]をクリックする。

- ネットワークとダイヤルアップ接続画面が表示されます。

2 [新しい接続の作成]アイコンをダブルクリックする。

- 所在地情報画面が表示されます。
- この画面は[新しい接続の作成]をはじめてダブルクリックしたときに表示されます。
  ２回目以降の場合は、操作５へ進みます。

3 [市外局番]を入力して[OK]をクリックする。

- 電話とモデムのオプション画面が表示されます。

4 [OK]をクリックする。

- ネットワークの接続ウィザード画面が表示されます。

5 [次へ]をクリックする。

- ネットワーク接続の種類を選択する画面が表示されます。

次ページへ続く

6 [インターネットにダイヤルアップ接続する]を選んで[次へ]をクリックする。

- ウィザードの開始画面が表示されます。

7 [インターネット接続を手動で設定するか、またはローカルエリアネットワーク(LAN)を使って接続します]を選んで[次へ]をクリックする。

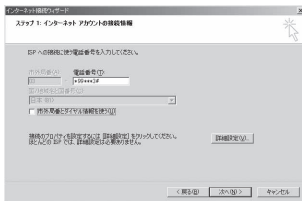
- インターネットの選択画面が表示されます。

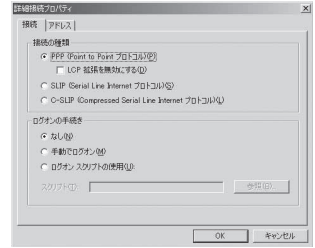
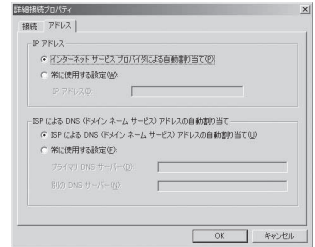
8 [電話回線とモデムを使ってインターネットに接続します]を選んで[次へ]をクリックする。

- モデムの選択画面が表示されます。

9 [インターネットへの接続に使うモデムを選択する]が[FOMA SH02B]に設定されていることを確認し、[次へ]をクリックする。

- インターネットアカウントの接続情報画面が表示されます。
- [FOMA SH02B]に設定されていない場合は、[FOMA SH02B]に設定してください。
- Bluetooth接続の場合は、[(ご使用のBluetoothリンク経由標準モデム)]または[(Bluetooth機器メーカが提供しているBluetoothモデム)]に設定してください。
- 複数のモデムがインストールされている場合のみ、この画面が表示されます。

10 [電話番号]に接続先の番号を入力して[詳細設定]をクリックする。

- 詳細設定プロパティの接続画面が表示されます。
- [市外局番とダイヤル情報を使う]が☐になっていることを確認します。☑の場合は☐にします。

11 [接続]タブの各項目を画面例のように設定する。

12 [アドレス]タブをクリックし、各項目を画面例のように設定する。

- ISPなどに接続する場合のTCP/IP設定は、ISPまたはネットワーク管理者に確認してください。

13 [OK]をクリックする。

- インターネットアカウントの接続情報画面に戻ります。

14 [次へ]をクリックする。

- インターネットアカウントのログイン情報画面が表示されます。

次ページへ続く ▶▶

15 各項目の設定を確認し、[次へ]をクリックする。

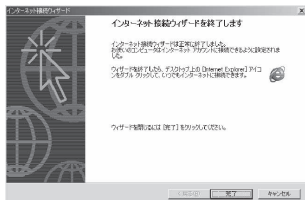
- コンピュータの設定画面が表示されます。
- mopera Uまたはmoperaをご利用の場合は、[ユーザー名]と[パスワード]については空欄でも接続できます。空欄のまま[次へ]をクリックすると[ユーザー名]と[パスワード]それぞれに確認の画面が表示されますので[はい]をクリックしてください。
- mopera Uまたはmopera以外のプロバイダに接続する場合の[ユーザー名]と[パスワード]は、プロバイダご使用のユーザー名とパスワードを入力してください。

16 [接続名]に任意の接続名を入力して[次へ]をクリックする。

- e-mailアカウントの設定画面が表示されます。

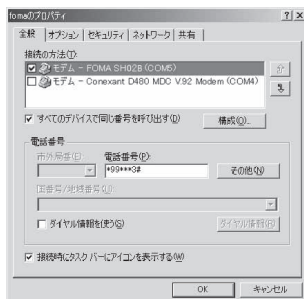
17 [いいえ]を選んで[次へ]をクリックする。

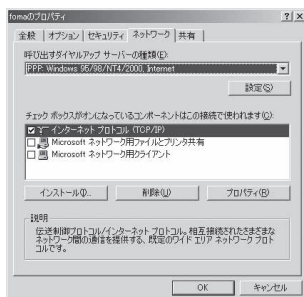
- インターネット接続ウィザードの終了画面が表示されます。

18 [完了]をクリックする。

- ネットワークとダイヤルアップ接続画面に戻ります。

19 作成した接続先アイコンを選んで[ファイル]メニューの[プロパティ]を選ぶ。

- 接続先のプロパティ画面が表示されます。

20 [全般]タブの各項目の設定を確認する。

- パソコンに2台以上のモデムが接続されているとき
  - ■ FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02の場合：[接続の方法]の[FOMA SH02B]が☑になっているか確認します。□の場合は、☑にします。また、[FOMA SH02B]以外のモデムの☑を□にします。
  - ■ Bluetooth接続の場合：[接続の方法]の[(ご使用のBluetoothリンク経由標準モデム)]または[(Bluetooth機器メーカが提供しているBluetoothモデム)]が☑になっているか確認します。□の場合は、☑にします。また、[(ご使用のBluetoothリンク経由標準モデム)]または[(Bluetooth機器メーカが提供しているBluetoothモデム)]以外のモデムの☑を□にします。
- [ダイヤル情報を使う]が□になっていることを確認します。☑の場合は□にします。

21 [ネットワーク]タブをクリックし、各項目の設定を確認する。

- [呼び出すダイヤルアップサーバーの種類]は[PPP:Windows95/98/NT4/2000, Internet]に設定します。
- コンポーネントは[インターネットプロトコル(TCP/IP)]のみを☑にします。

22 [設定]をクリックする。

- PPPの設定画面が表示されます。

次ページへ続く

23 すべての項目を☐にし、[OK]をクリックする。

- 接続先のプロパティ画面に戻ります。

24 [OK]をクリックする。

- 接続先とTCP/IPプロトコルが設定されます。
- ダイヤルアップ接続するにはP.22を参照してください。

ダイヤルアップ接続する

<例> Windows VistaでFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02を利用してダイヤルアップ接続する場合

● Windows XP、Windows 2000をご使用のときは、画面の表示が異なります。

1 FOMA端末をFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02でパソコンに接続する。

2 [スタート]メニュー→[接続先]をクリックする。

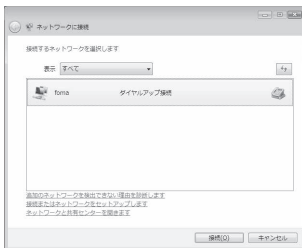
- ダイヤルアップネットワーク画面が表示されます。

Windows XPの場合

- [スタート]メニュー→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[通信]→[ネットワーク接続]をクリックします。

Windows 2000の場合

- [スタート]メニュー→[プログラム]→[アクセサリ]→[通信]→[ネットワークとダイヤルアップ接続]をクリックします。

3 接続先のアイコンをダブルクリックする。

- 接続画面が表示されます。
- 接続先のアイコンを選んで[ファイル]メニューの[接続]を選んでも、接続画面が表示されます。

4 各項目を確認し、[ダイヤル]をクリックする。

- 接続先へ接続されます。
- [ダイヤル]には「ダイヤルアップネットワークを設定する」(☞P.15)で設定した電話番号が表示されます。
- 接続先がmopera Uまたはmoperaの場合、[ユーザー名]と[パスワード]については空欄でも接続できます。

■ 切断するには

インターネットブラウザを終了しただけでは切断されない場合があります。確実に切断するには、次の操作をしてください。

1 タスクトレイの[ ]→[接続または切断...]をクリックし、切断先のアイコンをダブルクリックする。

- 接続が切断されます。

Windows XP、Windows 2000の場合

- タスクトレイの[ ]をクリックし、[切断]をクリックします。

データの送受信（OBEX™通信）について

FOMA端末内のデータをパソコンと送受信する

- FOMA端末は、データ通信用のプロトコルとして、OBEX™機能を持っています。FOMA端末をFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02（別売）でパソコンに接続し、本データ通信（OBEX™通信によるデータの送受信）を使って電話帳、電話番号表示の所有者情報、スケジュール、送信メール（SMS含む）、受信メール（SMS含む）、未送信メール（SMS含む）、エリアメール、テキストメモ、メロディ、マイピクチャ、iモーション、マイドキュメント、ブックマーク、トルカ、デコメアニメ®テンプレート、現在地通知先、設定情報のデータを送受信できます。
- FOMA端末では、次の3通りのデータ送信が可能です。
  - ■ パソコンからFOMA端末にデータを1件ずつ送信する（1件書き込み）
  - ■ パソコンからFOMA端末にデータを一括して送信する（全件書き込み）
  - ■ FOMA端末からパソコンにデータを一括して送信する（全件読み出し）
- データの送受信中は圏外となり、音声電話やテレビ電話、iモードやiモードメール、パケット通信などはできません。
- データの送受信終了後、しばらく[圏外]と表示される場合があります。

- FOMA端末とパソコンが正しく接続されているか十分に確認してください。正しく接続されていない場合、データの送受信ができないだけでなく、データが失われることがあります。
- FOMA端末の電池残量が十分残っていることを確認してください。電池残量がほとんど残っていない状態や電池切れの状態では、データの送受信ができないだけでなく、データが失われることがあります。FOMA端末を卓上ホルダで充電しながら操作することをおすすめします。
- パソコンの電源についても確認してください。データの送受信ができないだけでなく、データが失われることがあります。
- 待受画面の状態でデータ通信を行ってください。待受画面に動画／iモーションを設定している場合は、動画／iモーションの再生を停止してからデータ通信を行ってください。
- 通信中（音声通話やテレビ電話、データ通信）にデータの送受信はできません。また、データの送受信中には他の通信もできません。ただし、データの送受信開始直後などは着信を受ける場合があります。その場合、データの送受信が中止されます。
- FOMAカード内の電話帳は送信できません。
- iアプリの起動指定が貼り付けられているメールは、貼り付けられているデータを削除して送信されます。
- 本文と合わせて100Kバイトを超えるメールの添付データは削除して送信されます。
- オールロックが設定されている場合、電話帳などのデータの送受信はできません。機能別ロックが設定されている場合、ロックされている機能のデータの受信はできません。
- ダイヤル発信制限が設定されている場合、電話帳のデータは送受信できません。
- データの大きさによっては、送受信に時間がかかる場合があります。また、データの大きさによってはFOMA端末で受信できない場合があります。
- 電話帳のデータを受信する場合、1件受信のときは、メモリ番号[010]から、全件受信のときは、メモリ番号の情報に従って登録します。
- 電話帳を全件受信すると、電話番号表示に登録されている所有者情報（1件目の電話番号を除く）も上書きされます。
- 電話帳はメモリ番号順に送信されます。
- 全件送信を行うと電話番号表示の所有者情報は電話帳と一緒に送信されます。
- 2Mバイトを超えるPDFは送信できません。
- データの送受信（OBEX）は次の方法で行うこともできます（機能によっては送受信できないデータがあります）。
  - ■ 赤外線通信
  - ■ iC通信
  - ■ microSDカード
  - ■ Bluetooth通信

■ データの送受信（OBEX™通信）に必要な機器

- データの送受信を行うには、OBEX™規格に準拠したデータ転送用のソフトをインターネットからダウンロードし、パソコンにインストールする必要があります。データ転送用のソフトの動作環境、インストール方法については、データ転送用のソフトの取扱説明書を参照してください。また、あらかじめFOMA通信設定ファイルのインストール（☞P.4〜P.8）が必要です。
- FOMA端末とパソコンの接続には、FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02が必要です。

- FOMA端末のデータの送受信（OBEX™通信）機能は、IrMC™ 1.1規格に準拠しています。ただし、相手機器がIrMC™ 1.1規格に準拠していてもアプリケーションによっては送受信できないデータがあります。

データを1件送信する（1件書き込み）

- パソコンからFOMA端末へデータを1件ずつ送信します。
- FOMA端末からパソコンへ1件ずつ送信することはできません。
- データ送信の操作方法は、データ転送用のソフトによって異なります。詳しくは、データ転送用のソフトの取扱説明書を参照してください。

1 パソコンからデータ転送用のソフトを使ってデータ送信（1件書き込み）の操作を行う。

- データ送信のしかたについては、データ転送用のソフトの取扱説明書を参照してください。

- 電話帳のデータを1件ずつ受信するとき（パソコンからFOMA端末（本体）へ送信するとき）は電話帳のメモリ番号[010]～[999]の空いているメモリ番号の中で最も若いメモリ番号に登録されます。[010]～[999]がすべて登録されているときは、[000]～[009]の空いているメモリ番号の中で最も若いメモリ番号に登録されます。
- 電話帳のデータを受信した場合、すでに名前や電話番号またはメールアドレスが1000件登録されているときや1000件を超えるときは、登録できないことを通知するメッセージが表示されます。

データを全件送信する（全件書き込み／全件読み出し）

- パソコンとFOMA端末の間で一括書き込みと一括読み出しができます。
- 「全件書き込み」あるいは「全件読み出し」の操作では、データ転送用のソフトとFOMA端末の両方で認証パスワードを入力する必要があります。
- データ送信の操作方法は、データ転送用のソフトによって異なります。詳しくは、データ転送用のソフトの取扱説明書を参照してください。

1 パソコンからデータ転送用のソフトを使ってデータ送信（全件転送）の操作を行う。

- データ送信のしかたについては、データ転送用のソフトの取扱説明書を参照してください。
- パソコン側でも認証パスワードの入力が必要です。
- 認証パスワードは4桁の数字を入力してください。

2 FOMA端末で、端末暗証番号（4～8桁の数字）と認証パスワード（4桁の数字）を入力する。

3 データ送信を開始する。

- パソコンからFOMA端末への全件書き込みを行うとFOMA端末のデータはすべて書換えられます。元のFOMA端末のデータは消去されますので、ご注意ください。シークレット登録した電話帳、スケジュール、保護されたメールを含みます。ただし、データBOXの画像やｉモーション、メロディ、PDF、またはデコメアニメ®テンプレートの場合、元のデータは削除されずに追加保存されます。
- パソコンからFOMA端末への全件書き込みの途中で送信エラーが起こると、送信中のFOMA端末のすべてのデータが消去されることがあります。全件書き込みの前にケーブルの接続、FOMA端末の電池残量、パソコンの電源の状態を確認してください。FOMA端末を卓上ホルダで充電しながら操作することをおすすめします。
- 相手の機器によっては、通信状況（バー表示）が表示されないことがあります。

ATコマンド一覧

ATコマンドについて

ATコマンドとは、パソコンでFOMA端末の各機能を設定するためのコマンド(命令)です。パソコンでコマンドを入力すると、その内容に従ってFOMA端末が動作します。

■ ATコマンドの入力形式

ATコマンドは、コマンドの先頭に必ずATを付けて入力します。必ず半角英数字で入力してください。

入力例

ATコマンドはコマンドに続くパラメータ(数字や記号)を含めて、必ず1行で入力します。1行とは最初の文字から↵を押した直前までの文字のことで、160文字(AT含む)まで入力できます。

■ ATコマンドの入力モード

ATコマンドでFOMA端末を操作するには、パソコンをターミナルモードにしてください。ターミナルモードにすると、キーボードから入力された文字がそのまま通信ポートに送られ、FOMA端末を操作できます。

- オフラインモード
  FOMA端末が待受の状態です。通常ATコマンドでFOMA端末を操作する場合は、この状態で操作を行います。
- オンラインデータモード
  FOMA端末が通信中の状態です。この状態のときにATコマンドを入力すると、送られてきた文字をそのまま通信先に送信して、通信先のモデムを誤動作させることがあります。通信中はATコマンドを入力しないでください。
- オンラインコマンドモード
  FOMA端末が通信中の状態でも、特別な操作をすると、ATコマンドでFOMA端末を操作できる状態になります。その場合、通信先との接続を維持したままATコマンドを実行し、終了すると再び通信を続けられます。

- 外部機器から64Kデータ通信で発信を行った場合、2in1のモードが[Aモード]/[デュアルモード]のときはAナンバーで発信します。[Bモード]のときはBナンバーで発信します。ただし、[デュアルモード]設定時のATコマンドによるリダイヤル発信を行った場合は、最後に発信したナンバーでリダイヤル発信します。
- ターミナルモードとは、パソコンを1台の通信端末(ターミナル)のように動作させるモードです。キーボードから入力した文字が通信ポートに接続されている機器や回線に送られます。

■ オンラインデータモードとオンラインコマンドモードを切り替える

FOMA端末をオンラインデータモードからオンラインコマンドモードに切り替えるには、次の方法があります。

- +++コマンドまたはS2レジスタに設定したコードを入力します。
- AT&D1に設定されているときに、RS-232C※のER信号をOFFにします。

また、オンラインコマンドモードからオンラインデータモードに切り替えるには、ATO↵と入力します。

※ USBインターフェースにより、RS-232Cの信号線がエミュレートされていますので、通信アプリケーションによるRS-232Cの信号線制御が有効になります。

ATコマンド一覧

[M]：FOMA SH02B Modem Portで使用できるATコマンドです。

ATコマンド	概　要	パラメータ／説明	コマンド実行例
AT [M]	—	本コマンドのあとに本一覧表のコマンドを付加することでFOMA端末のモデム機能を制御することができます。 ※ATのみ入力した場合でもOKが応答されます。	AT↵ OK
AT%V [M]	FOMA端末のバージョンを表示します。※2	—	AT%V↵ Ver1.00 OK
AT&C<n> [M]	DTEへの回路CD（DCD）信号の動作条件を設定します。※1	n=0 ：回路CDを常にON n=1 ：回路CD信号は回線接続状態に従って変化（お買い上げ時） &C1に設定する場合は、接続完了時のCONNECTを送出する直前にCD信号を「ON」にします。回路が切断され、“NO CARRIER”を送出する直前にCD信号を「OFF」にします。	AT&C1↵ OK
AT&D<n> [M]	オンラインデータモードのときに、DTEから受け取る回路ER（DTR）信号が「ON」から「OFF」に変わったときの動作を設定します。※1	n=0 ：状態を無視（常にONとみなす） n=1 ：ONからOFFに変わるとオンラインコマンドモード状態になる n=2 ：ONからOFFに変わると回線を切断しオフラインモード状態になる（お買い上げ時）	AT&D1↵ OK
AT&E<n> [M]	接続時の速度表示仕様を選択します。※1	n=0 ：無線区間通信速度を表示 n=1 ：DTEシリアル通信速度を表示（お買い上げ時）	AT&E0↵ OK
AT&F<n> [M]	FOMA端末のATコマンド設定値をお買い上げ時の状態にリセットします。通信中に本コマンドを入力した場合は、回線を切断してからリセットします。※2	n=0のみ指定可能（省略可）	AT&F↵ OK
AT&S<n> [M]	DTEへ出力するデータセットレディ（DR）信号の制御のしかたを設定します。※1	n=0 ：常時ON（お買い上げ時） n=1 ：回線接続時にDR信号ON	AT&S0↵ OK
AT&W<n> [M]	現在の設定値をFOMA端末に記憶します。※2、※5	n=0のみ指定可能（省略可）	AT&W↵ OK
AT*DANTE [M]	FOMA端末の電波の受信状態を表示します。※2	本コマンドにより応答されるリザルトは次の書式とします。 *DANTE:<m> <m> 0 ：FOMA端末にて圏外と表示される状態 1 ：FOMA端末にてアンテナ本数0本もしくは1本の状態 2 ：FOMA端末にてアンテナ本数2本の状態 3 ：FOMA端末にてアンテナ本数3本の状態	AT*DANTE↵ *DANTE:3 OK
AT*DGANSM=<n> [M]	パケット着信呼に対する着信拒否／許可設定のモードを設定します。本コマンドの設定は、設定コマンド入力後のパケット通信着信呼のみ有効です。※2	n=0 ：着信拒否設定および着信許可設定を［OFF］に設定（お買い上げ時） n=1 ：着信拒否設定を［ON］に設定 n=2 ：着信許可設定を［ON］に設定	AT*DGANSM=0↵ OK AT*DGANSM?↵ *DGANSM:0 OK
AT*DGAPL=<n>[,<cid>] [M]	パケット着信呼に対して着信を許可する接続先（APN）を設定します。APN設定は「+CGDCONT」で定義された<cid>パラメータを使用します。※2	<n>パラメータによって着信許可リストへの追加および削除を指定し、<cid>パラメータを省略した場合は、<cid>のすべてをリストに追加（<n>=0）あるいは削除（<n>=1）します。本コマンドで追加（削除）しようとする<cid>が「+CGDCONT」コマンドで定義されていない場合でも、リストへ追加（削除）できます。 n=0 ：リストへ追加（<cid>で定義されたAPNを着信許可リストに追加） n=1 ：リストから削除（<cid>で定義されたAPNを着信許可リストから削除）	AT*DGAPL=0,1↵ OK AT*DGAPL?↵ *DGAPL:1 OK

次ページへ続く ▶▶

ATコマンド	概　要	パラメータ／説明	コマンド実行例
AT*DGARL=<n> [,<cid>] [M]	パケット着信呼に対して着信を拒否する接続先（APN）を設定します。APN設定は「+CGDCONT」で定義された<cid>パラメータを使用します。※2	<n>パラメータによって着信拒否リストへの追加および削除を指定し、<cid>パラメータを省略した場合は、<cid>のすべてをリストに追加（<n>=0）あるいは削除（<n>=1）します。本コマンドで追加（削除）しようとする<cid>が「+CGDCONT」コマンドで定義されていない場合でも、リストへ追加（削除）できます。 n=0：リストへ追加（<cid>で定義されたAPNを着信拒否リストに追加） n=1：リストから削除（<cid>で定義されたAPNを着信拒否リストより削除）	AT*DGARL=0,1↵ OK AT*DGARL?↵ *DGARL:1 OK
AT*DRPW [M]	FOMA端末から通知される受信電力値を表示します。※2	本コマンドにより応答されるリザルトは次の書式とします。 *DRPW:<m> m：0～75（受信電力の値）	AT*DRPW↵ *DRPW:0 OK
AT*DGPIR=<n> [M]	本コマンドの設定は、発信時に有効です。ダイヤルアップネットワークの設定でも、接続先の番号に186（通知）／184（非通知）を付けることができます。※2	n=0：パケット通信確立時、接続先（APN）にそのまま接続（お買い上げ時） n=1：パケット通信確立時、接続先（APN）に184を付けて接続 n=2：パケット通信確立時、接続先（APN）に186を付けて接続 本コマンドとダイヤルアップネットワークの両方で186（通知）／184（非通知）を設定した場合については、P.15「ダイヤルアップネットワークでの通知／非通知設定について」を参照してください。	AT*DGPIR=0↵ OK AT*DGPIR?↵ *DGPIR:0 OK
+++ [M]	FOMA端末のモードをオンラインデータモードからオンラインコマンドモードへ移行します。 エスケープガード区間は、1秒の固定値です。※2	―	（通信中） +++（表示は見えない） OK
AT+CACM=[<passwd>] [M]	UIMに記録される累積課金値をリセットします。※2	本コマンドで、パスワードが一致した場合は、UIMに記録される累積課金値をリセットします。 <passwd>：SIM PIN2 ※ストリングパラメータであり、入力時は "で囲みます。	AT+CACM="0123"↵ OK
AT+CAOC=[<mode>] [M]	現在の課金値の問い合わせを行います。※2	<mode> 0：現在の呼の課金を問い合わせる 本コマンドにより応答されるリザルトは次の書式とします。 +CAOC:"<ccm>"	AT+CAOC↵ +CAOC:"00001E" OK
AT+CBC [M]	バッテリー状態の問い合わせを行います。※2	本コマンドにより応答されるリザルトは次の書式とします。 +CBC:<bcs>,<bcl> <bcs> 0：バッテリーによりFOMA端末が動作している状態 1：充電中 2：バッテリー未接続状態 3：減電中 <bcl> 0～100（バッテリー残量）	AT+CBC↵ +CBC:0,80 OK
AT+CBST=[<speed>[,<name>[,<ce>]]] [M]	発信時のベアラサービスの設定を行います。AT+FCLASS=<n>コマンド（☞P.30）が0のときのみ有効です。※1	<speed> 116：64Kデータ通信（お買い上げ時） <name> 1：固定値 <ce> 0：固定値	AT+CBST=116,1,0↵ OK
AT+CEER [M]	直前の通信の切断理由を表示します。※2	「切断理由一覧」を参照（☞P.34）。	AT+CEER↵ +CEER:36 OK

次ページへ続く ▶▶

ATコマンド	概　要	パラメータ／説明	コマンド実行例
AT+CGDCONT [M]	パケット発信時の接続先（APN）を設定します。※2	「ATコマンドの補足説明」を参照（☞P.34）。	「ATコマンドの補足説明」を参照（☞P.34）。
AT+CGEQMIN [M]	パケット通信確立時にネットワーク側から通知されるQoS（サービス品質）を許容するかどうかの判定基準値を登録します。※2	「ATコマンドの補足説明」を参照（☞P.35）。	「ATコマンドの補足説明」を参照（☞P.35）。
AT+CGEQREQ [M]	パケット通信時の発信時にネットワークへ要求するQoS（サービス品質）を設定します。※2	「ATコマンドの補足説明」を参照（☞P.36）。	「ATコマンドの補足説明」を参照（☞P.36）。
AT+CGMR [M]	FOMA端末のバージョンを表示します。※2	―	AT+CGMR↵ 1234567890123456 OK
AT+CGREG=<n> [M]	ネットワーク登録状態を通知するかどうかを設定します。通知されている内容は圏内／圏外です。※1	<n> 0：設定しない（お買い上げ時） 1：設定する AT+CGREG=1に設定すると、“+CGREG:<stat>”の形式で通知されます。<stat>パラメータは、0,1,4,5をサポートします。 <stat> 0：圏外 1：圏内（home） 4：不明 5：圏内（visitor）	AT+CGREG=1↵ OK （通知ありに設定） AT+CGREG?↵ +CGREG:1,0 OK （圏外を意味している） +CGREG:1 （圏外から圏内に移動した場合）
AT+CGSN [M]	FOMA端末の製造番号を表示します。※2	―	AT+CGSN↵ 123456789012345 OK
AT+CLIP=<n> [M]	64Kデータ通信の着信時に、相手の発信番号をパソコンに表示できます。※1	<n> 0：リザルトを出さない（お買い上げ時） 1：リザルトを出す 「AT+CLIP?」のとき、+CLIP:<n>,<m>を表示します。 <m> 0：発信時に相手に番号を通知しないNW設定 1：発信時に相手に番号を通知するNW設定 2：不明	AT+CLIP=0↵ OK AT+CLIP?↵ +CLIP:0,1 OK
AT+CLIR=<n> [M]	64Kデータ通信の発信時に、電話番号を相手側に通知するかどうかを設定します。※2	<n> 0：サービスご契約の設定どおり 1：通知しない 2：通知する（お買い上げ時） AT+CLIR?のとき、 +CLIR:<n>,<m>を表示します。 <m> 0：CLIRは起動していない（常時通知） 1：CLIRは常時起動している（常時非通知） 2：不明 3：CLIRテンポラリ・モード（非通知デフォルト） 4：CLIRテンポラリ・モード（通知デフォルト）	AT+CLIR=0↵ OK AT+CLIR?↵ +CLIR:2,3 OK
AT+CDIP=<n> [M]	着サブアドレスの通知の有無を設定します。また、マルチナンバー契約状況を確認できます。	<n> 0：サブアドレスを表示しない（お買い上げ時） 1：サブアドレスを表示する <m> 0：マルチナンバー未契約 1：マルチナンバー契約中 2：不明	AT+CDIP=0↵ OK AT+CDIP?↵ +CDIP:0,1 OK

次ページへ続く ▶▶

ATコマンド	概　要	パラメータ／説明	コマンド実行例
AT+CMEE=<n> [M]	FOMA端末のエラーレポートの有無を設定します。※1	エラーを“ERROR”のみで表示するか、理由を文字あるいは数値でレポートするかを設定します。 <n> 0 ：リザルトコードを使用せずに“ERROR”を表示(お買い上げ時) 1 ：リザルトコードを使用し、数字で理由を表示 2 ：リザルトコードを使用し、文字で理由を表示 「n=1」または「n=2」でエラーレポート表示に設定した場合、エラーレポートは次のように表示されます。 +CME ERROR:xxxx xxxxには数字または文字が表示されます。「エラーレポート一覧」(☞P.34)	AT+CMEE=0↵ OK AT+CNUM↵ ERROR AT+CMEE=1↵ OK AT+CNUM↵ +CME ERROR:10
AT+CNUM [M]	FOMA端末の自局番号を表示します。※2	number ：電話番号 type　 ：129もしくは145 129 ：国際アクセスコード+を含まない 145 ：国際アクセスコード+を含む	AT+CNUM↵ +CNUM:,"+819012345678",145 OK
AT+COPS=[<mode>[,<format>[,<oper>]]] [M]	接続する通信事業者を選択します。※2	<mode> 0：オート(自動的にネットワークを検索して通信事業者を切り替える) 1：マニュアル(<oper>に指定された通信事業者に接続する) 2：通信事業者との接続を解除(切断)する ※非サポートとなります。 3：マッピングを行わない 4：マニュアルオート(<oper>に指定された通信事業者に接続できなかった場合に「オート」の処理を行う) ※非サポートとなります。 <format> 2：固定値 <oper>は国番号(MCC)とネットワーク番号(MNC)からなる16進数の値で示します。 書式は次のとおり。 Digit 1 of MCC…octet 1 bits 1 to 4. Digit 2 of MCC…octet 1 bits 5 to 8. Digit 3 of MCC…octet 2 bits 1 to 4. Digit 3 of MNC…octet 2 bits 5 to 8. Digit 2 of MNC…octet 3 bits 5 to 8. Digit 1 of MNC…octet 3 bits 1 to 4.	AT+COPS=1,2,"44F001"↵ OK (MCC:440MNC:10に接続)
AT+CPAS [M]	FOMA端末のアクティビティー状態問い合わせを行います。※2	本コマンドにより応答されるリザルトは次の書式とします。 +CPAS:<pas> <pas> 0：ATコマンド送受信可能 1：ATコマンド送受信不可能(+CPAS: 1のリザルトを送出しない) 2：不明 3：ATコマンド送受信可能かつ着信中 4：ATコマンド送受信可能かつ通信中	AT+CPAS↵ +CPAS:0 OK

次ページへ続く ▶▶

ATコマンド	概　要	パラメータ／説明	コマンド実行例
AT+CPIN=<pin>[,<newpin>] [M]	UIMに関するパスワード（PIN1,PIN2）の入力を行います。※2	<pin> PIN1入力待ち状態ではPIN1を入力（<pin>パラメータのみ入力） PIN2入力待ち状態ではPIN2を入力（<pin>パラメータのみ入力） PUK1入力待ち状態ではPUK1を入力 PUK2入力待ち状態ではPUK2を入力 ※ストリングパラメータであり、入力時は" "で囲みます <newpin> PUK1入力待ち状態では新しいPIN1を入力 PUK2入力待ち状態では新しいPIN2を入力 ※ストリングパラメータであり、入力時は" "で囲みます	AT+CPIN?⏎ +CPIN:SIM PIN1 OK （PIN1入力待ち状態を表している） AT+CPIN="1234"⏎ OK AT+CPIN?⏎ +CPIN:SIM PUK1 OK （PUK1入力待ち状態を表している） AT+CPIN="12345678","1234"⏎ OK
AT+CR=<mode> [M]	回線接続時に“CONNECT”のリザルトコードが表示される前に、パケット通信／64Kデータ通信を表示するかどうかを設定します。※1 パケット通信のときは、“GPRS”と表示され64Kデータ通信のときは“SYNC”と表示されます。	<mode> 0：回線接続時に表示しない（お買い上げ時） 1：回線接続時に表示する	AT+CR=1⏎ OK ATD*99***1# +CR:GPRS CONNECT
AT+CRC=<n> [M]	着信時に拡張リザルトコードを使用するかどうかを設定します。※1	n=0：拡張リザルトコードを使用しない（お買い上げ時） n=1：拡張リザルトコードを使用する	AT+CRC=0⏎ OK
AT+CREG=<n> [M]	ネットワークの圏内／圏外情報を表示するかどうかを設定します。※1	AT+CREG=1に設定すると、“+CREG:<stat>”の形式で通知されます。<stat>パラメータは0,1,4,5をサポートします。 <n> 0：通知なし（お買い上げ時） 1：通知あり <stat> 0：圏外 1：圏内（home） 4：不明 5：圏内（visitor）	AT+CREG=1⏎ OK （通知ありに設定） AT+CREG?⏎ +CREG:1,0 OK （圏外を意味している） +CREG:1 （圏外から圏内に移動した場合）
AT+CUSD=[<n>[,<str>[,<dcs>]]] [M]	付加サービスなどに関し、網側の設定を変更します。※1	<n> 0：中間リザルトを応答せず、OKを応答する（お買い上げ時） 1：中間リザルトを応答する <str> サービスコード ※ 詳しくは『ご利用ガイドブック（ネットワークサービス編）』をご覧ください。 <dcs> 0：固定値	AT+CUSD=0,"xxxxxx"⏎ OK
AT+FCLASS=<n> [M]	モード設定を行います。※1	<n> 0:データ（固定値）	AT+FCLASS=0⏎ OK
AT+GCAP [M]	FOMA端末の能力リストを表示します。※2	―	AT+GCAP⏎ +GCAP:+CGSM,+FCLASS,+W OK
AT+GMI [M]	FOMA端末のメーカの名前が半角英数字で表示されます。※2	―	AT+GMI⏎ SHARP OK
AT+GMM [M]	FOMA端末の製品名の略称（FOMA SH02B）がアルファベットおよび数字で表示されます。※2	―	AT+GMM⏎ FOMA SH02B OK

次ページへ続く ▶▶

ATコマンド	概　要	パラメータ／説明	コマンド実行例
AT+GMR [M]	FOMA端末のバージョンを表示します。※2	—	AT+GMR↵ Ver1.00 OK
AT+IFC=<n,m> [M]	パソコンとFOMA端末間のローカルフロー制御方式を設定します。※1	DCE by DTE（<n>） 0：フロー制御を行わない 1：XON/XOFFフロー制御を行う 2：RS/CS（RTS/CTS）フロー制御を行う （お買い上げ時） DTE by DCE（<m>） 0：フロー制御を行わない 1：XON/XOFFフロー制御を行う 2：RS/CS（RTS/CTS）フロー制御を行う （お買い上げ時）	AT+IFC=2,2↵ OK
AT+WS46? [M]	国際ローミング設定の3G／GSM切替設定に従い、応答を行います。※2	本コマンドにより応答されるリザルトは次の書式とします。 <n> 12：GSM／GPRSモード設定時 22：3Gモード設定時 25：自動モード設定時	AT+WS46?↵ 25 OK （自動モード設定時）
A/ [M]	直前に実行したコマンドを再実行するときに使用します。※2	—	A/ OK
ATA [M]	パケット着信および64Kデータ通信の着信時に入力すると、着信処理を行います。※2	パケット着信中には、「ATA184↵」（発信者番号通知なし着信動作）および「ATA186↵」（発信者番号通知あり着信動作）を入力できます。	RING ATA↵ CONNECT
ATD [M]	発信処理を行います。※2、※3	● パケット通信ATD*99***<cid>#↵ ATD*99#を入力した場合： <cid>=1（お買い上げ時）を用います（<cid>の入力を省略した場合は、<cid>=1になります）。 ATD184*99***<cid>#で始まる書式を入力した場合： 指定した<cid>に規定した接続先（APN）に対して“184”が付加されます（発信者番号通知ありの“186”でも同様の操作ができます）。 ● 64Kデータ通信ATD［パラメータ］［電話番号］↵ 相手側の電話番号に、0～9、*、#、+、A、a、B、b、C、c、D、d、-（ハイフン）、スペース、T、t、P、p、!、W、w、@、,（カンマ）以外を設定した場合は、発信できません。　　の文字は入力可能ですが、ダイヤル時には認識されません。	ATD*99***1#↵ CONNECT
ATE<n> [M]	パソコンから送信された本コマンドに対して、FOMA端末がエコーを返すかどうかを設定します。※1	n=0：エコーバックなし n=1：エコーバックあり（お買い上げ時） 通常はn=1で使用します。パソコンにエコー機能がある場合、n=0に設定してください。	ATE1↵ OK
ATH [M]	パケット通信および64Kデータ通信時に入力すると、回線を切断します。※2	—	（通信中） +++（表示は見えない） OK ATH↵ NO CARRIER
ATI<n> [M]	確認コードを表示します。※2	n=0：NTT DoCoMo n=1：製品名の略称を表示（FOMA SH02B） n=2：製品のバージョンを“VerX.XX”などの形式で表示 n=3：ACMP信号の各要素を表示 n=4：FOMA端末の有する通信機能の詳細を表示	ATI0↵ NTT DoCoMo OK
ATO [M]	通信中にオンラインコマンドモードからオンラインデータモードに戻ります。※2	—	ATO↵ CONNECT
ATQ<n> [M]	リザルトコードを表示するかどうかを設定します。※1	n=0：リザルトコードを表示する （お買い上げ時） n=1：リザルトコードを表示しない	ATQ0↵ OK

ATコマンド	概　要	パラメータ／説明	コマンド実行例
ATV<n> [M]	リザルトコードの表示方法を設定します。※1	すべてのリザルトコードを数字表記あるいは英文字表記で表示します。 n=0：リザルトコードを数字表記で表示 n=1：リザルトコードを英文字表記で表示（お買い上げ時）	ATV1↵ OK
ATX<n> [M]	接続のCONNECT表示に速度表示の有無を設定します。また、ビジートーン、ダイヤルトーンの検出を行います。※1	ビジートーン検出： 接続先が通話中のとき、BUSY応答を送出します。 ダイヤルトーン検出： FOMA端末に接続されているかどうかを判定します。 速度表示： 接続時のCONNECT表示に速度を表示するかどうかを設定します。 n=0：ビジートーン検出なし、ダイヤルトーン検出なし、速度表示なし n=1：ビジートーン検出なし、ダイヤルトーン検出なし、速度表示あり n=2：ビジートーン検出なし、ダイヤルトーン検出あり、速度表示あり n=3：ビジートーン検出あり、ダイヤルトーン検出なし、速度表示あり n=4：ビジートーン検出あり、ダイヤルトーン検出あり、速度表示あり（お買い上げ時）	ATX1↵ OK
ATZ<n> [M]	FOMA端末のATコマンド設定値をリセットします。※2、※4	FOMA端末のATコマンド設定値を不揮発メモリの内容にリセットします。通信中に本コマンドを入力した場合は、回線を切断してからリセットします。 n=0のみ指定可能（省略可）	（オンライン時） ATZ↵ NO CARRIER （オフライン時） ATZ↵ OK
ATS0=<n> [M]	FOMA端末が自動着信するまでの呼び出し回数を設定します。※1	n=0：自動着信しない（お買い上げ時） n=1～255　：指定したリング数で自動着信する	ATS0=0↵ OK
ATS2=<n> [M]	エスケープキャラクタの設定を行います。	n=0～127（お買い上げ時n=43） n=127に設定するとエスケープは無効になります。	ATS2=43↵ OK ATS2?↵ 043 OK
ATS3=<n> [M]	復帰（CR）キャラクタの設定を行います。	ATコマンド文字列の最後を認識するキャラクタを定義します。エコーバックされたコマンド文字列とリザルトコードの最後に付きます。設定値は変更できません（お買い上げ時n=13）。	ATS3=13↵ OK ATS3?↵ 013 OK
ATS4=<n> [M]	改行（LF）キャラクタの設定を行います。	英文でリザルトコードを表示する場合、CRキャラクタの後ろに付きます。設定値は変更できません（お買い上げ時n=10）。	ATS4=10↵ OK ATS4?↵ 010 OK
ATS5=<n> [M]	バックスペース（BS）キャラクタの設定を行います。	ATコマンド入力中にこのキャラクタを検出すると、入力バッファの最後のキャラクタを削除します。設定値は変更できません（お買い上げ時n=8）。	ATS5=8↵ OK ATS5?↵ 008 OK
ATS6=<n> [M]	ダイヤルするまでのポーズ時間（秒）を設定します。	本コマンドによりレジスタは設定されますが、動作しません。 n：2～10（お買い上げ時n=5）	ATS6=10↵ OK
ATS8=<n> [M]	カンマダイヤルするまでのポーズ時間（秒）を設定します。	本コマンドによりレジスタは設定されますが、ポーズ時間（3秒）に影響しません。 n=0：ポーズしない n：1～255（お買い上げ時n=3）	ATS8=3↵ OK
ATS10=<n> [M]	自動切断の遅延時間（秒）を設定します（1/10秒）。※1	本コマンドによりレジスタは設定されますが、動作しません。 n：1～255（お買い上げ時n=1）	ATS10=1↵ OK

次ページへ続く ▶▶

ATコマンド	概　要	パラメータ／説明	コマンド実行例
ATS30=<n> [M]	データの送受信をこの時間以上行わないと切断します。	本コマンドの設定は、64Kデータ通信時のみ有効です。<n>は分単位で設定します。 n：0～255（お買い上げ時n=0） n=0は不活動タイマオフ	ATS30=3↵ OK
ATS103=<n> [M]	着サブアドレスを付けて発信する場合の区切りを設定します。	本コマンドの設定は、64Kデータ通信時のみ有効です。 n=0 ：*アスタリスク n=1 ：/スラッシュ （お買い上げ時） n=2 ：¥マーク あるいはバックスラッシュ	ATS103=0↵ OK
ATS104=<n> [M]	発サブアドレスを付けて発信する場合の区切りを設定します。	本コマンドの設定は、64Kデータ通信時のみ有効です。 n=0 ：#シャープ n=1 ：%パーセント（お買い上げ時） n=2 ：&アンド	ATS104=0↵ OK
AT¥S [M]	現在の設定されている各コマンドとSレジスタの内容を表示します。※2	—	AT¥S↵ E1 Q0 V1 X4 &C1 &D2 &S0 &E1 ¥V0 S000=000 S002=043 S003=013 S004=010 S005=008 S006=005 S007=060 S008=003 S010=001 S030=000 S103=001 S104=001 OK
AT¥V<n> [M]	接続時の応答コード仕様を選択します。※1	本コマンドは、ATX<n>コマンド（☞P.32）がn=0以外のときのみ有効です。 n=0 ：拡張リザルトコードを使用しない （お買い上げ時） n=1 ：拡張リザルトコードを使用する	AT¥V1↵ OK

※1　AT&WコマンドでFOMA端末に記憶されます。
※2　AT&WコマンドでFOMA端末に記憶されません。
　　AT&F、ATZコマンドによるリセットも行われません。
※3　ATDN↵やATDL↵でリダイヤル発信ができます。
※4　AT&Wコマンドを使用する前にATZコマンドを実行すると、最後に記憶した状態に戻り、それまでの変更内容は消去されます。
※5　AT&WコマンドでFOMA端末に記憶された設定値は、電源を切ると不揮発データとしてFOMA端末に格納されます。

切断理由一覧

■ パケット通信

値	理　由
27	接続先（APN）が存在しないか、もしくは正しくありません。
30	ネットワークによって切断されました。
33	パケット通信の契約がされていません。
36	正常に切断されました。

■ 64Kデータ通信

値	理　由
1	指定した番号は存在しません。
16	正常に切断されました。
17	相手側が通信中のため、通信ができません。
18	発信しましたが、指定時間内に応答がありませんでした。
19	相手側が呼び出し中のため通信ができません。
21	相手側が着信を拒否しました。
63	ネットワークのサービスおよびオプションが有効ではありません。
65	提供されていない伝達能力を指定しました。
88	端末属性の異なる端末に発信したか、もしくは着信を受けました。

エラーレポート一覧

数字表示	文字表示	理　由
10	SIM not inserted	FOMAカードがセットされていません。
15	SIM wrong	ドコモ以外のSIM（FOMAカードに相当するＩＣカード）が挿入されています。
16	incorrect password	パスワードが間違っています。
100	unknown	不明なエラーです。

ATコマンドの補足説明

■ コマンド名：+CGDCONT=[パラメータ]

概要

パケット発信時の接続先（APN）の設定を行います。
AT&WコマンドでFOMA端末に記憶されません。
AT&F、ATZコマンドによるリセットも行われません。

書式

+CGDCONT=[<cid>[,"<PDP_type>"[,"<APN>"]]]↵

パラメータ説明

<cid>*　　　：1～10
<PDP_type>*：PPPまたはIP
<APN>*　　：任意

<cid>は、FOMA端末内に登録するパケット通信での接続先（APN）を管理する番号です。FOMA端末では1～10を登録できます。お買い上げ時、<cid>=1には「mopera.ne.jp」、<PDP_type>は「PPP」が、<cid>=3には「mopera.net」、<PDP_type>は「IP」が初期値として登録されていますので、cidは2もしくは4～10に設定します。<APN>は接続先を示す接続ごとの任意の文字列です。

実行例

「abc」という接続先（APN）名を登録する場合のコマンド（<cid>=2の場合）
AT+CGDCONT=2,"PPP","abc"↵
OK

パラメータを省略した場合の動作

AT+CGDCONT=
すべての<cid>の設定をクリアします。ただし、<cid>=1および3の設定はお買い上げ時の状態に再設定されます。
AT+CGDCONT=<cid>
指定された<cid>の設定をクリアします。ただし、<cid>=1および3の設定はお買い上げ時の状態に再設定されます。
AT+CGDCONT=?
設定可能な値のリスト値を表示します。
AT+CGDCONT?
現在の設定値を表示します。

■ コマンド名：+CGEQMIN=[パラメータ]

概要

PPPパケット通信確立時にネットワーク側から通知されるQoS（サービス品質）を許容するかどうかの判定基準値を登録します。
AT&Wコマンドで FOMA端末に記憶されません。
AT&F、ATZコマンドによるリセットも行われません。

書式

AT+CGEQMIN=[<cid> [,, <Maximum bitrate UL> [, <Maximum bitrate DL>[,,,,<Maximum SDU size>]]]]↵

パラメータ説明

<cid>＊ ：1～10
<Maximum bitrate UL>＊：なし（初期値）または384
<Maximum bitrate DL>＊：なし（初期値）または7232
<Maximum SDU size>＊
　<PDP_type>がPPPの場合：10（初期値）～1500または1502
　<PDP_type>がIPの場合：10（初期値）～1500

<cid>は、FOMA端末内に登録するパケット通信での接続先（APN）を管理する番号です。[Maximum bitrate UL]および[Maximum bitrate DL]では、FOMA端末と基地局間の上りおよび下りの最大通信速度（kbps）を設定します。[なし（お買い上げ時）]に設定した場合は、すべての速度を許容しますが、「384」および「7232」を設定した場合、これらの速度未満の接続は許容されないため、パケット通信が接続されない場合があります。[Maximum SDU size]では、最大許容SDUサイズを設定します。「10（初期値）～1500または1502」を設定したときは、これらの値未満の接続は許容されないため、パケット通信が接続できないことがありますのでご注意ください。また、「70」未満の接続に関しては接続できませんのでご注意ください。

実行例

（1）の設定が各cidに初期値として設定されています。

（1） 上り／下りすべての速度を許容する場合のコマンド（<cid>=2の場合）
　AT+CGEQMIN=2↵
　OK

（2） 上り384kbps／下り7232kbpsかつ最大許容SDUサイズ1500を許容する場合のコマンド（<cid>=3の場合）
　AT+CGEQMIN=3,,384,7232,,,,1500↵
　OK

（3） 上り384kbps／下りすべての速度を許容する場合のコマンド（<cid>=4の場合）
　AT+CGEQMIN=4,,384↵
　OK

（4） 上りすべての速度／下り7232kbps速度のみ許容する場合のコマンド（<cid>=5の場合）
　AT+CGEQMIN=5,,,7232↵
　OK

パラメータを省略した場合の動作

AT+CGEQMIN=
すべての<cid>の設定をクリアします。
AT+CGEQMIN=<cid>
指定された<cid>をお買い上げ時の状態に戻します。
AT+CGEQMIN=?
設定可能な値のリストを表示します。
AT+CGEQMIN?
現在の設定を表示します。

■ コマンド名:+CGEQREQ=[パラメータ]

概要

PPPパケット通信時の発信時にネットワークへ要求するQoS(サービス品質)を設定します。
AT&WコマンドでFOMA端末に記憶されません。
AT&F、ATZコマンドによるリセットも行われません。

書式

AT+CGEQREQ=[<cid> [,<Traffic class> [,<Maximum bitrate UL> [,<Maximum bitrate DL> [,,,,<Maximum SDU size>]]]]]⏎

パラメータ説明

各cidにはその内容がお買い上げ時に設定されています。
<cid>*:1～10
<Traffic class>*:2または3
　2:interactive(初期値)
　3:background
<Maximum bitrate UL>*:なし(初期値)または64～384
<Maximum bitrate DL>*:なし(初期値)または64～7232
ただし、[Maximum bitrate UL] [Maximum bitrate DL]は許容範囲であっても端数を切り捨てた値が設定されることがあります。
<Maximum SDU size>*
　<PDP_type>がPPPの場合:10～1500または1502(初期値)
　<PDP_type>がIPの場合:10～1500(初期値)
<cid>は、FOMA端末内に登録するパケット通信での接続先(APN)を管理する番号です。

実行例

(1)の設定が各cidに初期値として設定されています。

(1) 上り／下りの速度を設定せず、接続を要求する場合のコマンド(<cid>=2、Traffic class=2の場合)
AT+CGEQREQ=2
OK

(2) 上り384kbps／下り7232kbpsかつ最大許容SDUサイズ1500で接続を要求する場合のコマンド(<cid>=3、Traffic class=2の場合)
AT+CGEQREQ=3,2,384,7232,,,,1500
OK

(3) 上り384kbps／下りの速度を指定せず、接続を要求する場合のコマンド(<cid>=4、Traffic class=2の場合)
AT+CGEQREQ=4,2,384
OK

(4) 上りの速度を指定せずに下り7232kbpsで接続を要求する場合のコマンド(<cid>=5、Traffic class=2の場合)
AT+CGEQREQ=5,2,,7232
OK

パラメータを省略した場合の動作

AT+CGEQREQ=
すべての<cid>をお買い上げ時の状態に戻します。
AT+CGEQREQ=<cid>
指定された<cid>をお買い上げ時の状態に戻します。
AT+CGEQREQ=?
設定可能な値のリスト値を表示します。
AT+CGEQREQ?
現在の設定を表示します。

リザルトコード

■ リザルトコード

数字表示	文字表示	意　味
0	OK	正常に実行しました。
1	CONNECT	相手側と接続しました。
2	RING	着信を検出しました。
3	NO CARRIER	回線が切断されました。
4	ERROR	コマンドを受け付けることができません。
6	NO DIALTONE	ダイヤルトーンの検出ができません。
7	BUSY	話中音の検出中です。
8	NO ANSWER	接続完了タイムアウトしました。
100	RESTRICTION	ネットワークが規制中です。
101	DELAYED	リダイヤル発信規制中です。

■ 拡張リザルトコード

数字表示	文字表示	意　味
5	CONNECT 1200	FOMA端末－PC間速度1200bpsで接続しました。
10	CONNECT 2400	FOMA端末－PC間速度2400bpsで接続しました。
11	CONNECT 4800	FOMA端末－PC間速度4800bpsで接続しました。
13	CONNECT 7200	FOMA端末－PC間速度7200bpsで接続しました。
12	CONNECT 9600	FOMA端末－PC間速度9600bpsで接続しました。
15	CONNECT 14400	FOMA端末－PC間速度14400bpsで接続しました。
16	CONNECT 19200	FOMA端末－PC間速度19200bpsで接続しました。
17	CONNECT 38400	FOMA端末－PC間速度38400bpsで接続しました。
18	CONNECT 57600	FOMA端末－PC間速度57600bpsで接続しました。
19	CONNECT 115200	FOMA端末－PC間速度115200bpsで接続しました。
20	CONNECT 230400	FOMA端末－PC間速度230400bpsで接続しました。
21	CONNECT 460800	FOMA端末－PC間速度460800bpsで接続しました。

- リザルトコードは、ATV<n>コマンド（☞P.32）がn=1に設定されている場合は英文字表記（初期値）、n=0に設定されている場合は数字表記で表示されます。
- 従来のRS-232Cで接続するモデムとの互換性を保つため、通信速度は表示します。ただし、FOMA端末－PC間はFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02（別売）やBluetooth機能を利用して接続されているため、実際の接続速度と異なります。
- ［RESTRICTION］（数字：100）が表示された場合は、通信ネットワークが混雑しています。しばらくしてから接続し直してください。

通信プロトコルリザルトコード

数字表示	文字表示	意　味
1	PPPoverUD	64Kデータ通信で接続
5	PACKET	パケット通信で接続

リザルトコード表示例

ATX0が設定されている場合

AT¥V<n>コマンド（☞P.33）の設定にかかわらず、接続完了の際にCONNECTのみの表示となります。

文字表示例：　ATD*99***1#
CONNECT

数字表示例：　ATD*99***1#
1

ATX1が設定されている場合

● ATX1、AT¥V0が設定されている場合（初期値）

接続完了のときに、CONNECT＜FOMA端末－PC間の速度＞の書式で表示します。

文字表示例：　ATD*99***1#
CONNECT 460800

数字表示例：　ATD*99***1#
1 21

● ATX1、AT¥V1が設定されている場合※

接続完了のときに、次の書式で表示します。

CONNECT＜FOMA端末－PC間の速度＞PACKET＜接続先（APN）＞／＜上り方向（FOMA端末→無線基地局間）の最高速度＞／＜下り方向（FOMA端末←無線基地局間）の最高速度＞

文字表示例：　ATD*99***1#
CONNECT 460800 PACKET mopera.ne.jp/384/7232
（mopera.ne.jpに、上り最大384kbps、下り最大7232kbpsで接続したことを表す）

数字表示例：　ATD*99***1#
1 21 5

※ ATX1、AT¥V1を同時に設定した場合、ダイヤルアップ接続が正しく行えない場合があります。AT¥V0のみでのご利用をおすすめします。

区点コード一覧

'09.11（1版）

4桁の区点コードを利用して漢字やひらがな、カタカナ、記号、英数字などを入力できます。

- 区点コードとは、漢字などの文字ひとつひとつに付けられている固有の番号です。
  区点コードでの入力のしかたについては、取扱説明書の「区点コードで入力する」を参照してください。
- 区点コード一覧で該当する文字がない区点コードを入力すると、何も入力されないか、またはスペースが入力されます。
- 区点コード一覧の表示は、実際の表示と見えかたが異なるものがあります。

区点 1～3桁目	区点4桁目									
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
010		(スペース)	、	。	，	．	・	：	；	？
011	！	゛	゜	´	｀	¨	＾	￣	＿	ヽ
012	ヾ	ゝ	ゞ	〃	仝	々	〆	〇	ー	―
013	‐	／	＼	～	∥	｜	…	‥	‘	’
014	“	”	（	）	〔	〕	［	］	｛	｝
015	〈	〉	《	》	「	」	『	』	【	】
016	＋	－	±	×	÷	＝	≠	＜	＞	≦
017	≧	∞	∴	♂	♀	°	′	″	℃	￥
018	＄	￠	￡	％	＃	＆	＊	＠	§	☆
019	★	○	●	◎	◇					
020		◆	□	■	△	▲	▽	▼	※	〒
021	→	←	↑	↓	〓					
022							∈	∋	⊆	⊇
023	⊂	⊃	∪	∩						
024			∧	∨	￢	⇒	⇔	∀	∃	
026	∠	⊥	⌒	∂	∇	≡	≒	≪	≫	√
027	∽	∝	∵	∫	∬					
028			Å	‰	♯	♭	♪	†	‡	¶
029					◯					
031							０	１	２	３
032	４	５	６	７	８	９				
033				Ａ	Ｂ	Ｃ	Ｄ	Ｅ	Ｆ	Ｇ
034	Ｈ	Ｉ	Ｊ	Ｋ	Ｌ	Ｍ	Ｎ	Ｏ	Ｐ	Ｑ
035	Ｒ	Ｓ	Ｔ	Ｕ	Ｖ	Ｗ	Ｘ	Ｙ	Ｚ	
036						ａ	ｂ	ｃ	ｄ	ｅ
037	ｆ	ｇ	ｈ	ｉ	ｊ	ｋ	ｌ	ｍ	ｎ	ｏ
038	ｐ	ｑ	ｒ	ｓ	ｔ	ｕ	ｖ	ｗ	ｘ	ｙ
039	ｚ									
040		ぁ	あ	ぃ	い	ぅ	う	ぇ	え	ぉ
041	お	か	が	き	ぎ	く	ぐ	け	げ	こ
042	ご	さ	ざ	し	じ	す	ず	せ	ぜ	そ
043	ぞ	た	だ	ち	ぢ	っ	つ	づ	て	で
044	と	ど	な	に	ぬ	ね	の	は	ば	ぱ
045	ひ	び	ぴ	ふ	ぶ	ぷ	へ	べ	ぺ	ほ
046	ぼ	ぽ	ま	み	む	め	も	ゃ	や	ゅ
047	ゆ	ょ	よ	ら	り	る	れ	ろ	ゎ	わ
048	ゐ	ゑ	を	ん						
050		ァ	ア	ィ	イ	ゥ	ウ	ェ	エ	ォ
051	オ	カ	ガ	キ	ギ	ク	グ	ケ	ゲ	コ
052	ゴ	サ	ザ	シ	ジ	ス	ズ	セ	ゼ	ソ
053	ゾ	タ	ダ	チ	ヂ	ッ	ツ	ヅ	テ	デ
054	ト	ド	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ハ	バ	パ
055	ヒ	ビ	ピ	フ	ブ	プ	ヘ	ベ	ペ	ホ
056	ボ	ポ	マ	ミ	ム	メ	モ	ャ	ヤ	ュ
057	ユ	ョ	ヨ	ラ	リ	ル	レ	ロ	ヮ	ワ
058	ヰ	ヱ	ヲ	ン	ヴ	ヵ	ヶ			
060		Α	Β	Γ	Δ	Ε	Ζ	Η	Θ	Ι
061	Κ	Λ	Μ	Ν	Ξ	Ο	Π	Ρ	Σ	Τ
062	Υ	Φ	Χ	Ψ	Ω					
063				α	β	γ	δ	ε	ζ	η
064	θ	ι	κ	λ	μ	ν	ξ	ο	π	ρ
065	σ	τ	υ	φ	χ	ψ	ω			
070		А	Б	В	Г	Д	Е	Ё	Ж	З
071	И	Й	К	Л	М	Н	О	П	Р	С
072	Т	У	Ф	Х	Ц	Ч	Ш	Щ	Ъ	Ы

区点 1～3桁目	区点4桁目									
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
073	Ь	Э	Ю	Я						
074										а
075	б	в	г	д	е	ё	ж	з	и	й
076	к	л	м	н	о	п	р	с	т	у
077	ф	х	ц	ч	ш	щ	ъ	ы	ь	э
078	ю	я								
080		─	│	┌	┐	┘	└	├	┬	┤
081	┴	┼	━	┃	┏	┓	┛	┗	┣	┳
082	┫	┻	╋	┠	┯	┨	┷	┿	┝	┰
083	┥	┸	╂							
130		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
131	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲
132	⑳	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	Ⅸ
133	Ⅹ		㍉	㌔	㌢	㍍	㌘	㌧	㌃	㌶
134	㍑	㍗	㌍	㌦	㌣	㌫	㍊	㌻	㎜	㎝
135	㎞	㎎	㎏	㏄	㎡					
136				㍻	〝	〟	№	㏍	℡	㊤
137	㊥	㊦	㊧	㊨	㈱	㈲	㈹	㍾	㍽	㍼
138	≒	≡	∫	∮	∑	√	⊥	∠	∟	⊿
139	∵	∩	∪							
あ										
160		亜	唖	娃	阿	哀	愛	挨	姶	逢
161	葵	茜	穐	悪	握	渥	旭	葦	芦	鯵
162	梓	圧	斡	扱	宛	姐	虻	飴	絢	綾
163	鮎	或	粟	袷	安	庵	按	暗	案	闇
164	鞍	杏								
い										
164			以	伊	位	依	偉	囲	夷	委
165	威	尉	惟	意	慰	易	椅	為	畏	異
166	移	維	緯	胃	萎	衣	謂	違	遺	医
167	井	亥	域	育	郁	磯	一	壱	溢	逸
168	稲	茨	芋	鰯	允	印	咽	員	因	姻
169	引	飲	淫	胤	蔭					
170		院	陰	隠	韻	吋				
う										
170							右	宇	烏	羽
171	迂	雨	卯	鵜	窺	丑	碓	臼	渦	嘘
172	唄	欝	蔚	鰻	姥	厩	浦	瓜	閏	噂
173	云	運	雲							
え										
173				荏	餌	叡	営	嬰	影	映
174	曳	栄	永	泳	洩	瑛	盈	穎	頴	英
175	衛	詠	鋭	液	疫	益	駅	悦	謁	越
176	閲	榎	厭	円	園	堰	奄	宴	延	怨
177	掩	援	沿	演	炎	焔	煙	燕	猿	縁
178	艶	苑	薗	遠	鉛	鴛	塩			
お										
178								於	汚	甥
179	凹	央	奥	往	応					
180		押	旺	横	欧	殴	王	翁	襖	鴬
181	鴎	黄	岡	沖	荻	億	屋	憶	臆	桶
182	牡	乙	俺	卸	恩	温	穏	音		
か										
182									下	化
183	仮	何	伽	価	佳	加	可	嘉	夏	嫁
184	家	寡	科	暇	果	架	歌	河	火	珂
185	禍	禾	稼	箇	花	苛	茄	荷	華	菓
186	蝦	課	嘩	貨	迦	過	霞	蚊	俄	峨

区点 1～3桁目	区点4桁目									
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
187	我	牙	画	臥	芽	蛾	賀	雅	餓	駕
188	介	会	解	回	塊	壊	廻	快	怪	悔
189	恢	懐	戒	拐	改					
190		魁	晦	械	海	灰	界	皆	絵	芥
191	蟹	開	階	貝	凱	劾	外	咳	害	崖
192	慨	概	涯	碍	蓋	街	該	鎧	骸	浬
193	馨	蛙	垣	柿	蛎	鈎	劃	嚇	各	廓
194	拡	撹	格	核	殻	獲	確	穫	覚	角
195	赫	較	郭	閣	隔	革	学	岳	楽	額
196	顎	掛	笠	樫	橿	梶	鰍	潟	割	喝
197	恰	括	活	渇	滑	葛	褐	轄	且	鰹
198	叶	椛	樺	鞄	株	兜	竃	蒲	釜	鎌
199	噛	鴨	栢	茅	萱					
200		粥	刈	苅	瓦	乾	侃	冠	寒	刊
201	勘	勧	巻	喚	堪	姦	完	官	寛	干
202	幹	患	感	慣	憾	換	敢	柑	桓	棺
203	款	歓	汗	漢	澗	潅	環	甘	監	看
204	竿	管	簡	緩	缶	翰	肝	艦	莞	観
205	諌	貫	還	鑑	間	閑	関	陥	韓	館
206	舘	丸	含	岸	巌	玩	癌	眼	岩	翫
207	贋	雁	頑	顔	願					
き										
207						企	伎	危	喜	器
208	基	奇	嬉	寄	岐	希	幾	忌	揮	机
209	旗	既	期	棋	棄					
210		機	帰	毅	気	汽	畿	祈	季	稀
211	紀	徽	規	記	貴	起	軌	輝	飢	騎
212	鬼	亀	偽	儀	妓	宜	戯	技	擬	欺
213	犠	疑	祇	義	蟻	誼	議	掬	菊	鞠
214	吉	吃	喫	桔	橘	詰	砧	杵	黍	却
215	客	脚	虐	逆	丘	久	仇	休	及	吸
216	宮	弓	急	救	朽	求	汲	泣	灸	球
217	究	窮	笈	級	糾	給	旧	牛	去	居
218	巨	拒	拠	挙	渠	虚	許	距	鋸	漁
219	禦	魚	亨	享	京					
220		供	侠	僑	兇	競	共	凶	協	匡
221	卿	叫	喬	境	峡	強	彊	怯	恐	恭
222	挟	教	橋	況	狂	狭	矯	胸	脅	興
223	蕎	郷	鏡	響	饗	驚	仰	凝	尭	暁
224	業	局	曲	極	玉	桐	粁	僅	勤	均
225	巾	錦	斤	欣	欽	琴	禁	禽	筋	緊
226	芹	菌	衿	襟	謹	近	金	吟	銀	
く										
226										九
227	倶	句	区	狗	玖	矩	苦	躯	駆	駈
228	駒	具	愚	虞	喰	空	偶	寓	遇	隅
229	串	櫛	釧	屑	屈					
230		掘	窟	沓	靴	轡	窪	熊	隈	粂
231	栗	繰	桑	鍬	勲	君	薫	訓	群	軍
232	郡									
け										
232		卦	袈	祁	係	傾	刑	兄	啓	圭
233	珪	型	契	形	径	恵	慶	慧	憩	掲
234	携	敬	景	桂	渓	畦	稽	系	経	継
235	繋	罫	茎	荊	蛍	計	詣	警	軽	頚
236	鶏	芸	迎	鯨	劇	戟	撃	激	隙	桁
237	傑	欠	決	潔	穴	結	血	訣	月	件
238	倹	倦	健	兼	券	剣	喧	圏	堅	嫌
239	建	憲	懸	拳	捲					
240		検	権	牽	犬	献	研	硯	絹	県

区点	区点4桁目									
1〜3桁目	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
241	肩	見	謙	賢	軒	遣	鍵	険	顕	験
242	鹸	元	原	厳	幻	弦	減	源	玄	現
243	絃	舷	言	諺	限					
						こ				
243						乎	個	古	呼	固
244	姑	孤	己	庫	弧	戸	故	枯	湖	狐
245	糊	袴	股	胡	菰	虎	誇	跨	鈷	雇
246	顧	鼓	五	互	伍	午	呉	吾	娯	後
247	御	悟	梧	檎	瑚	碁	語	誤	護	醐
248	乞	鯉	交	佼	侯	候	倖	光	公	功
249	効	勾	厚	口	向					
250		后	喉	坑	垢	好	孔	孝	宏	工
251	巧	巷	幸	広	庚	康	弘	恒	慌	抗
252	拘	控	攻	昂	晃	更	杭	校	梗	構
253	江	洪	浩	港	溝	甲	皇	硬	稿	糠
254	紅	紘	絞	綱	耕	考	肯	肱	腔	膏
255	航	荒	行	衡	講	貢	購	郊	酵	鉱
256	砿	鋼	閤	降	項	香	高	鴻	剛	劫
257	号	合	壕	拷	濠	豪	轟	麹	克	刻
258	告	国	穀	酷	鵠	黒	獄	漉	腰	甑
259	忽	惚	骨	狛	込					
260		此	頃	今	困	坤	墾	婚	恨	懇
261	昏	昆	根	梱	混	痕	紺	艮	魂	
						さ				
261										些
262	佐	叉	唆	嵯	左	差	査	沙	瑳	砂
263	詐	鎖	裟	坐	座	挫	債	催	再	最
264	哉	塞	妻	宰	彩	才	採	栽	歳	済
265	災	采	犀	砕	砦	祭	斎	細	菜	裁
266	載	際	剤	在	材	罪	財	冴	坂	阪
267	堺	榊	肴	咲	崎	埼	碕	鷺	作	削
268	咋	搾	昨	朔	柵	窄	策	索	錯	桜
269	鮭	笹	匙	冊	刷					
270		察	拶	撮	擦	札	殺	薩	雑	皐
271	鯖	捌	錆	鮫	皿	晒	三	傘	参	山
272	惨	撒	散	桟	燦	珊	産	算	纂	蚕
273	讃	賛	酸	餐	斬	暫	残			
						し				
273								仕	仔	伺
274	使	刺	司	史	嗣	四	士	始	姉	姿
275	子	屍	市	師	志	思	指	支	孜	斯
276	施	旨	枝	止	死	氏	獅	祉	私	糸
277	紙	紫	肢	脂	至	視	詞	詩	試	誌
278	諮	資	賜	雌	飼	歯	事	似	侍	児
279	字	寺	慈	持	時					
280		次	滋	治	爾	璽	痔	磁	示	而
281	耳	自	蒔	辞	汐	鹿	式	識	鴫	竺
282	軸	宍	雫	七	叱	執	失	嫉	室	悉
283	湿	漆	疾	質	実	蔀	篠	偲	柴	芝
284	屡	蕊	縞	舎	写	射	捨	赦	斜	煮
285	社	紗	者	謝	車	遮	蛇	邪	借	勺
286	尺	杓	灼	爵	酌	釈	錫	若	寂	弱
287	惹	主	取	守	手	朱	殊	狩	珠	種
288	腫	趣	酒	首	儒	受	呪	寿	授	樹
289	綬	需	囚	収	周					
290		宗	就	州	修	愁	拾	洲	秀	秋
291	終	繍	習	臭	舟	蒐	衆	襲	讐	蹴
292	輯	週	酋	酬	集	醜	什	住	充	十
293	従	戎	柔	汁	渋	獣	縦	重	銃	叔
294	夙	宿	淑	祝	縮	粛	塾	熟	出	術
295	述	俊	峻	春	瞬	竣	舜	駿	准	循
296	旬	楯	殉	淳	準	潤	盾	純	巡	遵
297	醇	順	処	初	所	暑	曙	渚	庶	緒
298	署	書	薯	藷	諸	助	叙	女	序	徐
299	恕	鋤	除	傷	償					
300		勝	匠	升	召	哨	商	唱	嘗	奨
301	妾	娼	宵	将	小	少	尚	庄	床	廠
302	彰	承	抄	招	掌	捷	昇	昌	昭	晶
303	松	梢	樟	樵	沼	消	渉	湘	焼	焦
304	照	症	省	硝	礁	祥	称	章	笑	粧
305	紹	肖	菖	蒋	蕉	衝	裳	訟	証	詔
306	詳	象	賞	醤	鉦	鍾	鐘	障	鞘	上
307	丈	丞	乗	冗	剰	城	場	壌	嬢	常
308	情	擾	条	杖	浄	状	畳	穣	蒸	譲

区点	区点4桁目									
1〜3桁目	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
309	醸	錠	嘱	埴	飾					
310		拭	植	殖	燭	織	職	色	触	食
311	蝕	辱	尻	伸	信	侵	唇	娠	寝	審
312	心	慎	振	新	晋	森	榛	浸	深	申
313	疹	真	神	秦	紳	臣	芯	薪	親	診
314	身	辛	進	針	震	人	仁	刃	塵	壬
315	尋	甚	尽	腎	訊	迅	陣	靭		
						す				
315									笥	諏
316	須	酢	図	厨	逗	吹	垂	帥	推	水
317	炊	睡	粋	翠	衰	遂	酔	錐	錘	随
318	瑞	髄	崇	嵩	数	枢	趨	雛	据	杉
319	椙	菅	頗	雀	裾					
320		澄	摺	寸						
						せ				
320					世	瀬	畝	是	凄	制
321	勢	姓	征	性	成	政	整	星	晴	棲
322	栖	正	清	牲	生	盛	精	聖	声	製
323	西	誠	誓	請	逝	醒	青	静	斉	税
324	脆	隻	席	惜	戚	斥	昔	析	石	積
325	籍	績	脊	責	赤	跡	蹟	碩	切	拙
326	接	摂	折	設	窃	節	説	雪	絶	舌
327	蝉	仙	先	千	占	宣	専	尖	川	戦
328	扇	撰	栓	栴	泉	浅	洗	染	潜	煎
329	煽	旋	穿	箭	線					
330		繊	羨	腺	舛	船	薦	詮	賎	践
331	選	遷	銭	銑	閃	鮮	前	善	漸	然
332	全	禅	繕	膳	糎					
						そ				
332						噌	塑	岨	措	曾
333	曽	楚	狙	疏	疎	礎	祖	租	粗	素
334	組	蘇	訴	阻	遡	鼠	僧	創	双	叢
335	倉	喪	壮	奏	爽	宋	層	匝	惣	想
336	捜	掃	挿	掻	操	早	曹	巣	槍	槽
337	漕	燥	争	痩	相	窓	糟	総	綜	聡
338	草	荘	葬	蒼	藻	装	走	送	遭	鎗
339	霜	騒	像	増	憎					
340		臓	蔵	贈	造	促	側	則	即	息
341	捉	束	測	足	速	俗	属	賊	族	続
342	卒	袖	其	揃	存	孫	尊	損	村	遜
						た				
343	他	多	太	汰	詑	唾	堕	妥	惰	打
344	柁	舵	楕	陀	駄	騨	体	堆	対	耐
345	岱	帯	待	怠	態	戴	替	泰	滞	胎
346	腿	苔	袋	貸	退	逮	隊	黛	鯛	代
347	台	大	第	醍	題	鷹	滝	瀧	卓	啄
348	宅	托	択	拓	沢	濯	琢	託	鐸	濁
349	諾	茸	凧	蛸	只					
350		叩	但	達	辰	奪	脱	巽	竪	辿
351	棚	谷	狸	鱈	樽	誰	丹	単	嘆	坦
352	担	探	旦	歎	淡	湛	炭	短	端	箪
353	綻	耽	胆	蛋	誕	鍛	団	壇	弾	断
354	暖	檀	段	男	談					
						ち				
354						値	知	地	弛	恥
355	智	池	痴	稚	置	致	蜘	遅	馳	築
356	畜	竹	筑	蓄	逐	秩	窒	茶	嫡	着
357	中	仲	宙	忠	抽	昼	柱	注	虫	衷
358	註	酎	鋳	駐	樗	瀦	猪	苧	著	貯
359	丁	兆	凋	喋	寵					
360		帖	帳	庁	弔	張	彫	徴	懲	挑
361	暢	朝	潮	牒	町	眺	聴	脹	腸	蝶
362	調	諜	超	跳	銚	長	頂	鳥	勅	捗
363	直	朕	沈	珍	賃	鎮	陳			
						つ				
363								津	墜	椎
364	槌	追	鎚	痛	通	塚	栂	掴	槻	佃
365	漬	柘	辻	蔦	綴	鍔	椿	潰	坪	壷
366	嬬	紬	爪	吊	釣	鶴				
						て				
366							亭	低	停	偵
367	剃	貞	呈	堤	定	帝	底	庭	廷	弟
368	悌	抵	挺	提	梯	汀	碇	禎	程	締
369	艇	訂	諦	蹄	逓					

区点	区点4桁目									
1〜3桁目	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
370		邸	鄭	釘	鼎	泥	摘	擢	敵	滴
371	的	笛	適	鏑	溺	哲	徹	撤	轍	迭
372	鉄	典	填	天	展	店	添	纏	甜	貼
373	転	顛	点	伝	殿	澱	田	電		
						と				
373									兎	吐
374	堵	塗	妬	屠	徒	斗	杜	渡	登	菟
375	賭	途	都	鍍	砥	砺	努	度	土	奴
376	怒	倒	党	冬	凍	刀	唐	塔	塘	套
377	宕	島	嶋	悼	投	搭	東	桃	梼	棟
378	盗	淘	湯	涛	灯	燈	当	痘	祷	等
379	答	筒	糖	統	到					
380		董	蕩	藤	討	謄	豆	踏	逃	透
381	鐙	陶	頭	騰	闘	働	動	同	堂	導
382	憧	撞	洞	瞳	童	胴	萄	道	銅	峠
383	鴇	匿	得	徳	涜	特	督	禿	篤	毒
384	独	読	栃	橡	凸	突	椴	届	鳶	苫
385	寅	酉	瀞	噸	屯	惇	敦	沌	豚	遁
386	頓	呑	曇	鈍						
						な				
386					奈	那	内	乍	凪	薙
387	謎	灘	捺	鍋	楢	馴	縄	畷	南	楠
388	軟	難	汝							
						に				
388				二	尼	弐	迩	匂	賑	肉
389	虹	廿	日	乳	入					
390		如	尿	韮	任	妊	忍	認		
						ぬ〜の				
390									濡	禰
391	祢	寧	葱	猫	熱	年	念	捻	撚	燃
392	粘	乃	廼	之	埜	嚢	悩	濃	納	能
393	脳	膿	農	覗	蚤					
						は				
393						巴	把	播	覇	杷
394	波	派	琶	破	婆	罵	芭	馬	俳	廃
395	拝	排	敗	杯	盃	牌	背	肺	輩	配
396	倍	培	媒	梅	楳	煤	狽	買	売	賠
397	陪	這	蝿	秤	矧	萩	伯	剥	博	拍
398	柏	泊	白	箔	粕	舶	薄	迫	曝	漠
399	爆	縛	莫	駁	麦					
400		函	箱	硲	箸	肇	筈	櫨	幡	肌
401	畑	畠	八	鉢	溌	発	醗	髪	伐	罰
402	抜	筏	閥	鳩	噺	塙	蛤	隼	伴	判
403	半	反	叛	帆	搬	斑	板	氾	汎	版
404	犯	班	畔	繁	般	藩	販	範	釆	煩
405	頒	飯	挽	晩	番	盤	磐	蕃	蛮	
						ひ				
405										匪
406	卑	否	妃	庇	彼	悲	扉	批	披	斐
407	比	泌	疲	皮	碑	秘	緋	罷	肥	被
408	誹	費	避	非	飛	樋	簸	備	尾	微
409	枇	毘	琵	眉	美					
410		鼻	柊	稗	匹	疋	髭	彦	膝	菱
411	肘	弼	必	畢	筆	逼	桧	姫	媛	紐
412	百	謬	俵	彪	標	氷	漂	瓢	票	表
413	評	豹	廟	描	病	秒	苗	錨	鋲	蒜
414	蛭	鰭	品	彬	斌	浜	瀕	貧	賓	頻
415	敏	瓶								
						ふ				
415			不	付	埠	夫	婦	富	冨	布
416	府	怖	扶	敷	斧	普	浮	父	符	腐
417	膚	芙	譜	負	賦	赴	阜	附	侮	撫
418	武	舞	葡	蕪	部	封	楓	風	葺	蕗
419	伏	副	復	幅	服					
420		福	腹	複	覆	淵	弗	払	沸	仏
421	物	鮒	分	吻	噴	墳	憤	扮	焚	奮
422	粉	糞	紛	雰	文	聞				
						へ				
422							丙	併	兵	塀
423	幣	平	弊	柄	並	蔽	閉	陛	米	頁
424	僻	壁	癖	碧	別	瞥	蔑	箆	偏	変
425	片	篇	編	辺	返	遍	便	勉	娩	弁
426	鞭									

区点	区点4桁目									
1〜3桁目	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ほ										
426		保	舗	鋪	圃	捕	歩	甫	補	輔
427	穂	募	墓	慕	戊	暮	母	簿	菩	倣
428	俸	包	呆	報	奉	宝	峰	峯	崩	庖
429	抱	捧	放	方	朋					
430		法	泡	烹	砲	縫	胞	芳	萌	蓬
431	蜂	褒	訪	豊	邦	鋒	飽	鳳	鵬	乏
432	亡	傍	剖	坊	妨	帽	忘	忙	房	暴
433	望	某	棒	冒	紡	肪	膨	謀	貌	貿
434	鉾	防	吠	頬	北	僕	卜	墨	撲	朴
435	牧	睦	穆	釦	勃	没	殆	堀	幌	奔
436	本	翻	凡	盆						
ま										
436					摩	磨	魔	麻	埋	妹
437	昧	枚	毎	哩	槙	幕	膜	枕	鮪	柾
438	鱒	桝	亦	俣	又	抹	末	沫	迄	侭
439	繭	麿	万	慢	満					
440		漫	蔓							
み										
440				味	未	魅	巳	箕	岬	密
441	蜜	湊	蓑	稔	脈	妙	粍	民	眠	
む										
441										務
442	夢	無	牟	矛	霧	鵡	椋	婿	娘	
め										
442										冥
443	名	命	明	盟	迷	銘	鳴	姪	牝	滅
444	免	棉	綿	緬	面	麺				
も										
444							摸	模	茂	妄
445	孟	毛	猛	盲	網	耗	蒙	儲	木	黙
446	目	杢	勿	餅	尤	戻	籾	貰	問	悶
447	紋	門	匁							
や										
447				也	冶	夜	爺	耶	野	弥
448	矢	厄	役	約	薬	訳	躍	靖	柳	薮
449	鑓									
ゆ										
449		愉	愈	油	癒					
450		諭	輸	唯	佑	優	勇	友	宥	幽
451	悠	憂	揖	有	柚	湧	涌	猶	猷	由
452	祐	裕	誘	遊	邑	郵	雄	融	夕	
よ										
452										予
453	余	与	誉	輿	預	傭	幼	妖	容	庸
454	揚	揺	擁	曜	楊	様	洋	溶	熔	用
455	窯	羊	耀	葉	蓉	要	謡	踊	遥	陽
456	養	慾	抑	欲	沃	浴	翌	翼	淀	
ら										
456										羅
457	螺	裸	来	莱	頼	雷	洛	絡	落	酪
458	乱	卵	嵐	欄	濫	藍	蘭	覧		
り										
458									利	吏
459	履	李	梨	理	璃					
460		痢	裏	裡	里	離	陸	律	率	立
461	葎	掠	略	劉	流	溜	琉	留	硫	粒
462	隆	竜	龍	侶	慮	旅	虜	了	亮	僚
463	両	凌	寮	料	梁	涼	猟	療	瞭	稜
464	糧	良	諒	遼	量	陵	領	力	緑	倫
465	厘	林	淋	燐	琳	臨	輪	隣	鱗	麟
る〜れ										
466	瑠	塁	涙	累	類	令	伶	例	冷	励
467	嶺	怜	玲	礼	苓	鈴	隷	零	霊	麗
468	齢	暦	歴	列	劣	烈	裂	廉	恋	憐
469	漣	煉	簾	練	聯					
470		蓮	連	錬						
ろ										
470					呂	魯	櫓	炉	賂	路
471	露	労	婁	廊	弄	朗	楼	榔	浪	漏
472	牢	狼	篭	老	聾	蝋	郎	六	麓	禄
473	肋	録	論							
わ										
473				倭	和	話	歪	賄	脇	惑

区点	区点4桁目									
1〜3桁目	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
474	枠	鷲	亙	亘	鰐	詫	藁	蕨	椀	湾
475	碗	腕								
476										
477										
478										
479										
480		弌	丐	丕	个	丱	丶	丼	丿	乂
481	乖	乘	亂	亅	豫	亊	舒	弍	于	亞
482	亟	亠	亢	亰	亳	亶	从	仍	仄	仆
483	仂	仗	仞	仭	仟	价	伉	佚	估	佛
484	佝	佗	佇	佶	侈	侏	侘	佻	佩	佰
485	侑	佯	來	侖	儘	俔	俟	俎	俘	俛
486	俑	俚	俐	俤	俥	倚	倨	倔	倪	倥
487	倅	伜	俶	倡	倩	倬	俾	俯	們	倆
488	偃	假	會	偕	偐	偈	做	偖	偬	偸
489	傀	傚	傅	傴	傲					
490		僉	僊	傳	僂	僖	僞	僥	僭	僣
491	僮	價	僵	儉	儁	儂	儖	儕	儔	儚
492	儡	儺	儷	儼	儻	儿	兀	兒	兌	兔
493	兢	竸	兩	兪	兮	冀	冂	囘	册	冉
494	冏	冑	冓	冕	冖	冤	冦	冢	冩	冪
495	冫	决	冱	冲	冰	况	冽	凅	凉	凛
496	几	處	凩	凭	凰	凵	凾	刄	刋	刔
497	刎	刧	刪	刮	刳	刹	剏	剄	剋	剌
498	剞	剔	剪	剴	剩	剳	剿	剽	劍	劔
499	劒	剱	劈	劑	辨					
500		辧	劬	劭	劼	劵	勁	勍	勗	勞
501	勣	勦	飭	勠	勳	勵	勸	勹	匆	匈
502	甸	匍	匐	匏	匕	匚	匣	匯	匱	匳
503	匸	區	卆	卅	丗	卉	卍	凖	卞	卩
504	卮	夘	卻	卷	厂	厖	厠	厦	厥	厮
505	厰	厶	參	簒	雙	叟	曼	燮	叮	叨
506	叭	叺	吁	吽	呀	听	吭	吼	吮	吶
507	吩	吝	呎	咏	呵	咎	呟	呱	呷	呰
508	咒	呻	咀	呶	咄	咐	咆	哇	咢	咸
509	咥	咬	哄	哈	咨					
510		咫	哂	咤	咾	咼	哘	哥	哦	唏
511	唔	哽	哮	哭	哺	哢	唹	啀	啣	啌
512	售	啜	啅	啖	啗	唸	唳	啝	喙	喀
513	咯	喊	喟	啻	啾	喘	喞	單	啼	喃
514	喩	喇	喨	嗚	嗅	嗟	嗄	嗜	嗤	嗔
515	嘔	嗷	嘖	嗾	嗽	嘛	嗹	噎	噐	營
516	嘴	嘶	嘲	嘸	噫	噤	嘯	噬	噪	嚆
517	嚀	嚊	嚠	嚔	嚏	嚥	嚮	嚶	嚴	囂
518	嚼	囁	囃	囀	囈	囎	囑	囓	囗	囮
519	囹	圀	囿	圄	圉					
520		圈	國	圍	圓	團	圖	嗇	圜	圦
521	圷	圸	坎	圻	址	坏	坩	埀	垈	坡
522	坿	垉	垓	垠	垳	垤	垪	垰	埃	埆
523	埔	埒	埓	堊	埖	埣	堋	堙	堝	塲
524	堡	塢	塋	塰	毀	塒	堽	塹	墅	墹
525	墟	墫	墺	壞	墻	墸	墮	壅	壓	壑
526	壗	壙	壘	壥	壜	壤	壟	壯	壺	壹
527	壻	壼	壽	夂	夊	夐	夛	梦	夥	夬
528	夭	夲	夸	夾	竒	奕	奐	奎	奚	奘
529	奢	奠	奧	奬	奩					
530		奸	妁	妝	佞	侫	妣	妲	姆	姨
531	姜	妍	姙	姚	娥	娟	娑	娜	娉	娚
532	婀	婬	婉	娵	娶	婢	婪	媚	媼	媾
533	嫋	嫂	媽	嫣	嫗	嫦	嫩	嫖	嫺	嫻
534	嬌	嬋	嬖	嬲	嫐	嬪	嬶	嬾	孃	孅
535	孀	孑	孕	孚	孛	孥	孩	孰	孳	孵
536	學	斈	孺	宀	它	宦	宸	寃	寇	寉
537	寔	寐	寤	實	寢	寞	寥	寫	寰	寶
538	寳	尅	將	專	對	尓	尠	尢	尨	尸
539	尹	屁	屆	屎	屓					
540		屐	屏	孱	屬	屮	乢	屶	屹	岌
541	岑	岔	妛	岫	岻	岶	岼	岷	峅	岾
542	峇	峙	峩	峽	峺	峭	嶌	峪	崋	崕
543	崗	嵜	崟	崛	崑	崔	崢	崚	崙	崘
544	嵌	嵒	嵎	嵋	嵬	嵳	嵶	嶇	嶄	嶂
545	嶢	嶝	嶬	嶮	嶽	嶐	嶷	嶼	巉	巍
546	巓	巒	巖	巛	巫	已	巵	帋	帚	帙
547	帑	帛	帶	帷	幄	幃	幀	幎	幗	幔

区点	区点4桁目									
1〜3桁目	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
548	幟	幢	幤	幇	幵	并	幺	麼	广	庠
549	廁	廂	廈	廐	廏					
550		廖	廣	廝	廚	廛	廢	廡	廨	廩
551	廬	廱	廳	廰	廴	廸	廾	弃	弉	彝
552	彜	弋	弑	弖	弩	弭	弸	彁	彈	彌
553	彎	弯	彑	彖	彗	彙	彡	彭	彳	彷
554	徃	徂	彿	徊	很	徑	徇	從	徙	徘
555	徠	徨	徭	徼	忖	忻	忤	忸	忱	忝
556	悳	忿	怡	恠	怙	怐	怩	怎	怱	怛
557	怕	怫	怦	怏	怺	恚	恁	恪	恷	恟
558	恊	恆	恍	恣	恃	恤	恂	恬	恫	恙
559	悁	悍	惧	悃	悚					
560		悄	悛	悖	悗	悒	悧	悋	惡	悸
561	惠	惓	悴	忰	悽	惆	悵	惘	慍	愕
562	愆	惶	惷	愀	惴	惺	愃	愡	惻	惱
563	愍	愎	慇	愾	愨	愧	慊	愿	愼	愬
564	愴	愽	慂	慄	慳	慷	慘	慙	慚	慫
565	慴	慯	慥	慱	慟	慝	慓	慵	憙	憖
566	憇	憬	憔	憚	憊	憑	憫	憮	懌	懊
567	應	懷	懈	懃	懆	憺	懋	罹	懍	懦
568	懣	懶	懺	懴	懿	懽	懼	懾	戀	戈
569	戉	戍	戌	戔	戛					
570		戞	戡	截	戮	戰	戲	戳	扁	扎
571	扞	扣	扛	扠	扨	扼	抂	抉	找	抒
572	抓	抖	拔	抃	抔	拗	拑	抻	拏	拿
573	拆	擔	拈	拜	拌	拊	拂	拇	抛	拉
574	挌	拮	拱	挧	挂	挈	拯	拵	捐	挾
575	捍	搜	捏	掖	掎	掀	掫	捶	掣	掏
576	掉	掟	掵	捫	捩	掾	揩	揀	揆	揣
577	揉	插	揶	揄	搖	搴	搆	搓	搦	搶
578	攝	搗	搨	搏	摧	摯	摶	摎	攪	撕
579	撓	撥	撩	撈	撼					
580		據	擒	擅	擇	撻	擘	擂	擱	擧
581	舉	擠	擡	抬	擣	擯	攬	擶	擴	擲
582	擺	攀	擽	攘	攜	攅	攤	攣	攫	攴
583	攵	攷	收	攸	畋	效	敖	敕	敍	敘
584	敞	敝	敲	數	斂	斃	變	斛	斟	斫
585	斷	旃	旆	旁	旄	旌	旒	旛	旙	无
586	旡	旱	杲	昊	昃	旻	杳	昵	昶	昴
587	昜	晏	晄	晉	晁	晞	晝	晤	晧	晨
588	晟	晢	晰	暃	暈	暎	暉	暄	暘	暝
589	曁	暹	曉	暾	暼					
590		曄	暸	曖	曚	曠	昿	曦	曩	曰
591	曵	曷	朏	朖	朞	朦	朧	霸	朮	朿
592	朶	杁	朸	朷	杆	杞	杠	杙	杣	杤
593	枉	杰	枩	杼	杪	枌	枋	枦	枡	枅
594	枷	柯	枴	柬	枳	柩	枸	柤	柞	柝
595	柢	柮	枹	柎	柆	柧	檜	栞	框	栩
596	桀	桍	栲	桎	梳	栫	桙	档	桷	桿
597	梟	梏	梭	梔	條	梛	梃	檮	梹	桴
598	梵	梠	梺	椏	梍	桾	椁	棊	椈	棘
599	椢	椦	棡	椌	棍					
600		棔	棧	棕	椶	椒	椄	棗	棣	椥
601	棹	棠	棯	椨	椪	椚	椣	椡	棆	楹
602	楷	楜	楸	楫	楔	楾	楮	椹	楴	椽
603	楙	椰	楡	楞	楝	榁	楪	榲	榮	槐
604	榿	槁	槓	榾	槎	寨	槊	槝	榻	槃
605	榧	樮	榑	榠	榜	榕	榴	槞	槨	樂
606	樛	槿	權	槹	槲	槧	樅	榱	樞	槭
607	樔	槫	樊	樒	櫁	樣	樓	橄	樌	橲
608	樶	橸	橇	橢	橙	橦	橈	樸	樢	檐
609	檍	檠	檄	檢	檣					
610		檗	蘗	檻	櫃	櫂	檸	檳	檬	櫞
611	櫑	櫟	檪	櫚	櫪	櫻	欅	蘖	櫺	欒
612	欖	鬱	欟	欸	欷	盜	欹	飮	歇	歃
613	歉	歐	歙	歔	歛	歟	歡	歸	歹	歿
614	殀	殄	殃	殍	殘	殕	殞	殤	殪	殫
615	殯	殲	殱	殳	殷	殼	毆	毋	毓	毟
616	毬	毫	毳	毯	麾	氈	氓	气	氛	氤
617	氣	汞	汕	汢	汪	沂	沍	沚	沁	沛
618	汾	汨	汳	沒	沐	泄	泱	泓	沽	泗
619	泅	泝	沮	沱	沾					
620		沺	泛	泯	泙	泪	洟	衍	洶	洫
621	洽	洸	洙	洵	洳	洒	洌	浣	涓	浤

区点 1〜3桁目	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
622	浚	浹	浙	涎	涕	濤	涅	淹	渕	渊
623	涵	淇	淦	涸	淆	淬	淞	淌	淨	淒
624	淅	淺	淙	淤	淕	淪	淮	渭	湮	渮
625	渙	湲	湟	渾	渣	湫	渫	湶	湍	渟
626	湃	渺	湎	渤	滿	渝	游	溂	溪	溘
627	滉	溷	滓	溽	溯	滄	溲	滔	滕	溏
628	溥	滂	溟	潁	漑	灌	滬	滸	滾	漿
629	滲	漱	滯	漲	滌					
630		漾	漓	滷	澆	潺	潸	澁	澀	潯
631	潛	濳	潭	澂	潼	潘	澎	澑	濂	潦
632	澳	澣	澡	澤	澹	濆	澪	濟	濕	濬
633	濔	濘	濱	濮	濛	瀉	瀋	濺	瀑	瀁
634	瀏	濾	瀛	瀚	潴	瀝	瀘	瀟	瀰	瀾
635	瀲	灑	灣	炙	炒	炯	烱	炬	炸	炳
636	炮	烟	烋	烝	烙	焉	烽	焜	焙	煥
637	煕	熈	煦	煢	煌	煖	煬	熏	燻	熄
638	熕	熨	熬	燗	熹	熾	燒	燉	燔	燎
639	燠	燬	燧	燵	燼					
640		燹	燿	爍	爐	爛	爨	爭	爬	爰
641	爲	爻	爼	爿	牀	牆	牋	牘	牴	牾
642	犂	犁	犇	犒	犖	犢	犧	犹	犲	狃
643	狆	狄	狎	狒	狢	狠	狡	狹	狷	倏
644	猗	猊	猜	猖	猝	猴	猯	猩	猥	猾
645	獎	獏	默	獗	獪	獨	獰	獸	獵	獻
646	獺	珈	玳	珎	玻	珀	珥	珮	珞	璢
647	琅	瑯	琥	珸	琲	琺	瑕	琿	瑟	瑙
648	瑁	瑜	瑩	瑰	瑣	瑪	瑶	瑾	璋	璞
649	璧	瓊	瓏	瓔	珱					
650		瓠	瓣	瓧	瓩	瓮	瓲	瓰	瓱	瓸
651	瓷	甄	甃	甅	甌	甎	甍	甕	甓	甞
652	甦	甬	甼	畄	畍	畊	畉	畛	畆	畚
653	畩	畤	畧	畫	畭	畸	當	疆	疇	畴
654	疊	疉	疂	疔	疚	疝	疥	疣	痂	疳
655	痃	疵	疽	疸	疼	疱	痍	痊	痒	痙
656	痣	痞	痾	痿	痼	瘁	痰	痺	痲	痳
657	瘋	瘍	瘉	瘟	瘧	瘠	瘡	瘢	瘤	瘴
658	瘰	瘻	癇	癈	癆	癜	癘	癡	癢	癨
659	癩	癪	癧	癬	癰					
660		癲	癶	癸	發	皀	皃	皈	皋	皎
661	皖	皓	皙	皚	皰	皴	皸	皹	皺	盂
662	盍	盖	盒	盞	盡	盥	盧	盪	蘯	盻
663	眈	眇	眄	眩	眤	眞	眥	眦	眛	眷
664	眸	睇	睚	睨	睫	睛	睥	睿	睾	睹
665	瞎	瞋	瞑	瞠	瞞	瞰	瞶	瞹	瞿	瞼
666	瞽	瞻	矇	矍	矗	矚	矜	矣	矮	矼
667	砌	砒	礦	砠	礪	硅	碎	硴	碆	硼
668	碚	碌	碣	碵	碪	碯	磑	磆	磋	磔
669	碾	碼	磅	磊	磬					
670		磧	磚	磽	磴	礇	礒	礑	礙	礬
671	礫	祀	祠	祗	祟	祚	祕	祓	祺	祿
672	禊	禝	禧	齋	禪	禮	禳	禹	禺	秉
673	秕	秧	秬	秡	秣	稈	稍	稘	稙	稠
674	稟	禀	稱	稻	稾	稷	穃	穗	穉	穡
675	穢	穩	龝	穰	穹	穽	窈	窗	窕	窘
676	窖	窩	竈	窰	窶	竅	竄	窿	邃	竇
677	竊	竍	竏	竕	竓	站	竚	竝	竡	竢
678	竦	竭	竰	笂	笏	笊	笆	笳	笘	笙
679	笞	笵	笨	笶	筐					
680		筺	笄	筍	笋	筌	筅	筵	筥	筴
681	筧	筰	筱	筬	筮	箝	箘	箟	箍	箜
682	箚	箋	箒	箏	筝	箙	篋	篁	篌	篏
683	箴	篆	篝	篩	簑	簔	篦	篥	籠	簀
684	簇	簓	篳	篷	簗	簍	篶	簣	簧	簪
685	簟	簷	簫	簽	籌	籃	籔	籏	籀	籐
686	籘	籟	籤	籖	籥	籬	籵	粃	粐	粤
687	粭	粢	粫	粡	粨	粳	粲	粱	粮	粹
688	粽	糀	糅	糂	糘	糒	糜	糢	鬻	糯
689	糲	糴	糶	糺	紆					
690		紂	紜	紕	紊	絅	絋	紮	紲	紿
691	紵	絆	絳	絖	絎	絲	絨	絮	絏	絣
692	經	綉	絛	綏	絽	綛	綺	綮	綣	綵
693	緇	綽	綫	總	綢	綯	緜	綸	綟	綰
694	緘	緝	緤	緞	緻	緲	緡	縅	縊	縣
695	縡	縒	縱	縟	縉	縋	縢	繆	繦	縻
696	縵	縹	繃	縷	縲	縺	繧	繝	繖	繞
697	繙	繚	繹	繪	繩	繼	繻	纃	緕	繽
698	辮	繿	纈	纉	續	纒	纐	纓	纔	纖
699	纎	纛	纜	缸	缺					
700		罅	罌	罍	罎	罐	网	罕	罔	罘
701	罟	罠	罨	罩	罧	罸	羂	羆	羃	羈
702	羇	羌	羔	羞	羝	羚	羣	羯	羲	羹
703	羮	羶	羸	譱	翅	翆	翊	翕	翔	翡
704	翦	翩	翳	翹	飜	耆	耄	耋	耒	耘
705	耙	耜	耡	耨	耿	耻	聊	聆	聒	聘
706	聚	聟	聢	聨	聳	聲	聰	聶	聹	聽
707	聿	肄	肆	肅	肛	肓	肚	肭	冐	肬
708	胛	胥	胙	胝	胄	胚	胖	脉	胯	胱
709	脛	脩	脣	脯	腋					
710		隋	腆	脾	腓	腑	胼	腱	腮	腥
711	腦	腴	膃	膈	膊	膀	膂	膠	膕	膤
712	膣	腟	膓	膩	膰	膵	膾	膸	膽	臀
713	臂	膺	臉	臍	臑	臙	臘	臈	臚	臟
714	臠	臧	臺	臻	臾	舁	舂	舅	與	舊
715	舍	舐	舖	舩	舫	舸	舳	艀	艙	艘
716	艝	艚	艟	艤	艢	艨	艪	艫	舮	艱
717	艷	艸	艾	芍	芒	芫	芟	芻	芬	苡
718	苣	苟	苒	苴	苳	苺	莓	范	苻	苹
719	苞	茆	苜	茉	苙					
720		茵	茴	茖	茲	茱	荀	茹	荐	荅
721	茯	茫	茗	茘	莅	莚	莪	莟	莢	莖
722	茣	莎	莇	莊	荼	莵	荳	荵	莠	莉
723	莨	菴	萓	菫	菎	菽	萃	菘	萋	菁
724	菷	萇	菠	菲	萍	萢	萠	莽	萸	蔆
725	菻	葭	萪	萼	蕚	蒄	葷	葫	蒭	葮
726	蒂	葩	葆	萬	葯	葹	萵	蓊	葢	蒹
727	蒿	蒟	蓙	蓍	蒻	蓚	蓐	蓁	蓆	蓖
728	蒡	蔡	蓿	蓴	蔗	蔘	蔬	蔟	蔕	蔔
729	蓼	蕀	蕣	蕘	蕈					
730		蕁	蘂	蕋	蕕	薀	薤	薈	薑	薊
731	薨	蕭	薔	薛	藪	薇	薜	蕷	蕾	薐
732	藉	薺	藏	薹	藐	藕	藝	藥	藜	藹
733	蘊	蘓	蘋	藾	藺	蘆	蘢	蘚	蘰	蘿
734	虍	乕	虔	號	虧	虱	蚓	蚣	蚩	蚪
735	蚋	蚌	蚶	蚯	蛄	蛆	蚰	蛉	蠣	蚫
736	蛔	蛞	蛩	蛬	蛟	蛛	蛯	蜒	蜆	蜈
737	蜀	蜃	蛻	蜑	蜉	蜍	蛹	蜊	蜴	蜿
738	蜷	蜻	蜥	蜩	蜚	蝠	蝟	蝸	蝌	蝎
739	蝴	蝗	蝨	蝮	蝙					
740		蝓	蝣	蝪	蠅	螢	螟	螂	螯	蟋
741	螽	蟀	蟐	雖	螫	蟄	螳	蟇	蟆	螻
742	蟯	蟲	蟠	蠏	蠍	蟾	蟶	蟷	蠎	蟒
743	蠑	蠖	蠕	蠢	蠡	蠱	蠶	蠹	蠧	蠻
744	衄	衂	衒	衙	衞	衢	衫	袁	衾	袞
745	衵	衽	袵	衲	袂	袗	袒	袮	袙	袢
746	袍	袤	袰	袿	袱	裃	裄	裔	裘	裙
747	裝	裹	褂	裼	裴	裨	裲	褄	褌	褊
748	褓	襃	褞	褥	褪	褫	襁	襄	褻	褶
749	褸	襌	褝	襠	襞					
750		襦	襤	襭	襪	襯	襴	襷	襾	覃
751	覈	覊	覓	覘	覡	覩	覦	覬	覯	覲
752	覺	覽	覿	觀	觚	觜	觝	觧	觴	觸
753	訃	訖	訐	訌	訛	訝	訥	訶	詁	詛
754	詒	詆	詈	詼	詭	詬	詢	誅	誂	誄
755	誨	誡	誑	誥	誦	誚	誣	諄	諍	諂
756	諚	諫	諳	諧	諤	諱	謔	諠	諢	諷
757	諞	諛	謌	謇	謚	諡	謖	謐	謗	謠
758	謳	鞫	謦	謫	謾	謨	譁	譌	譏	譎
759	證	譖	譛	譚	譫					
760		譟	譬	譯	譴	譽	讀	讌	讎	讒
761	讓	讖	讙	讚	谺	豁	谿	豈	豌	豎
762	豐	豕	豢	豬	豸	豺	貂	貉	貅	貊
763	貍	貎	貔	豼	貘	戝	貭	貪	貽	貲
764	貳	貮	貶	賈	賁	賤	賣	賚	賽	賺
765	賻	贄	贅	贊	贇	贏	贍	贐	齎	贓
766	賍	贔	贖	赧	赭	赱	赳	趁	趙	跂
767	趾	趺	跏	跚	跖	跌	跛	跋	跪	跫
768	跟	跣	跼	踈	踉	跿	踝	踞	踐	踟
769	蹂	踵	踰	踴	蹊					
770		蹇	蹉	蹌	蹐	蹈	蹙	蹤	蹠	踪
771	蹣	蹕	蹶	蹲	蹼	躁	躇	躅	躄	躋
772	躊	躓	躑	躔	躙	躪	躡	躬	躰	軆
773	躱	躾	軅	軈	軋	軛	軣	軼	軻	軫
774	軾	輊	輅	輕	輒	輙	輓	輜	輟	輛
775	輌	輦	輳	輻	輹	轅	轂	輾	轌	轉
776	轆	轎	轗	轜	轢	轣	轤	辜	辟	辣
777	辭	辯	辷	迚	迥	迢	迪	迯	邇	迴
778	逅	迹	迺	逑	逕	逡	逍	逞	逖	逋
779	逧	逶	逵	逹	迸					
780		遏	遐	遑	遒	逎	遉	逾	遖	遘
781	遞	遨	遯	遶	隨	遲	邂	遽	邁	邀
782	邊	邉	邏	邨	邯	邱	邵	郢	郤	扈
783	郛	鄂	鄒	鄙	鄲	鄰	酊	酖	酘	酣
784	酥	酩	酳	酲	醋	醉	醂	醢	醫	醯
785	醪	醵	醴	醺	釀	釁	釉	釋	釐	釖
786	釟	釡	釛	釼	釵	釶	鈞	釿	鈔	鈬
787	鈕	鈑	鉞	鉗	鉅	鉉	鉤	鉈	銕	鈿
788	鉋	鉐	銜	銖	銓	銛	鉚	鋏	銹	銷
789	鋩	錏	鋺	鍄	錮					
790		錙	錢	錚	錣	錺	錵	錻	鍜	鍠
791	鍼	鍮	鍖	鎰	鎬	鎭	鎔	鎹	鏖	鏗
792	鏨	鏥	鏘	鏃	鏝	鏐	鏈	鏤	鐚	鐔
793	鐓	鐃	鐇	鐐	鐶	鐫	鐵	鐡	鐺	鑁
794	鑒	鑄	鑛	鑠	鑢	鑞	鑪	鈩	鑰	鑵
795	鑷	鑽	鑚	鑼	鑾	钁	鑿	閂	閇	閊
796	閔	閖	閘	閙	閠	閨	閧	閭	閼	閻
797	閹	閾	闊	濶	闃	闍	闌	闕	闔	闖
798	關	闡	闥	闢	阡	阨	阮	阯	陂	陌
799	陏	陋	陷	陜	陞					
800		陝	陟	陦	陲	陬	隍	隘	隕	隗
801	險	隧	隱	隲	隰	隴	隶	隸	隹	雎
802	雋	雉	雍	襍	雜	霍	雕	雹	霄	霆
803	霈	霓	霎	霑	霏	霖	霙	霤	霪	霰
804	霹	霽	霾	靄	靆	靈	靂	靉	靜	靠
805	靤	靦	靨	勒	靫	靱	靹	鞅	靼	鞁
806	靺	鞆	鞋	鞏	鞐	鞜	鞨	鞦	鞣	鞳
807	鞴	韃	韆	韈	韋	韜	韭	齏	韲	竟
808	韶	韵	頏	頌	頸	頤	頡	頷	頽	顆
809	顏	顋	顫	顯	顰					
810		顱	顴	顳	颪	颯	颱	颶	飄	飃
811	飆	飩	飫	餃	餉	餒	餔	餘	餡	餝
812	餞	餤	餠	餬	餮	餽	餾	饂	饉	饅
813	饐	饋	饑	饒	饌	饕	馗	馘	馥	馭
814	馮	馼	駟	駛	駝	駘	駑	駭	駮	駱
815	駲	駻	駸	騁	騏	騅	駢	騙	騫	騷
816	驅	驂	驀	驃	騾	驕	驍	驛	驗	驟
817	驢	驥	驤	驩	驫	驪	骭	骰	骼	髀
818	髏	髑	髓	體	髞	髟	髢	髣	髦	髯
819	髫	髮	髴	髱	髷					
820		髻	鬆	鬘	鬚	鬟	鬢	鬣	鬥	鬧
821	鬨	鬩	鬪	鬮	鬯	鬲	魄	魃	魏	魍
822	魎	魑	魘	魴	鮓	鮃	鮑	鮖	鮗	鮟
823	鮠	鮨	鮴	鯀	鯊	鮹	鯆	鯏	鯑	鯒
824	鯣	鯢	鯤	鯔	鯡	鰺	鯲	鯱	鯰	鰕
825	鰔	鰉	鰓	鰌	鰆	鰈	鰒	鰊	鰄	鰮
826	鰛	鰥	鰤	鰡	鰰	鱇	鰲	鱆	鰾	鱚
827	鱠	鱧	鱶	鱸	鳧	鳬	鳰	鴉	鴈	鳫
828	鴃	鴆	鴪	鴦	鶯	鴣	鴟	鵄	鴕	鴒
829	鵁	鴿	鴾	鵆	鵈					
830		鵝	鵞	鵤	鵑	鵐	鵙	鵲	鶉	鶇
831	鶫	鵯	鵺	鶚	鶤	鶩	鶲	鷄	鷁	鶻
832	鶸	鶺	鷆	鷏	鷂	鷙	鷓	鷸	鷦	鷭
833	鷯	鷽	鸚	鸛	鸞	鹵	鹹	鹽	麁	麈
834	麋	麌	麒	麕	麑	麝	麥	麩	麸	麪
835	麭	靡	黌	黎	黏	黐	黔	黜	點	黝
836	黠	黥	黨	黯	黴	黶	黷	黹	黻	黼
837	黽	鼇	鼈	皷	鼕	鼡	鼬	鼾	齊	齒
838	齔	齣	齟	齠	齡	齦	齧	齬	齪	齷
839	齲	齶	龕	龜	龠					
840		堯	槇	遙	瑤	凜	熙			